

**(仮称)犬山市協働のまちづくり基本条例検討のための
市民意識調査**

平成30年3月

犬山市 企画広報課

目 次

序 調査の概要	1
A あなた（回答者）ご自身や家族構成などについて	2
性別	2
年齢	3
職業	4
地区	5
小学校区	6
世帯のタイプ	7
居住年数	8
B 地域活動について	9
町内会への加入	9
町内会に加入していない理由	11
地域活動への関わり方	12
地域活動の必要性	17
地域活動はうまくいっているか	19
地域活動の改善点	21
今後重要になる地域活動	23
C 市民活動（ボランティア・NPO等）への参加状況・参加意向について	25
ボランティア・NPO等への関わり	25
これまでに参加した活動と今後行いたい活動	28
地域活動に参加するための条件	29
D 社会貢献意識や地域での付き合いの程度などについて	30
社会貢献の意思	30
社会貢献の具体的内容	33
現在の地域での付き合いの程度	34
望ましい地域での付き合いの程度	37
E 自治や市民活動に関する条例等の認知度について	40
犬山市議会基本条例の認知度	40
犬山市市民活動の支援に関する条例の認知度	43
「協働」という言葉の認知度	46
類似条例の認知度	49
（仮称）犬山市協働のまちづくり基本条例の意義	52
条例に定める項目として重要な事項	55
F 市政への市民の意見の反映状況（市民参加）や市民協働について	58
市民意見の反映	58
施策に意見を反映させる方法	60
市民参加の機会	62
市政への参加方法	64
市政への今後の参加方法	66
協働によるまちづくりのために必要な施策・取組み	68
G 市政に関する情報発信について	71
市政情報を得るための手段	71
広報犬山の今後のあり方	76
情報を受け取るための機器の保有状況	77

序 調査の概要

(1) 調査の目的

本市では、まちづくりや地域課題の解決に向けた取組みに市民が様々な立場で参加し、活躍しやすくなるように、基本的な考え方や市民・議会・行政の役割・責務、協働のしくみやルールなどを定める「(仮称)犬山市協働のまちづくり基本条例」の検討を進めています。

本調査は、本市の地域活動や市民活動、社会貢献意識等に関する現状を分析し、条例検討の基礎資料とすることを目的に実施するものです。

(2) 調査対象及び調査方法

①調査対象

- ・住民基本台帳から無作為に選んだ18歳以上の市民2,000人

②調査方法

- ・調査票を郵送により配布・回収

③調査実施時期

- ・市民への配布は平成29年9月4日(月)付けで郵送。
- ・回収は9月19日(火)を回答締切日として実施。なお、締切日以降に返送されてきた調査票についても可能な限り集計に加えています。

(3) 調査票の回収状況

- ・回収状況は以下のとおり。

表-1 回収状況

A: 配布数	B: 有効回収数	C: 有効回収率 (%) $C=B/A$
2,000	1,188	59.4%

(4) 調査結果の表示

- ・原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフや表を用いて表現しています。基数となる実数(各設問の回答者数)はnとして掲載し、各グラフの構成比(%)はnを母数とした割合を示しています。
- ・図中の構成比(%)は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入しています。その関係で合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・一部のグラフにおいては、「回答なし」は省略してあります。また、設問のカテゴリー(選択肢)などの表現は、一部省略してある場合があります。

A あなた（回答者）ご自身や家族構成などについて

性別

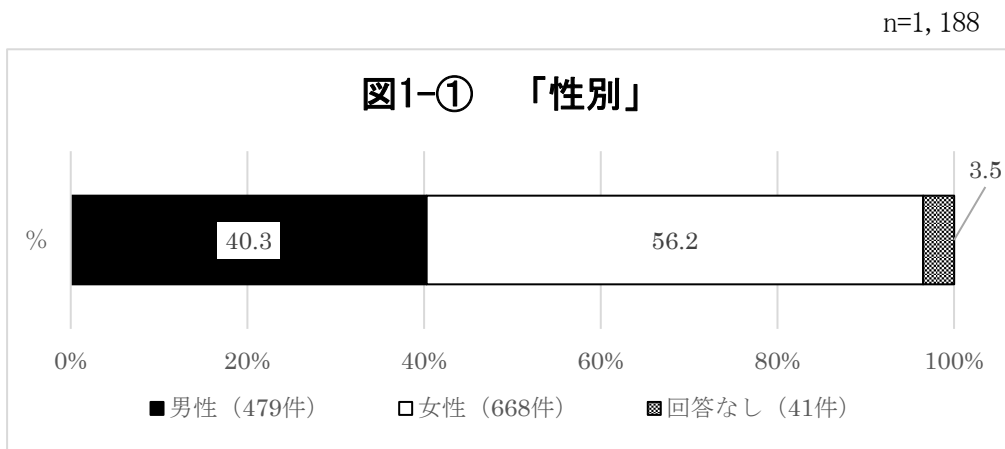
問1-1 性別（どちらかに○印）

要点

女性からの回答が男性からの回答を15ポイント以上も上回っています。

全体

○性別については、「女性」が56.2%、「男性」が40.3%で、女性からの回答が男性のそれを15.9ポイント上回っています（図1-①）。



年齢

問1-2 平成29年9月1日現在の年齢（○は1つだけ）

要点

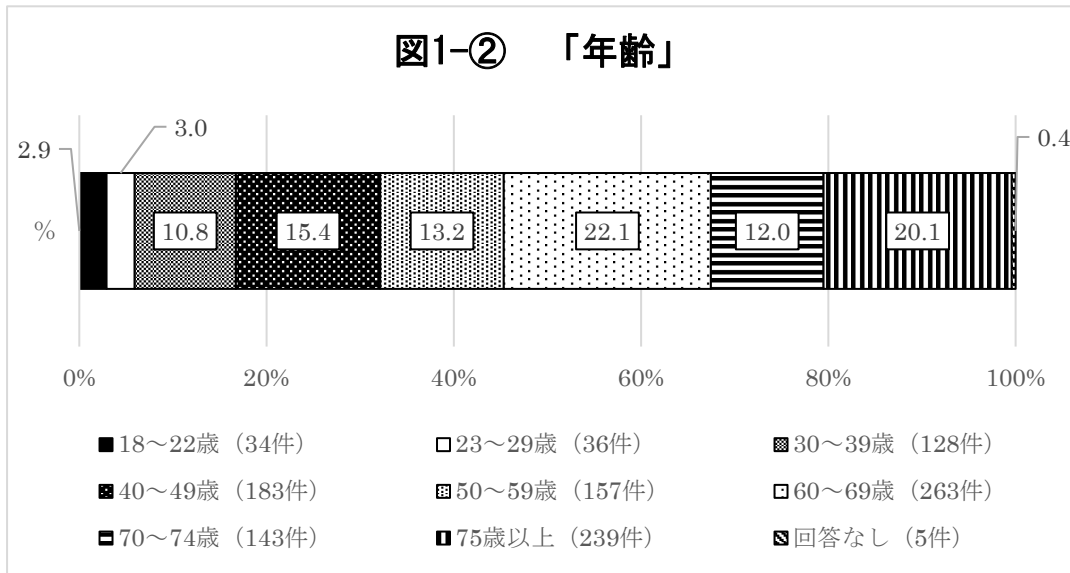
もっとも多いのは「60～69歳」の22.1%、次いで「75歳以上」の20.1%となっており、50歳以上が全体の7割近くを占めています。

全体

○年齢については、多い順にみると「60～69歳（22.1%）」、「75歳以上（20.1%）」、「40～49歳（15.4%）」、「50～59歳（13.2%）」、「70～74歳（12.0%）」、「30～39歳（10.8%）」、「23～29歳（3.0%）」、「18歳～22歳（2.9%）」となっています。（図1-②）。

○回答者のうち、50歳以上の割合は67.4%で、7割近くを占めています（図1-②）。

n=1,188



職業

問2 職業 (〇は1つだけ)

要点

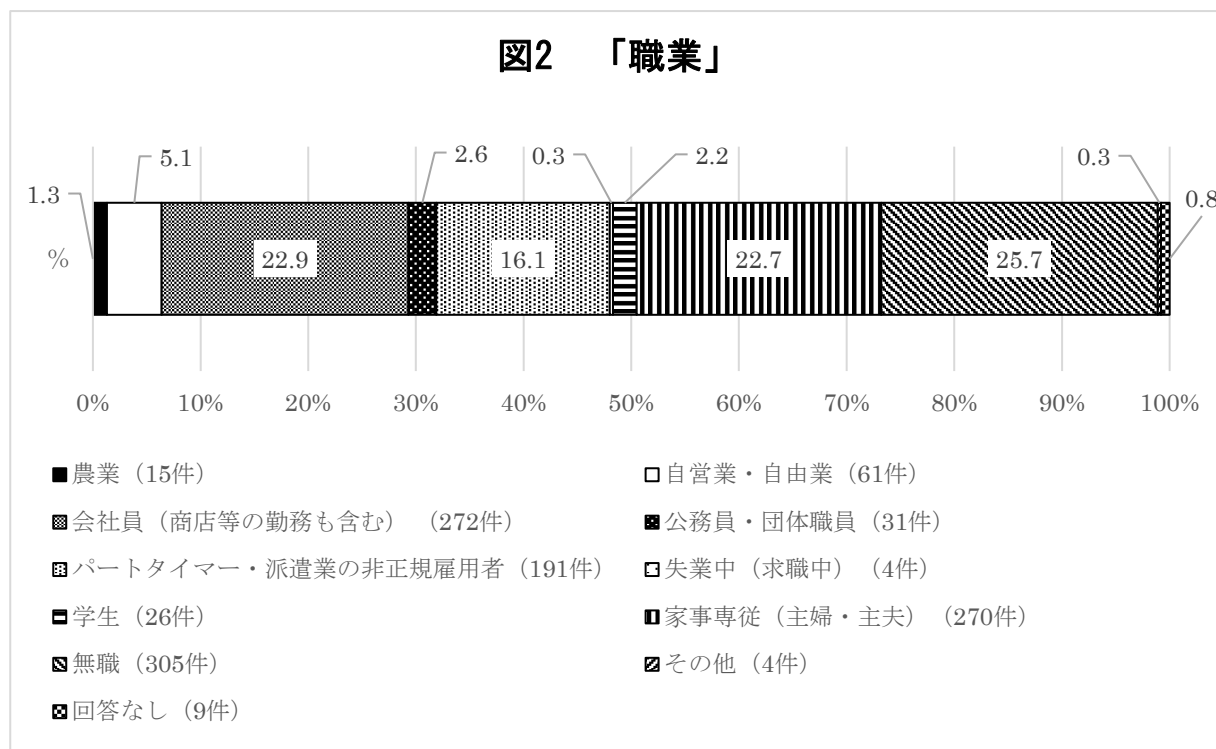
勤め人が半数近く (41.6%) を占める一方、無職が2割以上 (25.7%) を占めています。

全体

○職業については、いわゆる勤め人 (「会社員 (商店等の勤務も含む) (22.9%)」、「公務員・団体職員 (2.6%)」、「パートタイマー・派遣業の非正規雇用者 (16.1%)」) が全体の4割以上を占めています (図2)。

○「農業」は1.3%、「自営業・自由業」は5.1%、「学生」は2.2%、「家事専従 (主婦・主夫)」は22.7%、「無職」は25.7%となっています (図2)。

n=1,188



地区

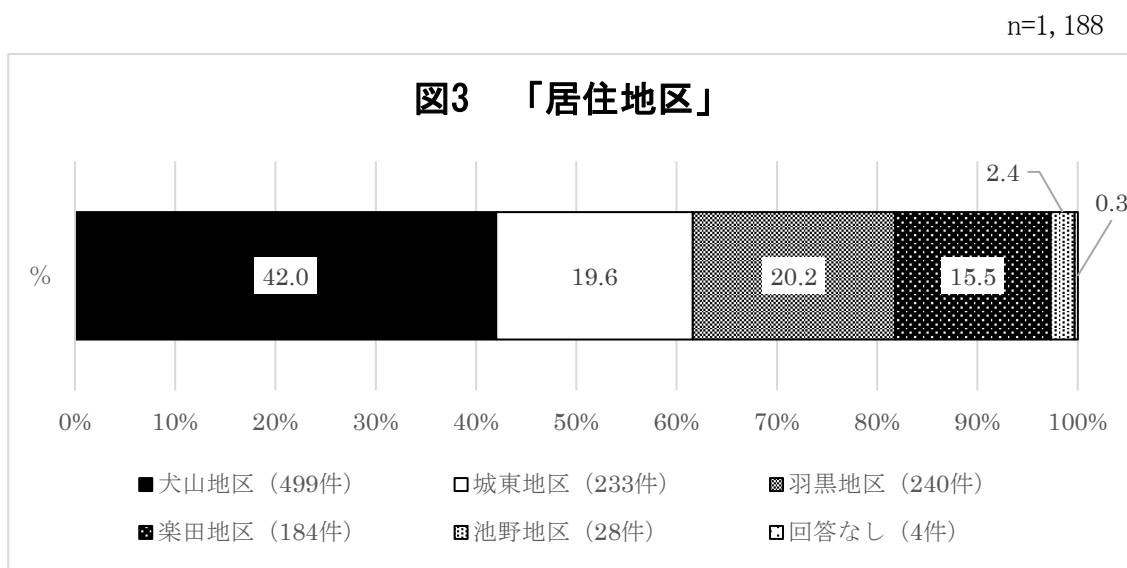
問3 お住まいの地区 (○は1つだけ)

要点

回答者の居住地区は、犬山地区が42.0%を占めもっとも多くなっています。

全体

○回答者の居住地区をみると、「犬山地区」が42.0%を占めもっとも多く、次いで「羽黒地区」が20.2%、「城東地区」が19.6%、「楽田地区」が15.5%、池野地区が2.4%となっています(図3)。



小学校区

問4 お住まいの小学校区（〇は1つだけ）

要点

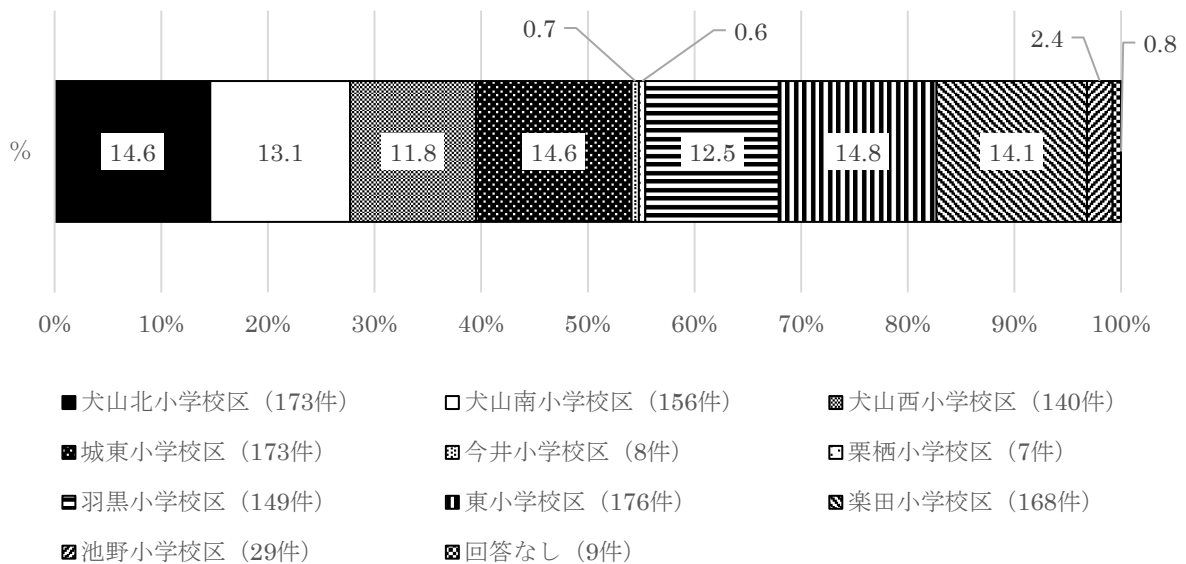
回答者の居住地区（小学校区）は、犬山北小学校区、城東小学校区、東小学校区、楽田小学校区については、14%台でほぼ同じ割合となっています。

全体

〇回答者の居住地区をみると、「東小学校区」が14.8%を占め最も多く、次いで「犬山北小学校区」と「城東小学校区」が14.6%、「楽田小学校区」が14.1%、「犬山南小学校区」が13.1%、「羽黒小学校区」が12.5%、「犬山西小学校区」が11.8%などとなっています（図4）。

n=1,188

図4 「小学校区」



世帯のタイプ

問5 世帯のタイプ (○は1つだけ)

要点

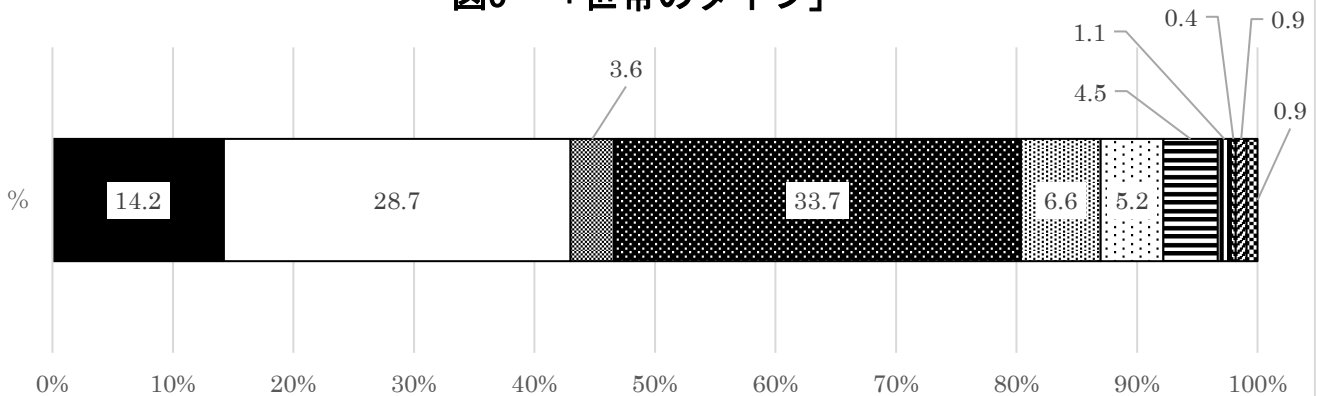
2世代同居世帯のうち「本人や配偶者+子ども」からなる世帯が33.7%を占めもっとも多くなっています。

全体

○世帯のタイプについては、多い順にみると「2世代同居世帯のうち本人や配偶者+子どもからなる世帯(33.7%)」、「夫婦のみの世帯(28.7%)」、「単身世帯(14.2%)」「2世代同居世帯のうち本人や配偶者の親+本人や配偶者からなる世帯(6.6%)」などとなっています(図5)。

n=1,188

図5 「世帯のタイプ」



- 単身世帯 (169件)
- 夫婦のみの世帯 (341件)
- ▨ 1世代世帯(夫婦のみの世帯を除く) (43件)
- ▩ 2世代同居世帯のうち「本人や配偶者+子ども」からなる世帯 (400件)
- ▧ 2世代同居世帯のうち「本人や配偶者の親+本人や配偶者」からなる世帯 (79件)
- ▦ 3世代同居世帯のうち「本人や配偶者+本人や配偶者の子ども+本人の孫」からなる世帯 (62件)
- ▤ 3世代同居世帯のうち「本人や配偶者の親+本人や配偶者+子ども」からなる世帯 (54件)
- ▣ 3世代同居世帯のうち「本人や配偶者の祖父母+本人や配偶者の親+本人や配偶者」からなる世帯 (13件)
- ▢ 4世代以上同居世帯 (5件)
- その他 (11件)
- 回答なし (11件)

居住年数

問6 犬山市での居住年数（〇は1つだけ）

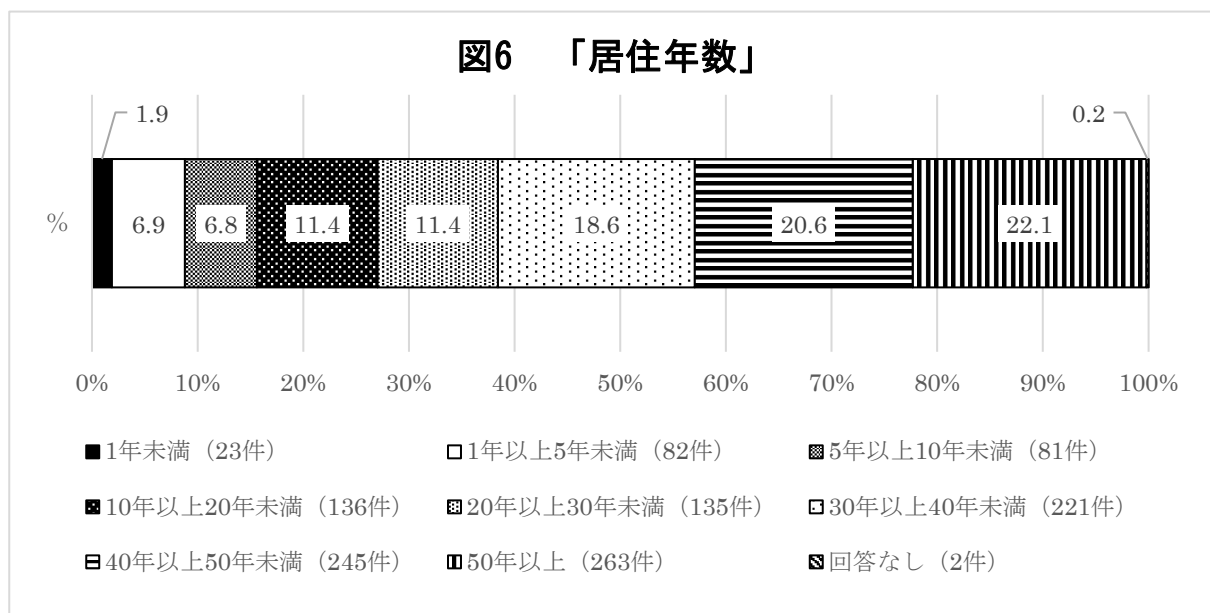
要点

50年以上が22.1%を占めもっとも多くなっています。

全体

〇居住年数については、「50年以上」が22.1%でもっとも多くを占め、「40年以上50年未満」が20.6%、「30年以上40年未満」が18.6%、「20年以上30年未満」と「10年以上20年未満」が11.4%などとなっています（図6）。

n=1,188



B 地域活動について

町内会への加入

問7 あなた（あるいはご家族）は、町内会に加入していますか。（○は1つだけ）

要点

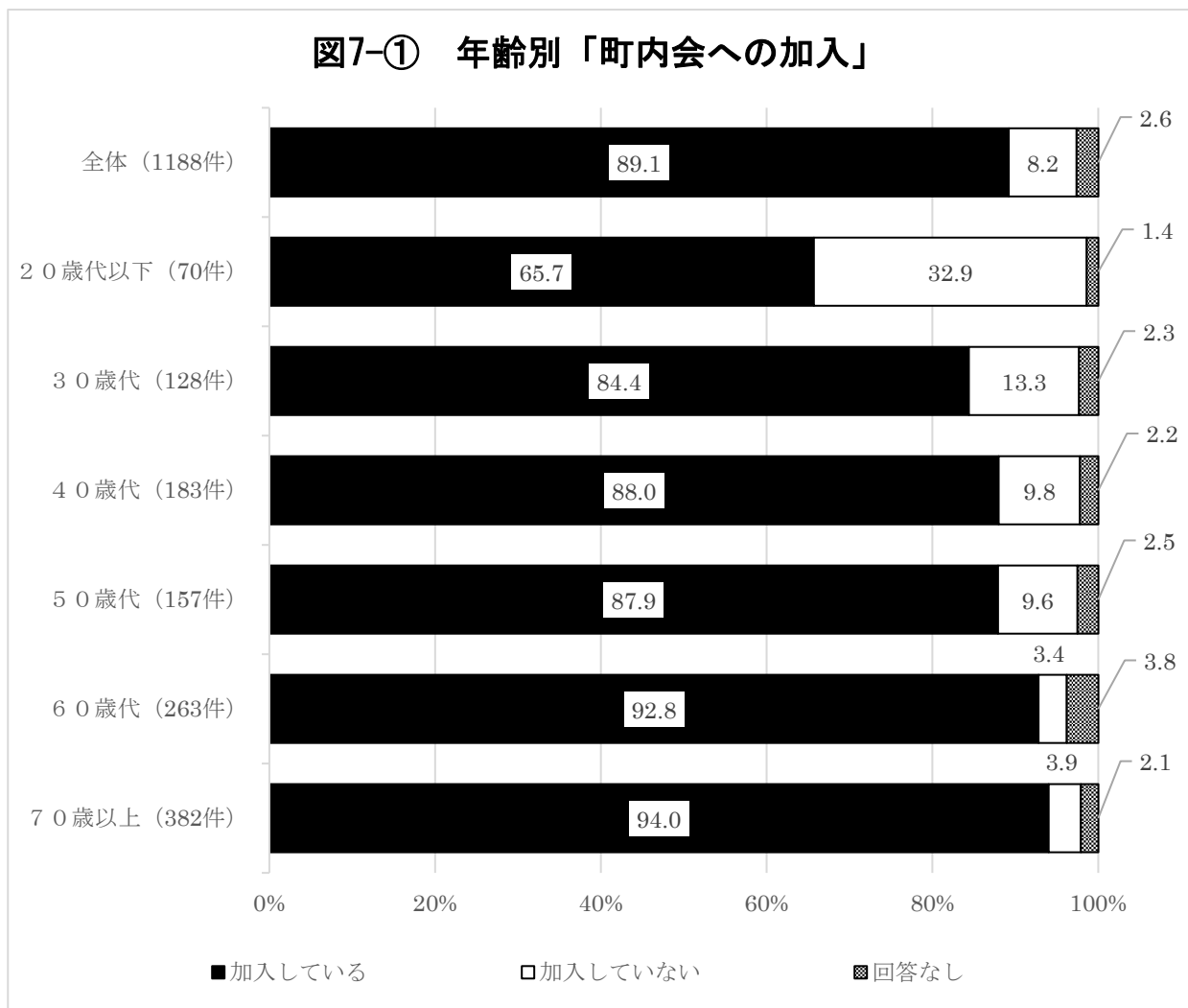
回答者の約9割（89.1%）が、町内会に加入しています。
年齢別にみると20歳代以下の加入率が低く、居住地区別にみると犬山地区が他の地区と比較して加入率がやや低くなっています。

全体

○町内会に「加入している」は89.1%、「加入していない」は8.2%となっています（図7-①）。

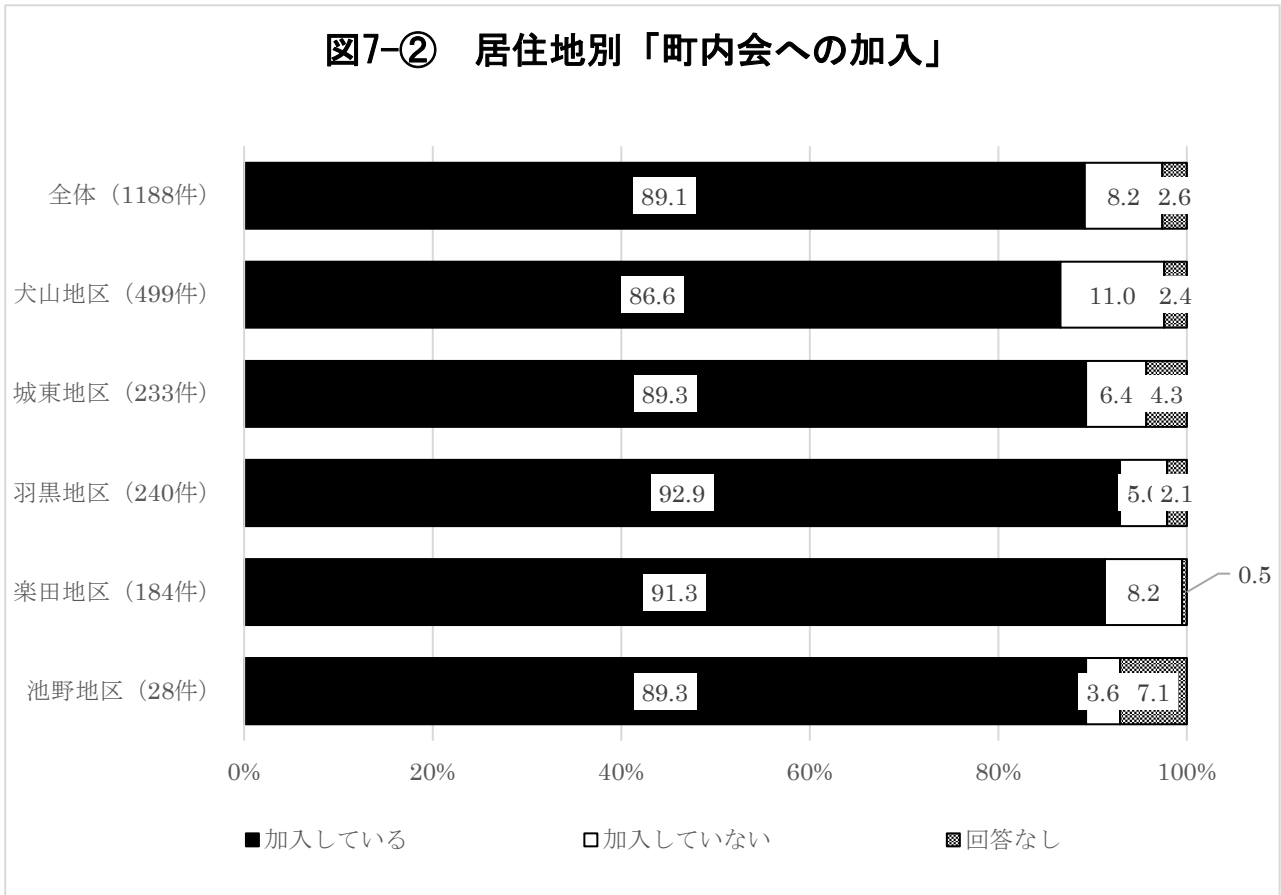
年齢別

○年齢別にみると、20歳代以下では「加入している」が65.7%となっており、他の年齢層と比較して、加入率が低いことがわかります（図7-①）。



○「加入している」の割合が最も高いのは、羽黒地区（92.9%）で、最も低い犬山地区（86.6%）を6.3%上回っています。（図7-②）。

図7-② 居住地別「町内会への加入」



町内会に加入していない理由

問8 あなたが町内会に加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

要点

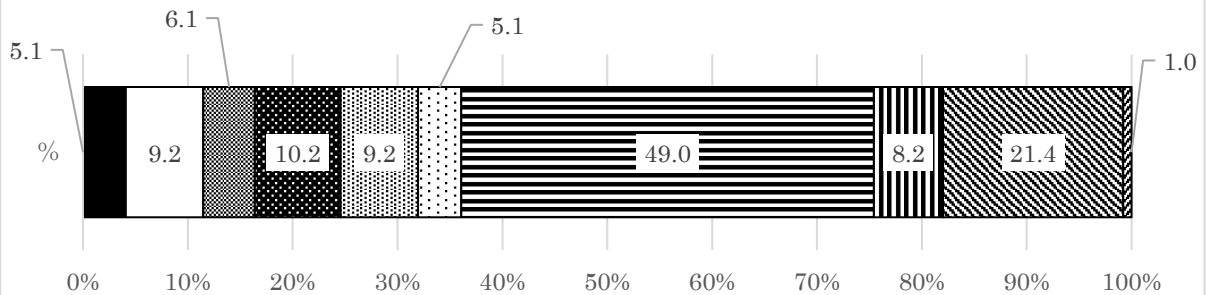
町内会に加入していない理由については、「居住しているマンション・アパートが加入していないから」が49.0%でもっとも多く、約5割を占めています。

全体

〇町内会に加入していない理由については、「居住しているマンション・アパートが加入していないから」がもっとも多く49.0%を占めています。次いで、「特に理由はない」が21.4%、「役員や当番をこなすのが困難だから」が10.2%となっています(図8)。

n=98

図8 「町内会に加入していない理由」



- 今の居住地に長く住むつもりがないから (5件)
- 近所付き合いがわずらわしいから (9件)
- 会費が高いから (6件)
- 役員や当番をこなすのが困難だから (10件)
- 加入する方法がわからないから (9件)
- 加入する意義が感じられないから (5件)
- 居住しているマンション・アパートが加入していないから (48件)
- その他 (8件)
- 特に理由はない (21件)
- 回答なし (1件)

地域活動への関わり方

問9 あなたは町内会やコミュニティなどの地域活動にどのように関わっていますか(○は①から⑩のそれぞれで1つつ)

要点

地域活動のうち、防火・防災、清掃・衛生、祭り・盆踊り、ごみの減量・リサイクルなどの活動については、「参加したことがある」の割合が高くなっています。

このうち、「運営スタッフをしたことがある」では、祭り・盆踊りが特に高い割合を示しており、おおむね6人に1人が運営スタッフとして関わった経験をもっています。

年齢別では60歳代、70歳以上は「参加したことがある」の割合が高く、20歳代以下、30歳代は低くなっています。

全体

- 「運営スタッフをしたことがある」と「参加したことがある」を合計した割合をみたとき、清掃・衛生では「参加したことがある」が71.8%となりもっとも多くなっています(図9-②)。
- 次いで、祭り・盆踊りで54.2%、防火・防災で47.3%、ごみの減量・リサイクルで46.4%となっています(図9-②)。
- 「運営スタッフをしたことがある」をみていくと、祭り・盆踊りが16.2%を示しており、おおむね6人に1人が運営スタッフとして関わった経験をもっています(図9-①)。

図9-① 「地域活動への関わり方」

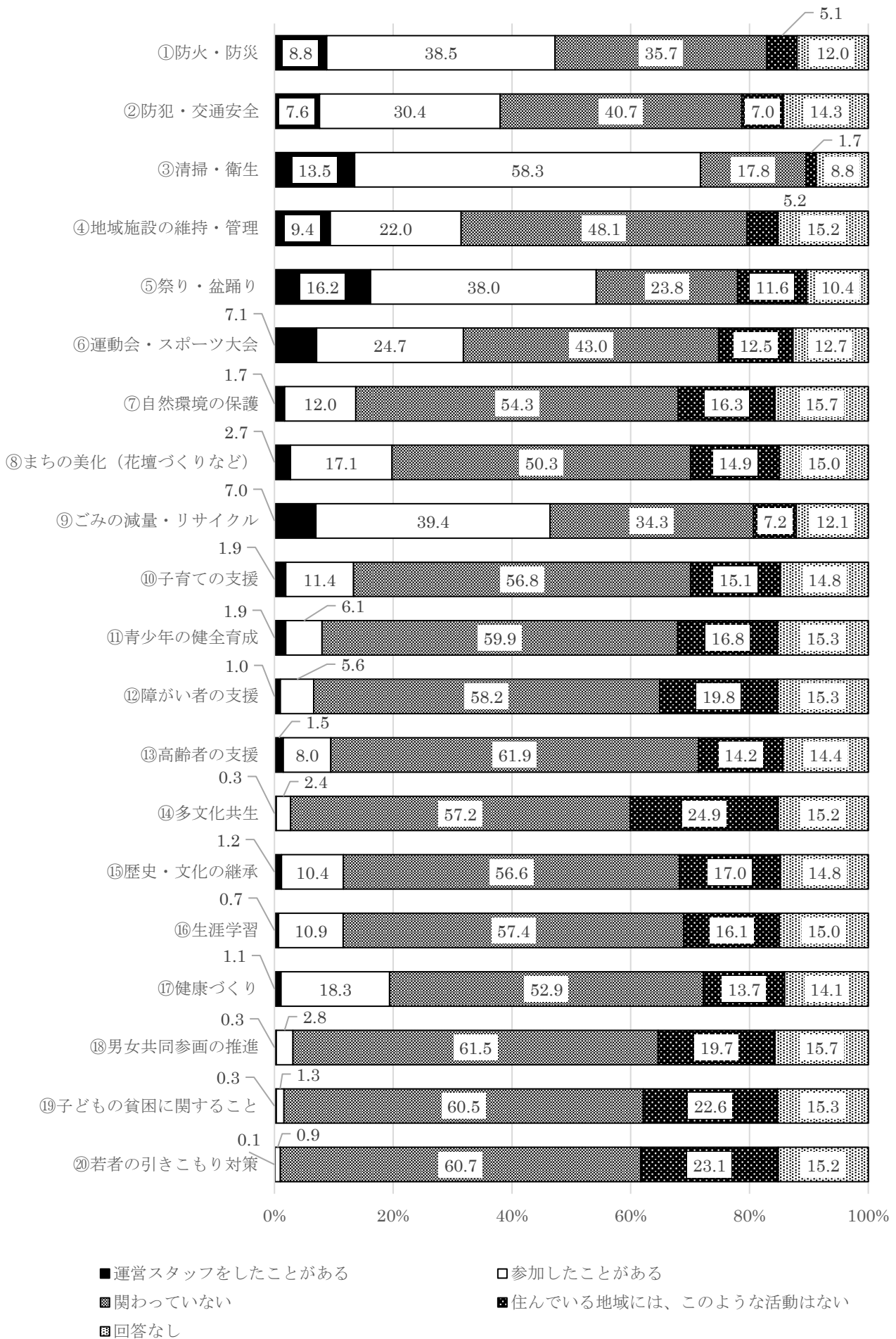
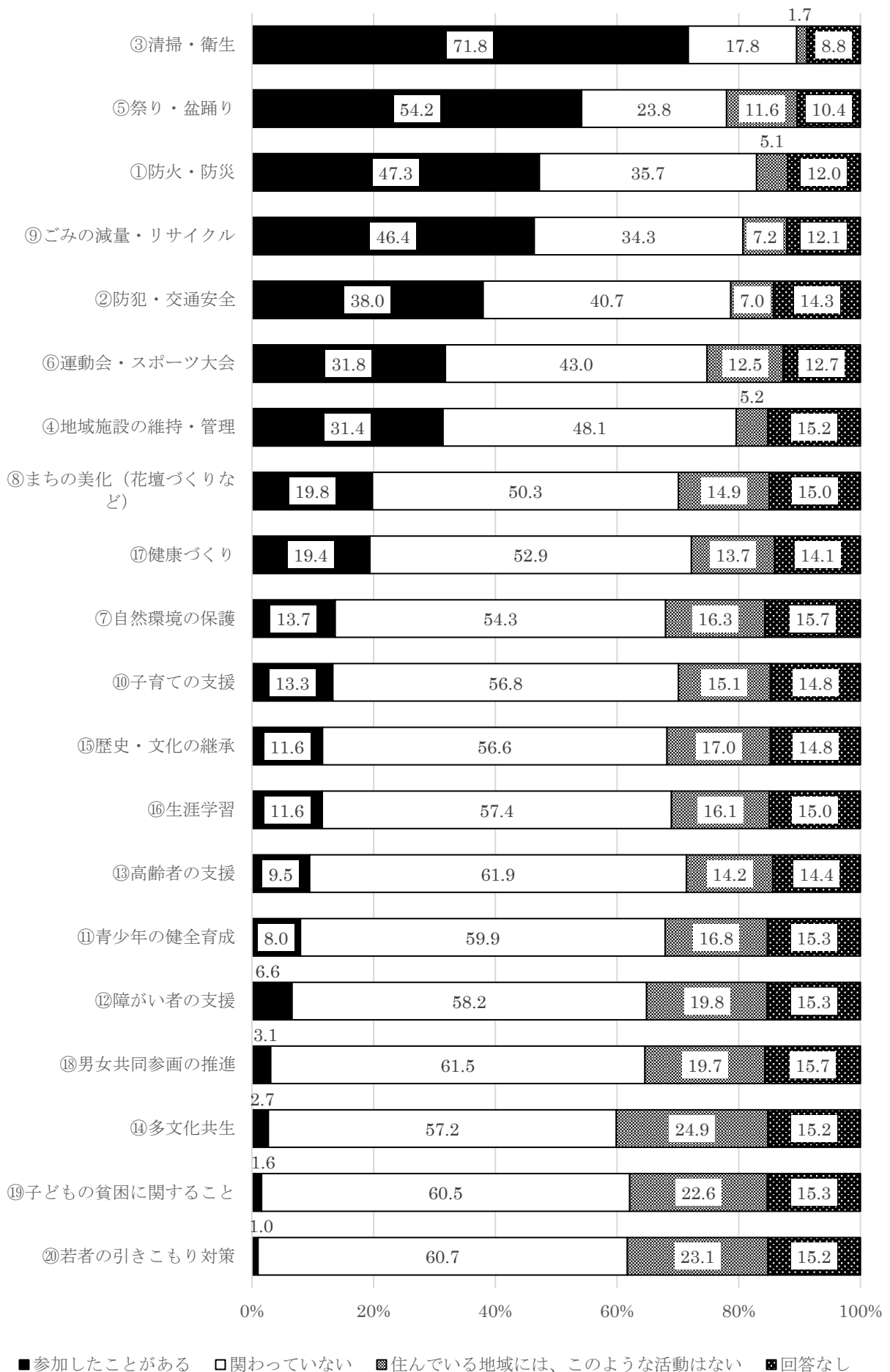


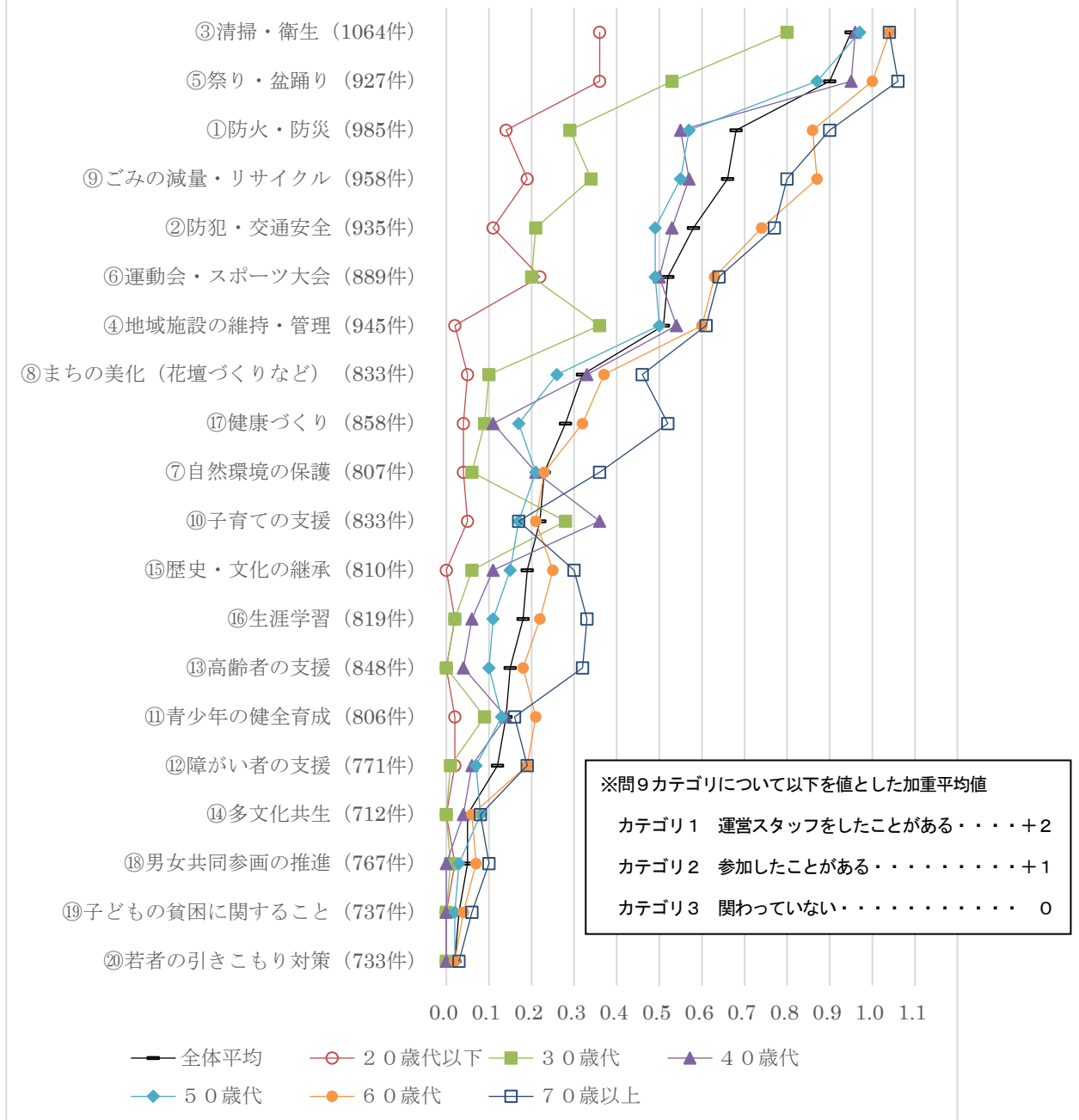
図9-② 「地域活動への関わり方」 (カテゴリ統合)



○60歳代と70歳以上は、ほぼすべての分野において全体平均を上回っている一方、20歳代以下、30歳代ではおおむね全体平均を下回っています（図9-③）。

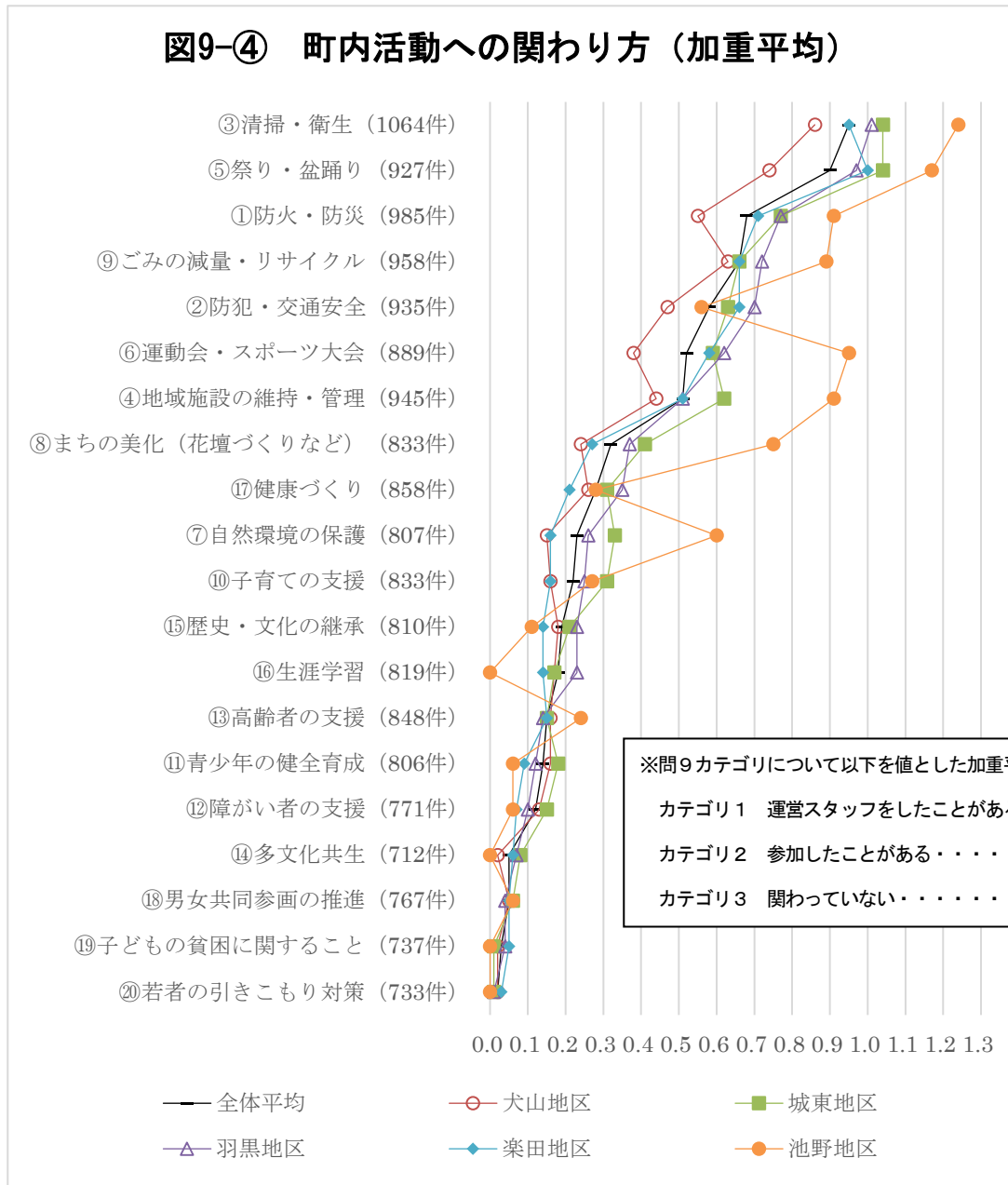
○活動別にみると、「子育て支援」では、30歳代、40歳代が全体平均を上回っており、「防火・防災」、「ごみの減量・リサイクル」、「防犯・交通安全」では、60歳代、70歳以上が全体平均を大きく上回っています（図9-③）。

図9-③ 「地域活動への関わり方」（加重平均）



○城東地区、羽黒地区、池野地区は多くの分野において全体平均を上回っており、各分野への参加の割合が相対的に高い様子がうかがえます（図9-④）。

図9-④ 町内活動への関わり方（加重平均）



地域活動の必要性

問10 あなたは、地域活動が必要であると思いますか（○は1つ）

要点

市民の7割以上は地域活動の必要性を感じており、必要ではないとする意見は少数にとどまっています。

「必要だと思う」人の割合は、50歳代、60歳代、70歳以上で高くなっています。

全体

○「必要だと思う（37.0%）」と「どちらかと言えば必要だと思う（37.5%）」を合わせると74.5%となり、回答者の7割以上は地域活動の必要性を感じています（図10-①）。

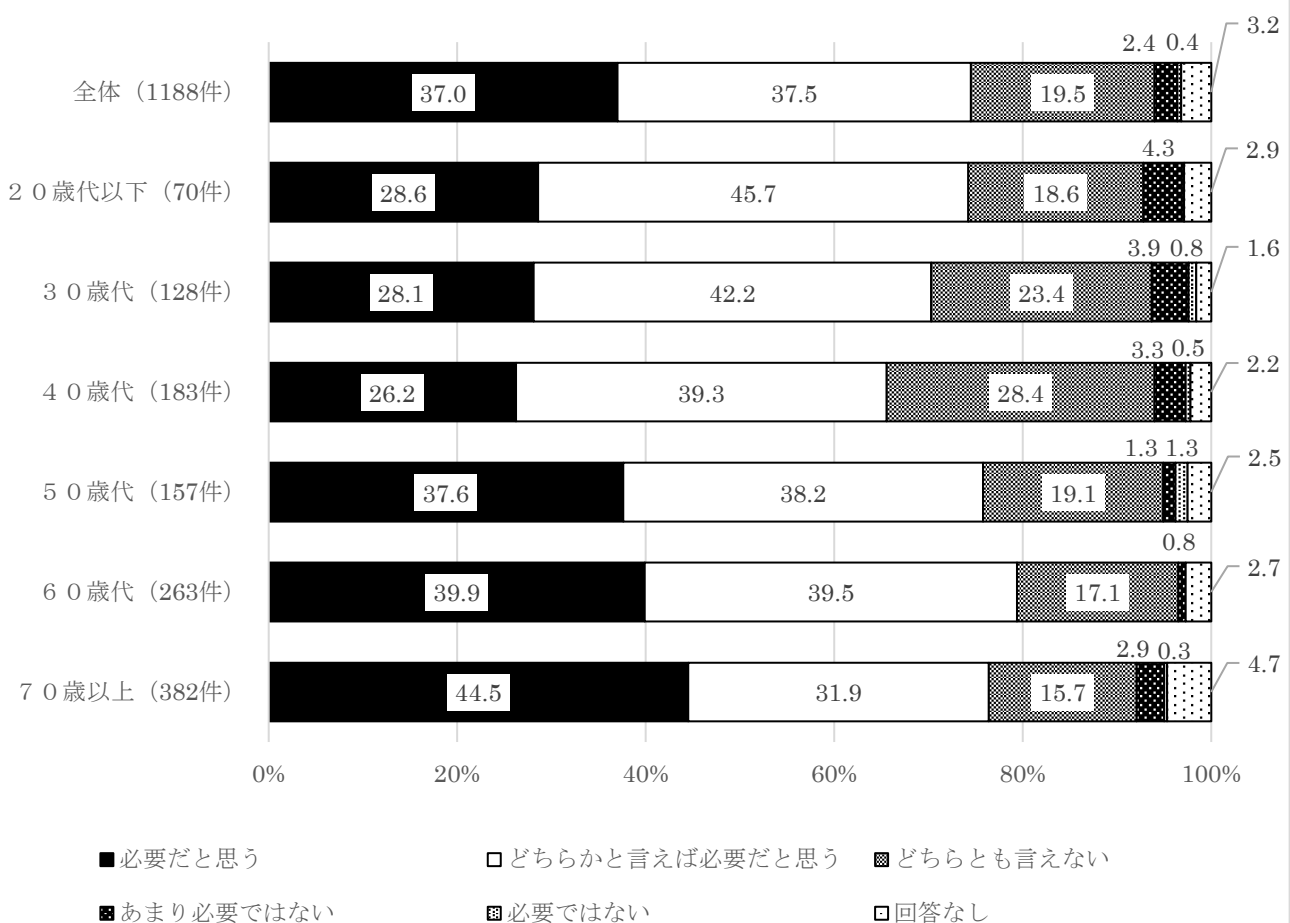
○「あまり必要ではない」は2.4%、「必要ではない」は0.4%と少数にとどまっています（図10-①）。

年齢別

○年齢別にみると、「必要だと思う」の割合は20歳代以下、30歳代、40歳代までがほぼ横ばいで、50歳代から高くなるという傾向がみられます（図10-①）。

○「あまり必要ではない」と「必要ではない」をあわせた割合は、30歳代でもっとも高く4.7%、次いで20歳代以下で4.3%となっています（図10-①）。

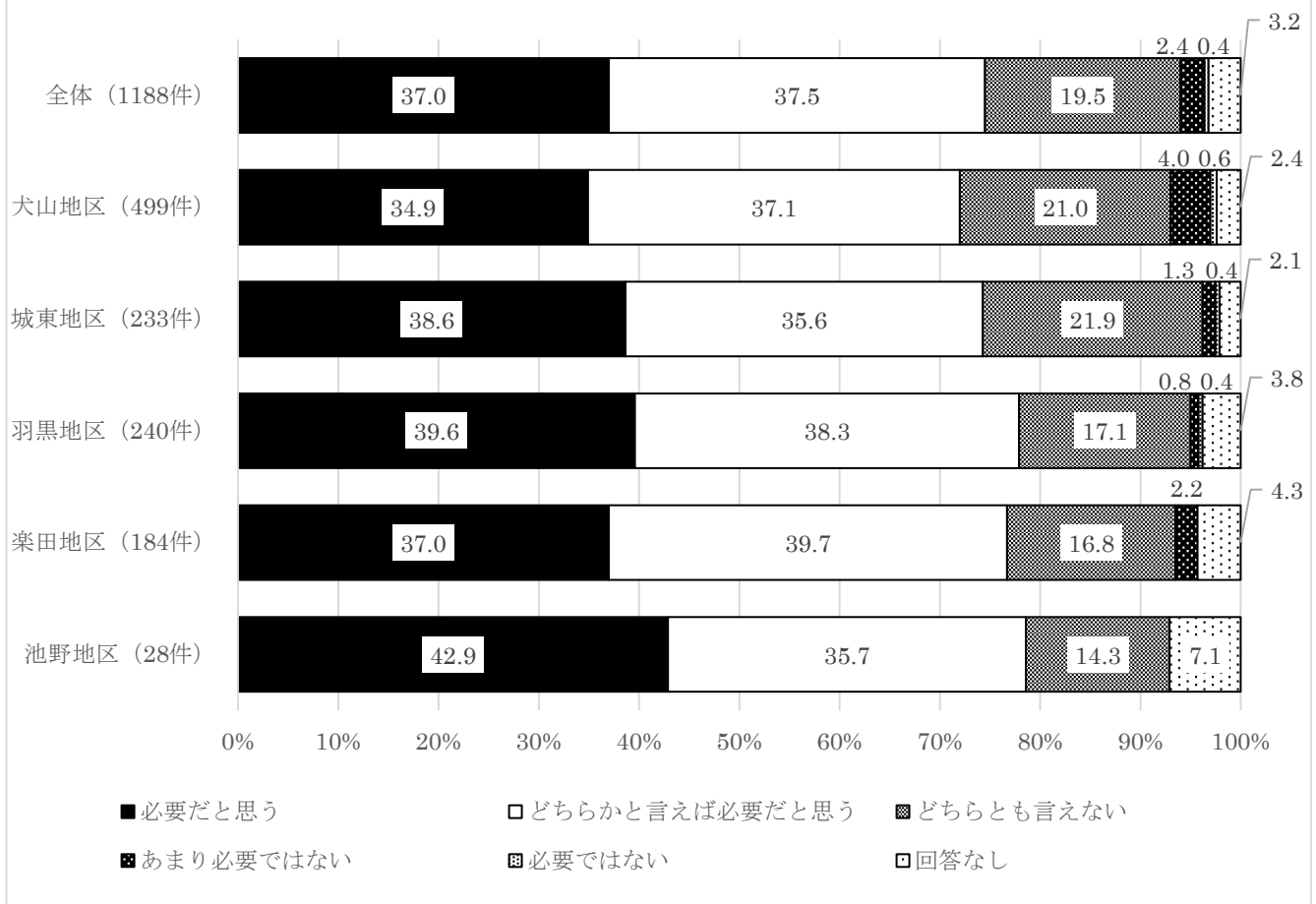
図10-① 年齢別「地域活動の必要性」



地区別

- 「必要だと思う」の割合が高いのは、池野地区(42.9%)、羽黒地区(39.6%)、城東地区(38.6%)となっています(図10-②)。
- 「あまり必要ではない」と「必要ではない」を合わせた割合は、犬山地区でもっとも高く4.6%、次いで楽田地区が2.2%となっています(図10-②)。

図10-② 地区別「地域活動の必要性」



地域活動はうまくいっているか

問 11 あなたの住んでいる地域の地域活動は、全般的にうまくいっていると思いますか (○は1つ)

要点

市民のほぼ6割は地域活動の運営を肯定的に評価しています。

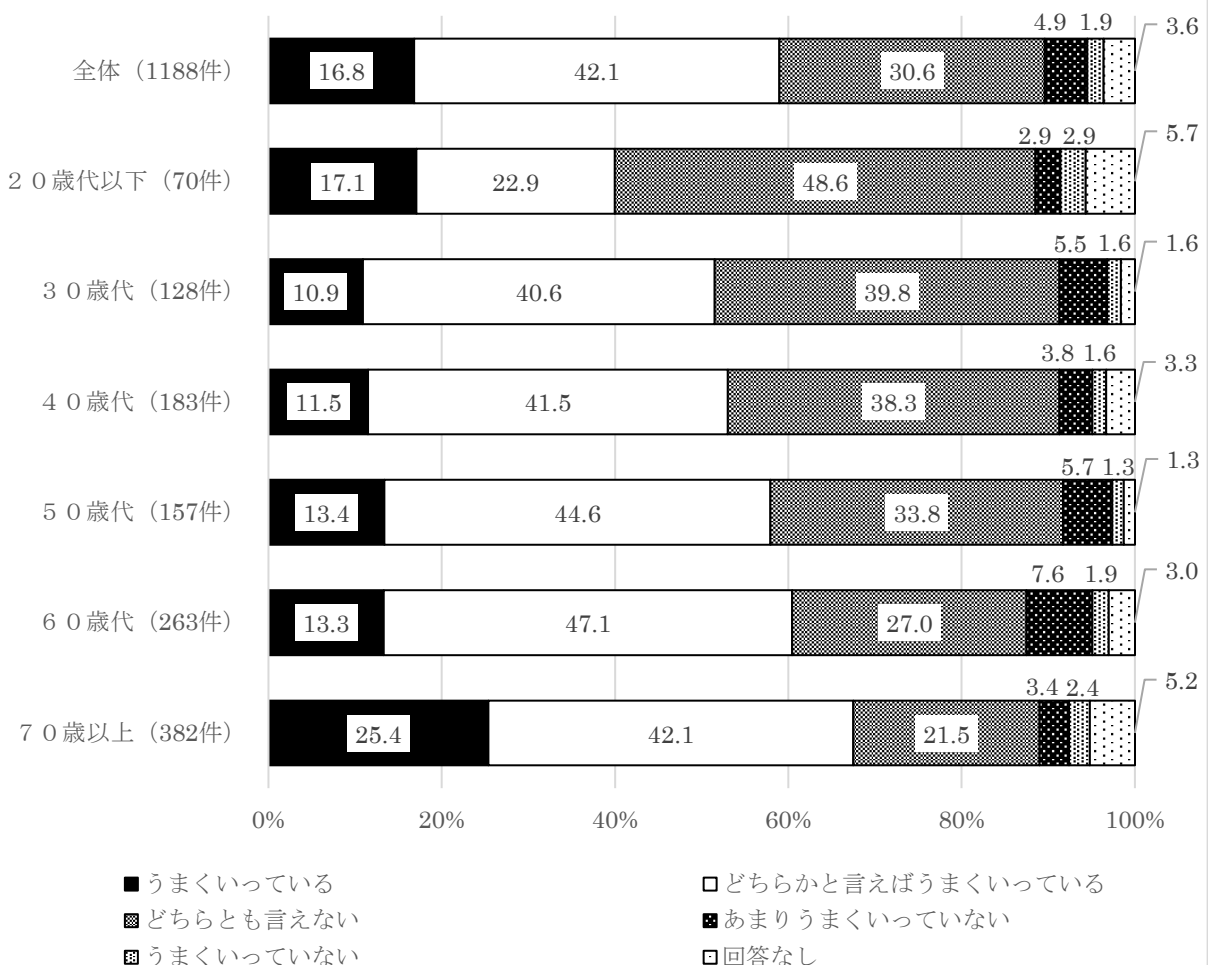
全体

- 「うまくいっている (16.8%)」と「どちらかと言えばうまくいっている (42.1%)」をあわせると 58.9%となり、ほぼ6割は地域活動の運営を肯定的に評価しています (図 11-①)。
- 「あまりうまくいっていない」は4.9%、「うまくいっていない」は1.9%と少数にとどまっています (図 11-①)。

年齢別

- 「うまくいっている」と「どちらかと言えばうまくいっている」を合わせた割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられます (図 11-①)。
- 「どちらとも言えない」は20歳代以下で48.6%、30歳代で39.8%と、若い世代では肯定も否定もしていない層が比較的大きな割合を占めています (図 11-①)。

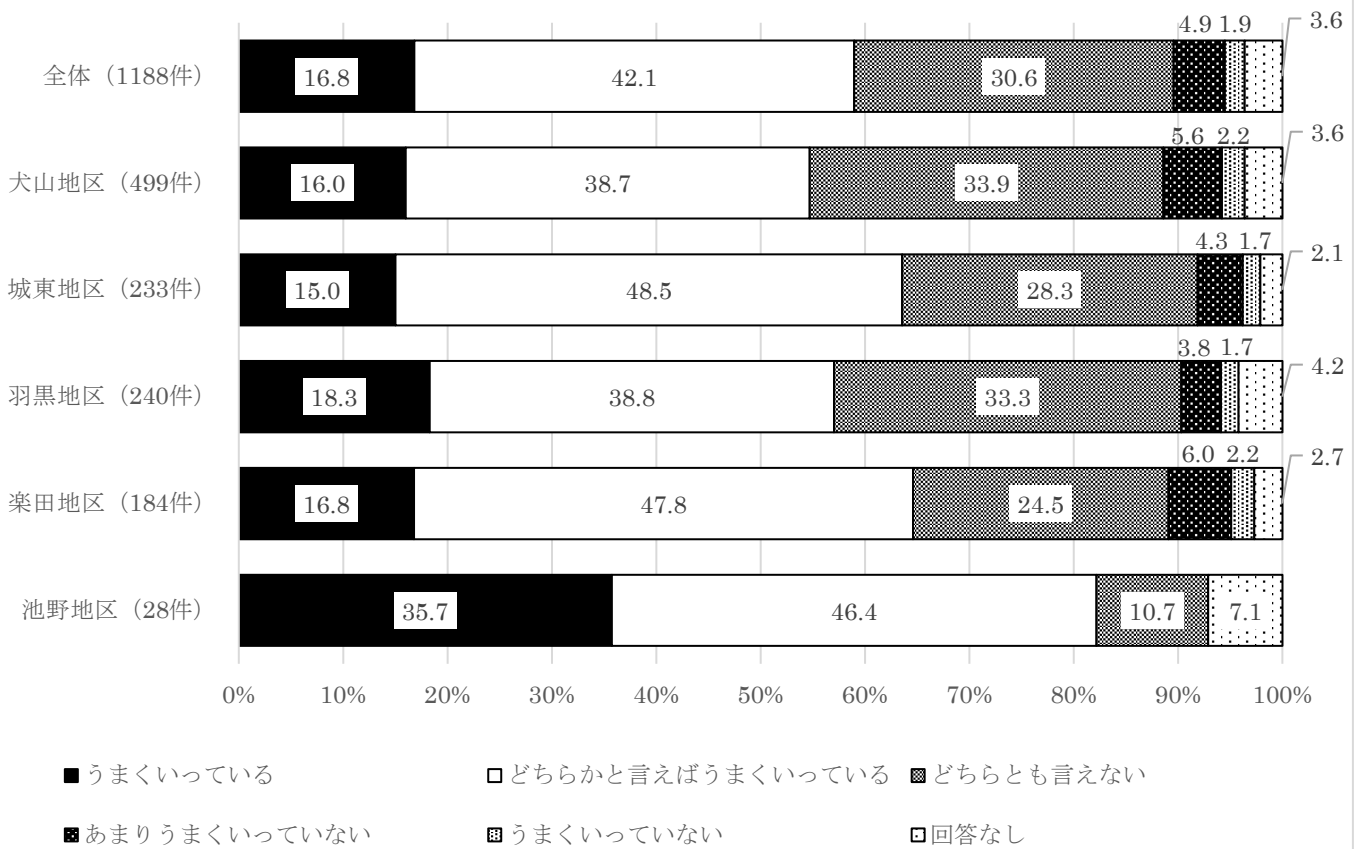
図11-① 年齢別「地域活動はうまくいっているか」



地区別

- 「うまくいっている」と「どちらかと言えぱうまくいっている」を合わせた割合が高いのは、池野地区 (82.1%)、楽田地区 (64.6%)、城東地区 (63.5%) となっています (図 11-②)。
- 「どちらとも言えない」の割合は、犬山地区 (33.9%)、羽黒地区 (33.3%) が比較的高く、いずれも3割を超えています (図 11-②)。
- 「うまくいっていない」と「あまりうまくいっていない」を合わせた割合は、楽田地区が8.2% ともっとも高く、次いで犬山地区 (7.8%) となっています (図 11-②)。

図11-② 地区別「地域活動はうまくいっているか」



地域活動の改善点

問12 あなたの住んでいる地域の地域活動について改善すべき点があるとすれば、それは何ですか
(〇は3つまで)

要点

「役員・当番等の負担を減らす」に32.2%の方が回答しています。
その他にも「地域住民の交流機会を増やす」や「活動の担い手（人材）育成を強化する」が上位を占めています。

全体

- 地域活動の改善すべき点については、「役員・当番等の負担を減らす」が32.2%ともっとも多く、次いで「わからない」が20.2%となっています（図12-①）。
- このほかでは、「地域住民の交流機会を増やす（19.6%）」、「活動の担い手（人材）育成を強化する（18.8%）」が比較的多くなっています（図12-①）。

年齢別

- 「役員・当番等の負担を減らす」が30歳代以上でもっとも高い割合を示しています（図12-①）。
- 「活動の担い手（人材）育成を強化する」は50歳代、60歳代で高い割合を示しています（図12-①）。
- 年齢別にみると20歳代以下（45.7%）で「わからない」の割合が非常に高くなっています。また、「特に改善すべき点はない」は30歳代で19.5%と高くなっています（図12-①）。

図12-① 年齢別「地域活動の改善点」

	特に改善すべき点はない	地域住民の交流機会を増やす	組織の運営能力を高める	活動の担い手（人材）育成を強化する	女性の役員を増やす	活動のための場所を整備する	活動資金を自ら稼ぐ方法を考える	活動の情報を積極的に公開する	役員・当番等の負担を減らす	組織の活動、行事全体を根本的に見直す	わからない	その他	回答なし
全体(1188件)	14.0	19.6	8.9	18.8	3.5	9.1	2.7	17.5	32.2	13.7	20.2	3.8	4.5
20歳代以下(70件)	7.1	11.4	8.6	8.6	1.4	4.3	0.0	15.7	25.7	7.1	45.7	7.1	2.9
30歳代(128件)	19.5	14.1	6.3	11.7	0.8	7.0	1.6	18.8	32.0	11.7	25.0	3.9	1.6
40歳代(183件)	12.6	14.8	8.7	14.2	2.7	8.7	1.6	14.2	43.2	21.9	21.3	3.8	1.1
50歳代(157件)	14.6	13.4	5.7	23.6	0.0	11.5	3.2	15.9	38.9	12.7	17.2	3.2	1.9
60歳代(263件)	15.2	22.8	11.8	24.0	4.6	9.5	2.7	18.3	26.6	14.8	15.6	4.2	5.7
70歳以上(382件)	13.1	25.9	9.4	19.9	5.8	9.7	3.9	19.1	29.3	11.3	17.5	3.1	7.3

- すべての地区において、「役員・当番等の負担を減らす」の割合がもっとも高くなっています(図12-②)。
- 池野地区では「活動の担い手(人材)育成を強化する」が28.6%で、全体値の18.8%を9.8ポイント上回っています。その一方で「特に改善すべき点はない」についても21.4%で、全体値の14.0%を7.4ポイント上回っています(図12-②)。
- 楽田地区では「組織の活動、「行事全体を抜本的に見直す」が17.9%で、全体の13.7%を4.2ポイント上回っています(図12-②)。
- 犬山地区では「わからない」の割合が26.3%と、他の地区と比較して高くなっています(図12-②)。

図12-② 地区別「地域活動の改善点」

	特に改善すべき点はない	地域住民の交流機会を増やす	組織の運営能力を高める	活動の担い手(人材)育成を強化する	女性の役員を増やす	活動のための場所を整備する	活動資金を自ら稼ぐ方法を考える	活動の情報を積極的に公開する	役員・当番等の負担を減らす	組織の活動、行事全体を根本的に見直す	わからない	その他	回答なし
全体(1188件)	14.0	19.6	8.9	18.8	3.5	9.1	2.7	17.5	32.2	13.7	20.2	3.8	4.5
犬山地区(499件)	13.6	18.2	6.0	16.6	3.6	8.2	2.6	15.8	28.3	12.0	26.3	3.8	4.6
城東地区(233件)	15.9	20.6	9.9	19.3	3.0	9.4	2.1	21.0	36.1	14.2	17.2	3.0	2.1
羽黒地区(240件)	14.6	24.2	10.0	21.3	2.5	12.5	3.3	19.2	32.5	14.6	12.9	4.6	6.3
楽田地区(184件)	10.9	16.3	15.2	19.6	3.3	7.6	2.7	15.2	39.1	17.9	18.5	3.8	2.7
池野地区(28件)	21.4	21.4	3.6	28.6	14.3	3.6	3.6	21.4	28.6	7.1	7.1	3.6	10.7

今後重要になる地域活動

問13 あなたの住んでいる地域の地域活動で今後重要になる活動は、何だと思いませんか。
(〇は3つまで)

要点

今後重要になる地域活動として「防犯・交通安全」、「防火・防災」「高齢者の支援（見守り・サロン活動など）」の3分野に多くの回答が寄せられています。

全体

- 今後重要になる地域活動は「防犯・交通安全」の45.5%、「防火・防災」の43.9%、「高齢者の支援（見守り・サロン活動など）」の36.9%、この3つが突出しています（図13-①）。
- この上位のほかでは、「清掃・衛生（17.6%）」、「ごみの減量・リサイクル（13.7%）」が続いています（図13-①）

年齢別

- 20歳代以下では、「わからない」が24.3%となっており、他の年代と比較して大きな割合を占めています（図13-①）。
- 50歳代、60歳代、70歳以上をみると、「防火・防災」「防犯・交通安全」はいずれの年齢層でも40%を超える回答率となっています（図13-①）。
- このほか、20歳代以下、30歳代、40歳代では、「子育ての支援」がそれぞれ15.7%、34.4%、18.0%、60歳代、70歳以上では「健康づくり」がそれぞれ17.1%、21.5%など相対的に高い割合を示しています（図13-①）。

図13-① 年齢別「今後重要になる地域活動」

	防火・防災	防犯・交通安全	清掃・衛生	地域施設の維持・管理	祭り・盆踊り	運動会・スポーツ大会	自然環境の保護	まちの美化（花壇づくりなど）	ごみの減量・リサイクル	子育ての支援	青少年の健全育成	障がい者の支援	高齢者の支援（見守り・サロン活動等）	多文化共生	歴史・文化の継承	生涯学習	健康づくり	男女共同参画の推進	子どもの貧困に関する事	若者のひきこもり対策	わからない	その他	回答なし
全体(1188件)	43.9	45.5	17.6	8.3	6.4	3.1	6.3	4.2	13.7	11.2	2.7	4.6	36.9	1.3	1.1	4.1	13.5	0.9	2.4	1.3	9.8	1.7	2.8
20歳代以下(70件)	38.6	32.9	10.0	5.7	7.1	2.9	1.4	5.7	5.7	15.7	0.0	4.3	28.6	1.4	0.0	4.3	5.7	5.7	5.7	0.0	24.3	2.9	2.9
30歳代(128件)	36.7	54.7	21.9	5.5	5.5	3.9	4.7	7.8	9.4	34.4	2.3	3.9	25.8	0.8	0.8	2.3	6.3	0.0	1.6	2.3	10.2	2.3	0.8
40歳代(183件)	36.1	50.8	23.0	9.8	6.6	2.2	4.9	3.3	9.3	18.0	3.8	5.5	25.1	1.1	2.2	2.2	4.9	0.0	3.3	1.1	14.8	2.7	1.1
50歳代(157件)	47.8	51.6	19.7	6.4	8.9	1.9	5.7	2.5	12.7	6.4	1.3	4.5	43.9	1.3	1.9	7.0	7.6	1.3	3.2	1.3	8.9	0.0	1.3
60歳代(263件)	47.1	43.0	12.9	10.6	6.1	3.8	6.8	3.8	17.9	7.2	2.7	4.6	42.6	1.1	0.4	4.6	17.1	0.4	1.9	0.4	6.8	2.7	3.0
70歳以上(382件)	47.6	41.6	17.5	8.4	5.8	3.4	8.4	4.2	16.5	4.2	3.4	4.7	41.4	1.6	1.0	4.2	21.5	1.0	1.6	1.8	6.3	0.8	4.5

○今後重要になる地域活動を地区別にみたときに、とくに顕著な違いはみられませんが、池野地区で「自然環境の保護」が17.9%と高くなっています（図13-①）。

図13-2 地区別「今後重要になる地域活動」

	防火・防災	防犯・交通安全	清掃・衛生	地域施設の維持・管理	祭り・盆踊り	運動会・スポーツ大会	自然環境の保護	まちの美化（花壇づくりなど）	ごみの減量・リサイクル	子育ての支援	青少年の健全育成	障がい者の支援	高齢者の支援（見守り・サロン活動等）	多文化共生	歴史・文化の継承	生涯学習	健康づくり	男女共同参画の推進	子どもの貧困に関すること	若者のひきこもり対策	わからない	その他	回答なし
全体(1188件)	43.9	45.5	17.6	8.3	6.4	3.1	6.3	4.2	13.7	11.2	2.7	4.6	36.9	1.3	1.1	4.1	13.5	0.9	2.4	1.3	9.8	1.7	2.8
犬山地区(499件)	41.9	40.7	19.0	7.2	6.4	2.4	4.0	5.6	14.6	12.0	2.4	4.8	32.9	1.4	1.6	4.0	10.6	1.0	3.4	1.6	13.0	2.0	3.2
城東地区(233件)	45.9	48.9	18.5	10.7	6.0	4.7	9.4	2.1	12.0	12.0	3.9	2.6	37.8	1.3	0.9	4.3	15.0	0.9	0.4	0.9	9.0	1.3	0.9
羽黒地区(240件)	48.8	53.3	17.5	8.3	7.5	3.8	6.7	5.0	10.8	8.3	1.3	4.6	40.8	0.4	0.8	7.1	17.1	0.0	2.1	0.4	5.0	1.7	4.2
桑田地区(184件)	37.5	45.7	12.5	8.2	5.4	2.2	6.5	2.7	18.5	11.4	3.8	7.6	39.7	2.2	0.5	1.1	14.7	2.2	2.7	2.2	8.7	1.6	1.6
池野地区(28件)	60.7	32.1	21.4	10.7	3.6	3.6	17.9	0.0	7.1	10.7	3.6	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	3.6

C 市民活動（ボランティア・NPO等）への参加状況・参加意向について

ボランティア・NPO等への関わり

問14 あなたは、市民活動（ボランティア・NPO等）にどのように関わっていますか。
（〇は1つまで）

要点

市民の7割以上が、これまで地域活動に参加したことがなく、「現在参加している」市民は1割に満たない状況です。

年齢が高くなるにつれて「現在参加しており、今後も続けていきたい」の割合は高くなる傾向がみられます。

市民の3割強（33.8%）が、潜在的にボランティア・NPO等の活動に関与したいと考えています。

全体

○市民の7割以上（70.8%）がこれまで地域活動に参加したことがありません（図14-①）。

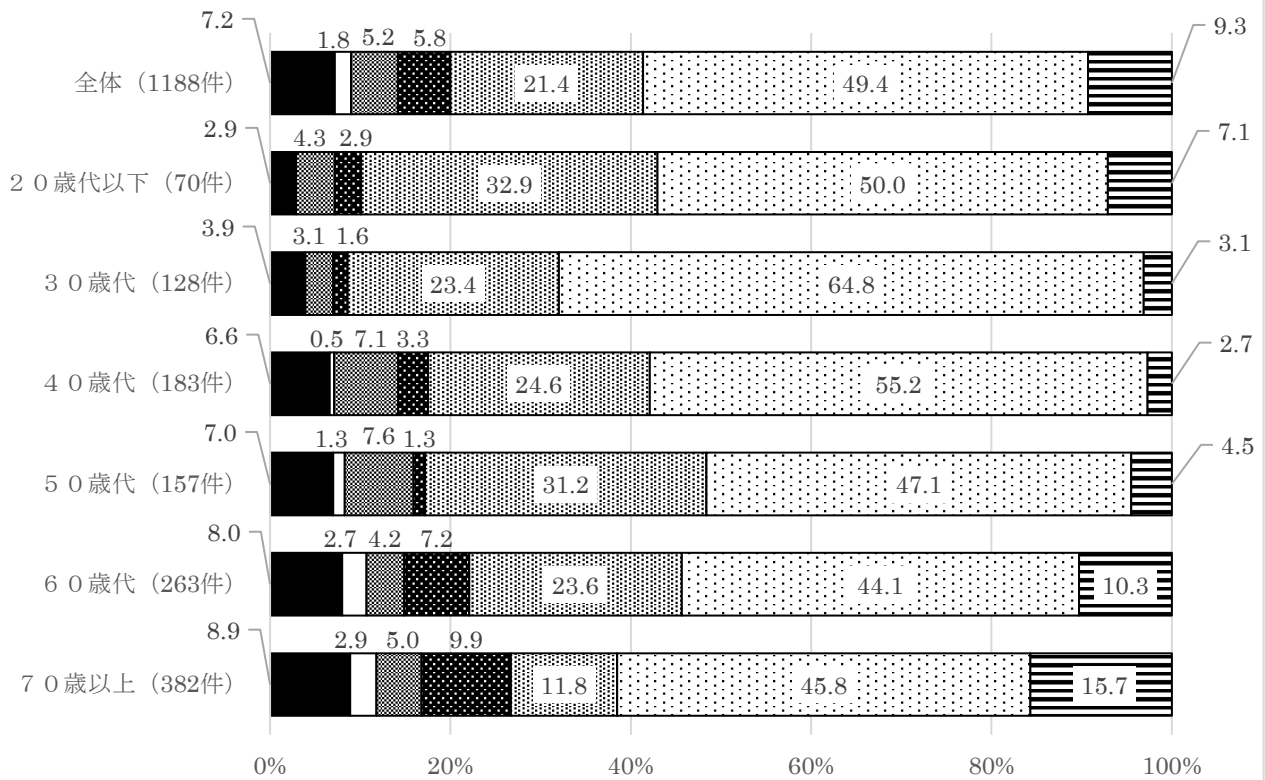
○「現在参加しており、今後も続けていきたい」または「現在参加しているが、今後はやめたいと思っている」と回答した「現在参加している」市民は、1割未満（9.0%）となっています（図14-①）。

○年齢が高くなるにつれて「現在参加しており、今後も続けていきたい」の割合は高くなっています（図14-①）。

○年齢が高くなるにつれて「現在参加しており、今後も続けていきたい」の割合は高くなっていきます（図14-①）。

○すべての年齢層において、「これまで参加したことはなく、今後も関わるつもりはない」がもっとも大きな割合を占めています（図14-①）。

図14-① 年齢別「ボランティア・NPO活動等への関わり」

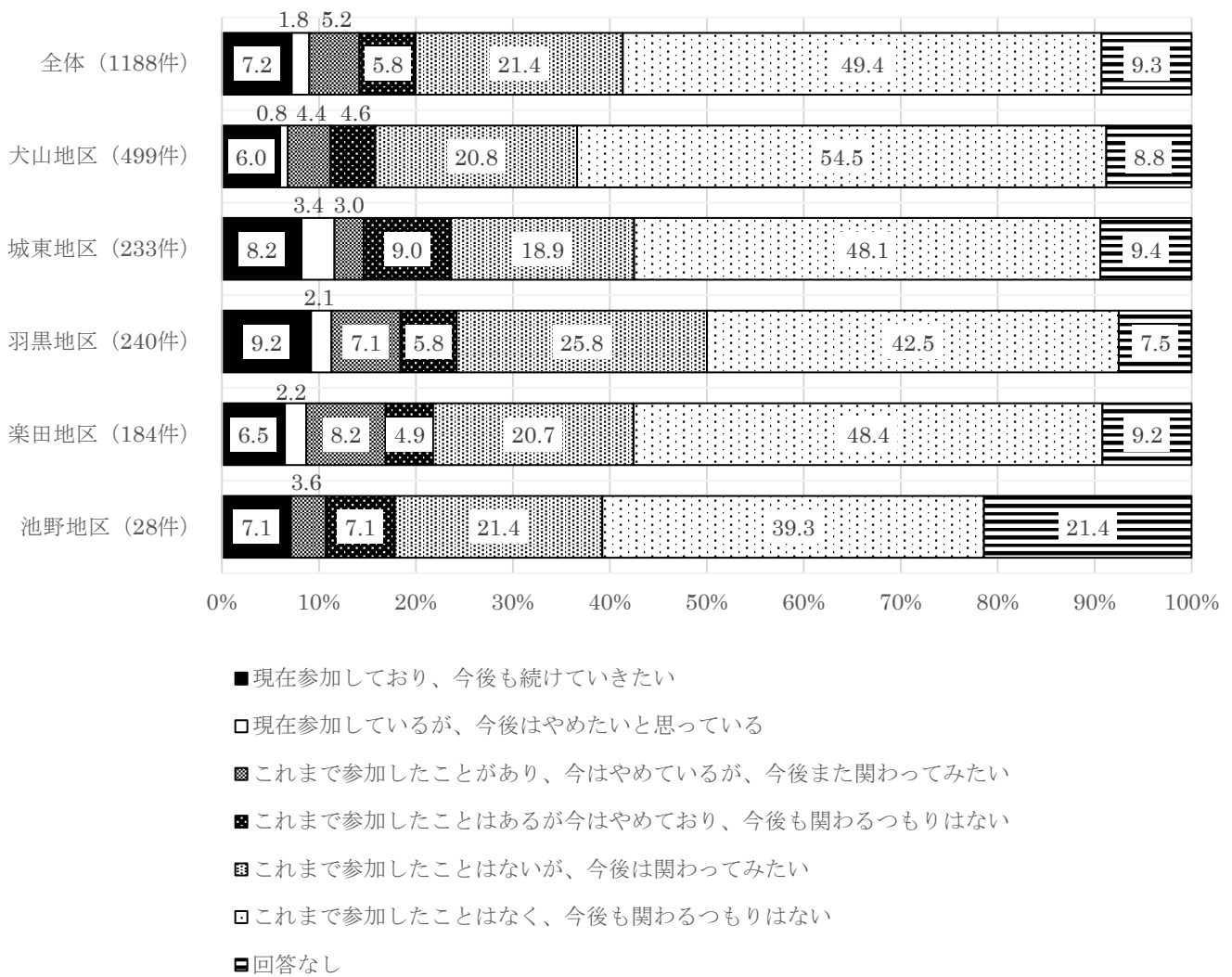


- 現在参加しており、今後も続けていきたい
- 現在参加しているが、今後はやめたいと思っている
- ▨ これまで参加したことがあり、今はやめているが、今後また関わってみたい
- ▩ これまで参加したことはあるが今はやめており、今後も関わるつもりはない
- ▤ これまで参加したことはないが、今後は関わってみたい
- ▥ これまで参加したことはなく、今後も関わるつもりはない
- ▧ 回答なし

○「現在参加しており、今後も続けていきたい」の割合は羽黒地区が9.2%でもっとも高くなっています（図14-②）。

○「これまで参加したことはないが、今後は関わってみたい」と「これまで参加したことはなく、今後も関わるつもりはない」を合わせた「これまで参加したことがない」割合は犬山地区が75.3%でもっとも高く、次いで楽田地区が69.1%となっています（図14-②）。

図14-② 地区別「ボランティア・NPO活動への関わり」



これまでに参加した活動と今後行いたい活動

問14-1 参加したことがある活動はどのような活動ですか（〇はいくつでも）。

問14-2 今後どのような活動に参加したいですか（〇はいくつでも）。

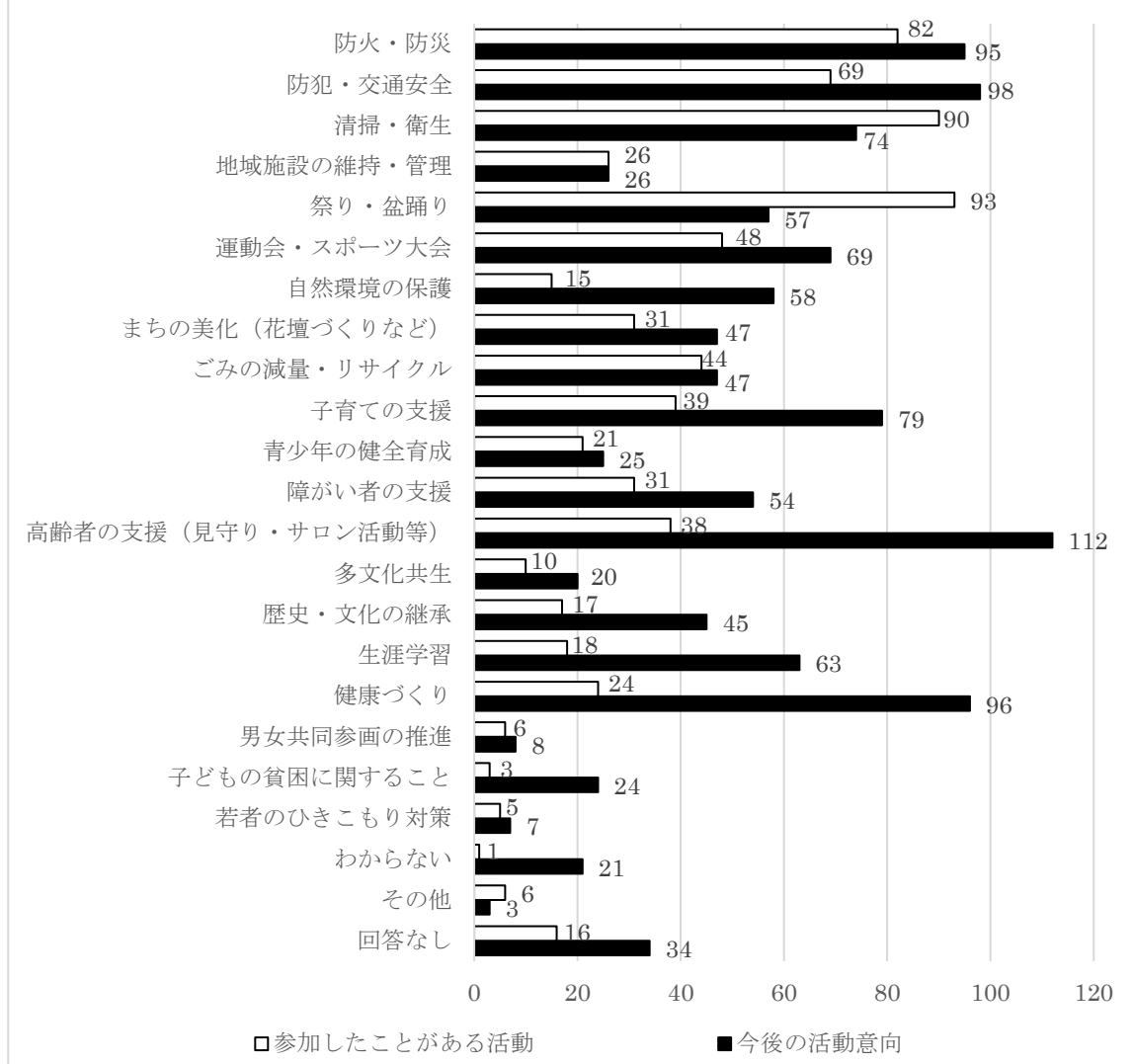
要点

「高齢者の支援」や「健康づくり」は今後の活動ニーズが大きい一方、「祭り・盆踊り」や「清掃・衛生」は今後の活動ニーズが小さくなっています。

活動別

- 「今後行いたい活動」の件数と「これまでに参加した活動」の件数の差を単純比較したとき、「高齢者の支援」については、「これまでに参加した活動」が38件に対し、「今後行いたい活動」は112件で、その差は74件ともっとも大きくなっています（図14-1・2）。
- 同様に、「健康づくり」もその差は72件であり、今後の活動ニーズが大きい分野となっています（図14-1・2）。
- 一方、「祭り・盆踊り」や「清掃・衛生」は今後の活動ニーズの方が小さくなっています（図14-1・2）。

図14-1・2 「これまでに参加した活動と今後行いたい活動」



地域活動に参加するための条件

問14-3 今後どのような条件が整えば、ボランティア・NPO等の活動に参加したいと思いますか
(〇は3つまで)

要点

地域活動に参加するための条件としては、「時間の余裕ができれば」「自分の関心のある内容であれば」が高い割合を占めています。また、「条件にかかわらず参加するつもりはない」が約2割を占めています。

全体

○今後、地域活動に関わるつもりはないと回答した方を対象にたずねたところ、「時間の余裕ができれば」が41.2%ともっとも高く、ついで、「自分の関心のある内容であれば」が30.1%となっています(図14-3)。

○「条件にかかわらず参加するつもりはない」が21.3%と約2割を占めています(図14-3)。

年齢別

○60歳代、70歳以上を除くと、「時間の余裕ができれば」に約6～7割が回答しています(図14-3)。

○70歳以上を除くと、「自分の関心のある内容であれば」に約4割が回答しています(図14-3)。

図14-3 年齢別「地域活動に参加するための条件」

	時間の余裕ができれば	健康状態がよくなれば	一緒に活動する仲間が見つかれば	家族など周囲の理解が得られれば	自分の関心のある内容であれば	活動の機会があれば	金銭的負担がなければ	その他	条件にかかわらず参加するつもりはない	回答なし
全体(677件)	41.2	20.2	18.0	4.4	30.1	16.7	14.9	2.2	21.3	7.4
20歳代以下(37件)	59.5	0.0	24.3	0.0	37.8	16.2	10.8	2.7	21.6	0.0
30歳代(85件)	67.1	1.2	23.5	5.9	37.6	14.1	27.1	3.5	22.4	0.0
40歳代(108件)	67.6	10.2	20.4	4.6	38.9	14.8	17.6	0.9	15.7	0.9
50歳代(78件)	56.4	19.2	14.1	7.7	46.2	19.2	11.5	3.8	9.0	3.8
60歳代(142件)	36.6	23.9	21.8	4.2	30.3	24.6	17.6	2.1	16.2	8.5
70歳以上(224件)	12.9	33.9	12.5	3.6	16.5	12.9	9.4	1.8	30.8	15.2

D 社会貢献意識や地域での付き合いの程度などについて

社会貢献の意思

問15 あなたは社会の一員として何か役立ちたいと思っていますか（〇は1つまで）

要点

「思っている」よりも「あまり考えていない」が約1割高くなっています。

全体

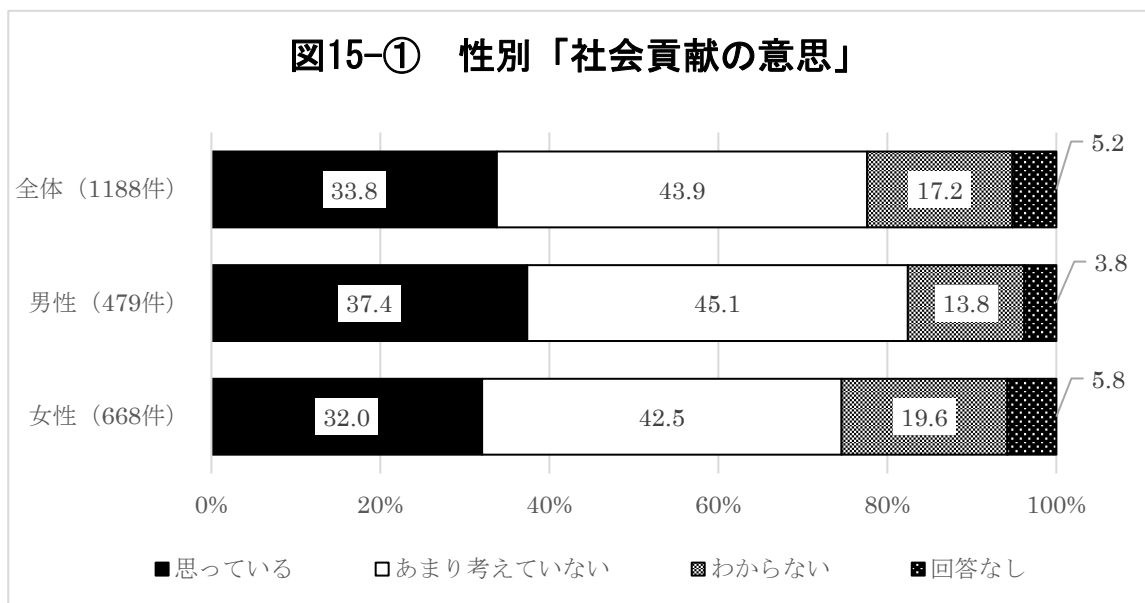
○「思っている」は33.8%、「あまり考えていない」は43.9%、「わからない」は17.2%となっています（図15-①）。

○平成29年1月に内閣府が行った同様の調査では、「思っている」は65.4%、「あまり考えていない」は32.1%、「わからない」は2.5%となっており、「思っている」の割合が30%以上低くなっています。

性別

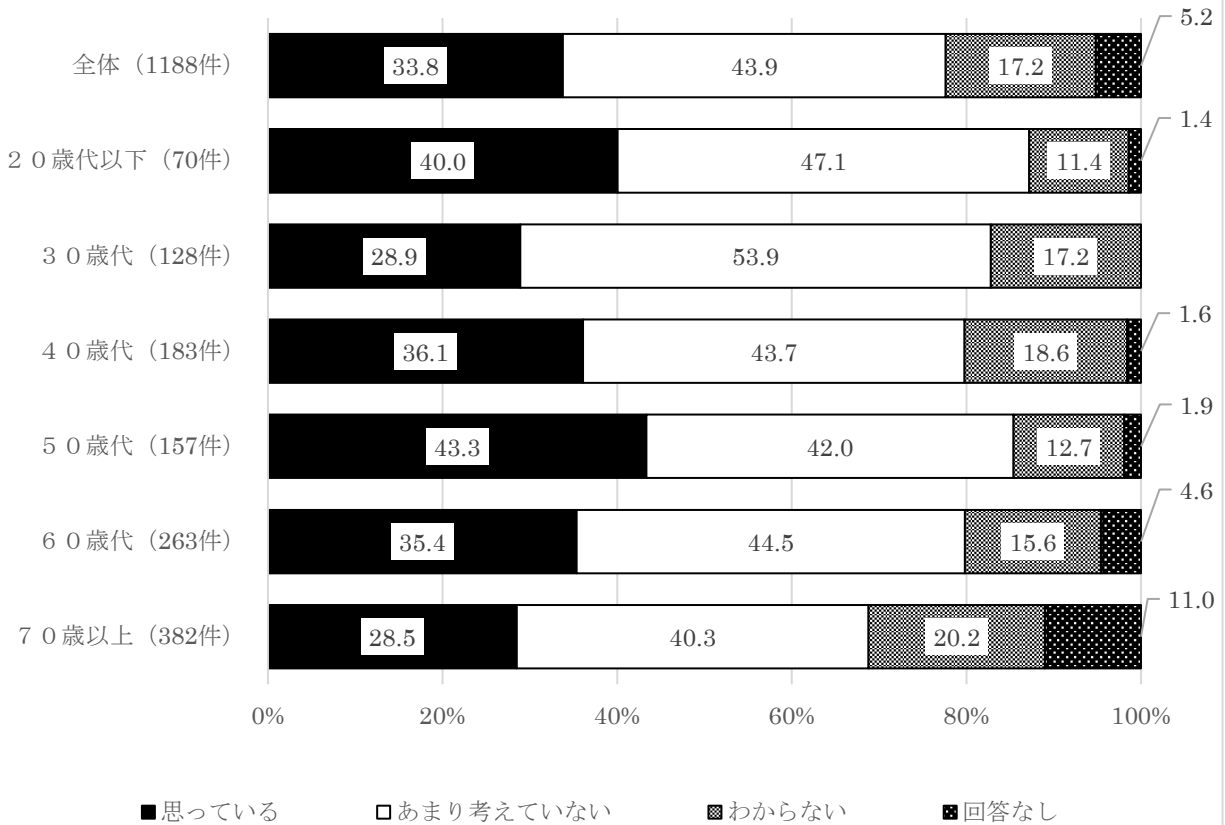
○「思っている」は、男性の方が女性より5.4%高くなっています（図15-①）。

○「あまり考えていない」は男女ともに約4割となっています（図15-①）。

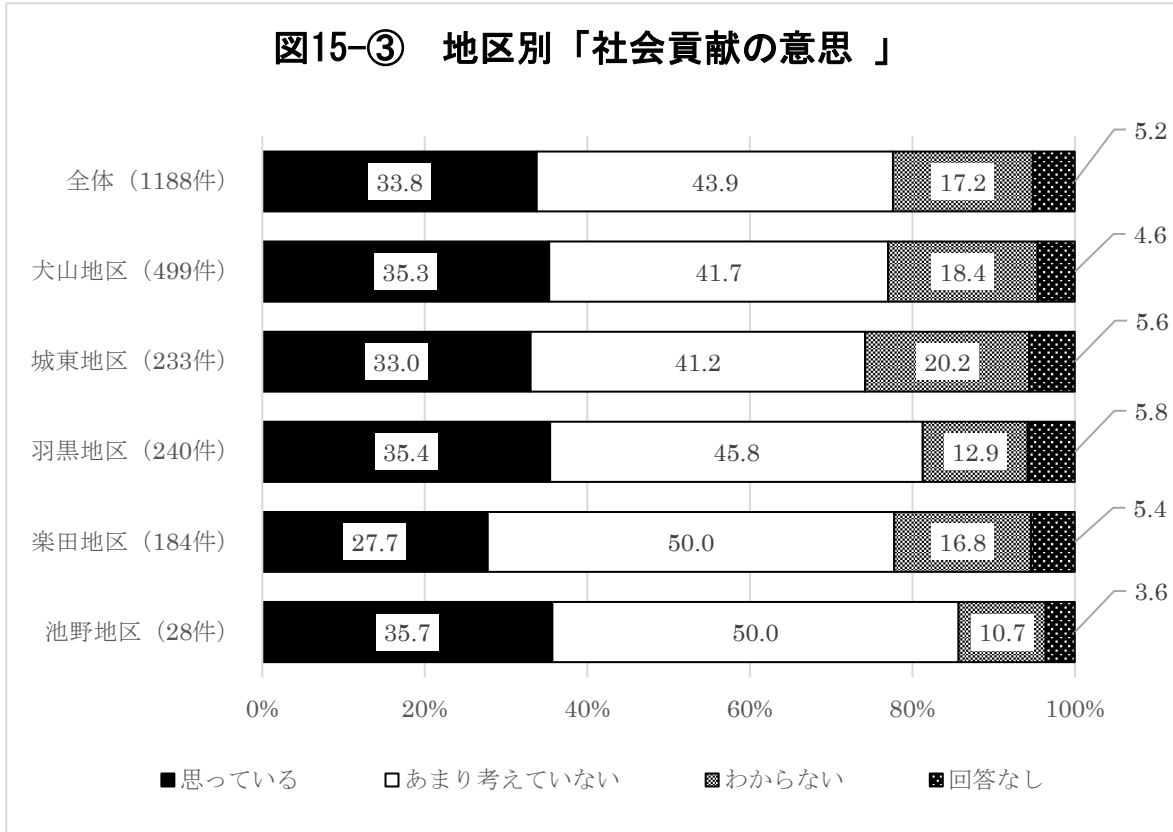


- 「思っている」がいちばん高かったのは50歳代で43.3%、次いで20歳代以下が40.0%、40歳代が36.1%となっています（図15-②）。
- 「あまり考えていない」がいちばん高かったのは30歳代で53.9%、次いで20歳代以下が47.1%、60歳代が44.5%となっています（図15-②）。

図15-② 年齢別「社会貢献の意思」



- 「思っている」は全ての地区で約3割を示しています（図15-③）。
- 「あまり考えていない」は、楽田地区と池野地区がともに50.0%、次いで羽黒地区が45.8%となっています（図15-③）。



社会貢献の具体的内容

問16 何か社会のために役立ちたいと思っているのはどのようなことですか（〇はいくつでも）

※問15で1. に〇印をつけた方のみ回答

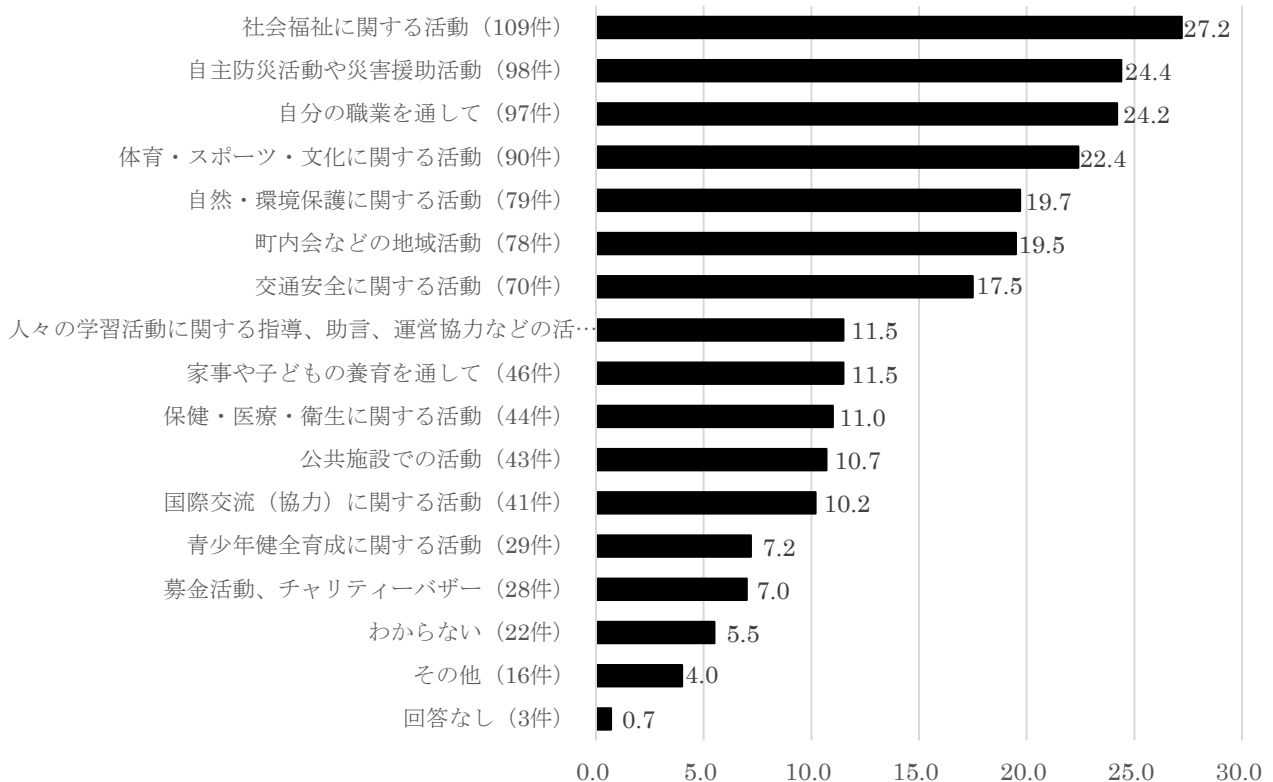
要点

社会貢献の具体的内容については「社会福祉に関する活動」「自主防災活動や災害援助活動」という回答が多く、「募金活動、チャリティーバザー」「青少年健全育成に関する活動」という回答が少なくなっています。

全体

- 社会貢献の具体的内容について、回答がもっとも多い項目は「社会福祉に関する活動(27.2%)」であり、次いで「自主防災活動や災害援助活動(24.4%)」、「自分の職業を通して(24.2%)」となっています(図16-①)。
- また、もっとも回答が少なかったのは「募金活動、チャリティーバザー(7.0%)」であり、次いで「青少年健全育成に関する活動(7.2%)」となっています(図16-①)。
- 内閣府の調査では、回答が多い順に「社会福祉に関する活動(38.8%)」、「町内会などの地域活動(30.1%)」、「自然・環境保護に関する活動(29.2%)」となっており、「青少年健全育成に関する活動(8.6%)」が最も少なくなっています(図16-①)。

図16-① 「社会貢献の具体的内容」



現在の地域での付き合いの程度

問17 あなたは、地域での付き合いをどの程度していますか。(〇は1つまで)

要点

市民の約5割が地域との付き合いがありますが、地域との付き合いが全くない市民が1割弱います。

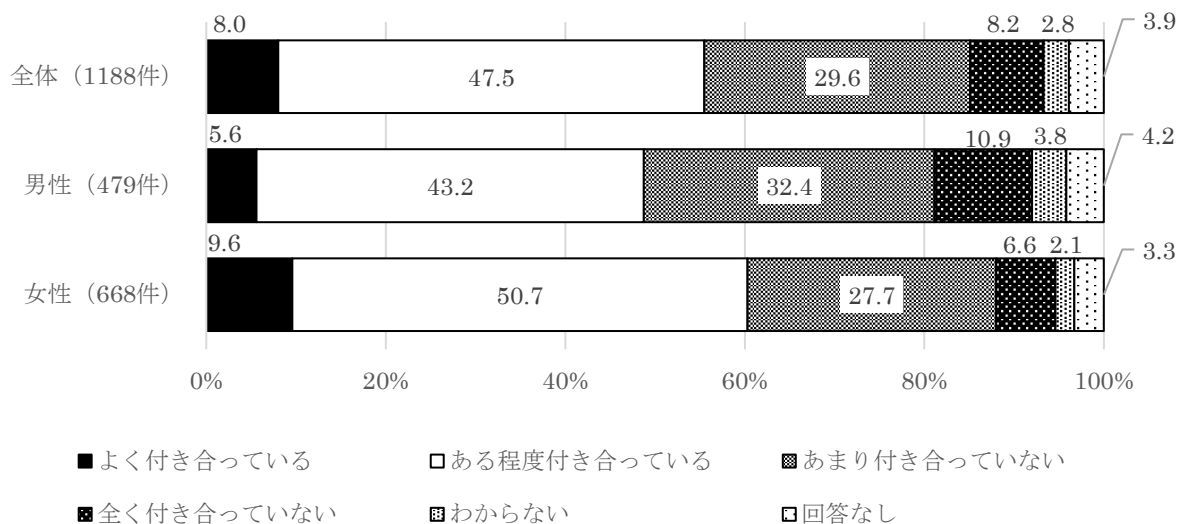
全体

- 「よく付き合っている (8.0%)」と「ある程度付き合っている (47.5%)」を合計した「付き合っている」の割合は 55.5%となり、回答者の5割以上は地域との付き合いがあります (図10-1)。
- 「あまり付き合っていない (29.6%)」と「全く付き合っていない (8.2%)」を合計した「付き合っていない」の割合は 37.8%となっています (図10-1)。
- 内閣府の調査では、「付き合っている (67.0%)」、「付き合っていない (32.9%)」となっています。

性別

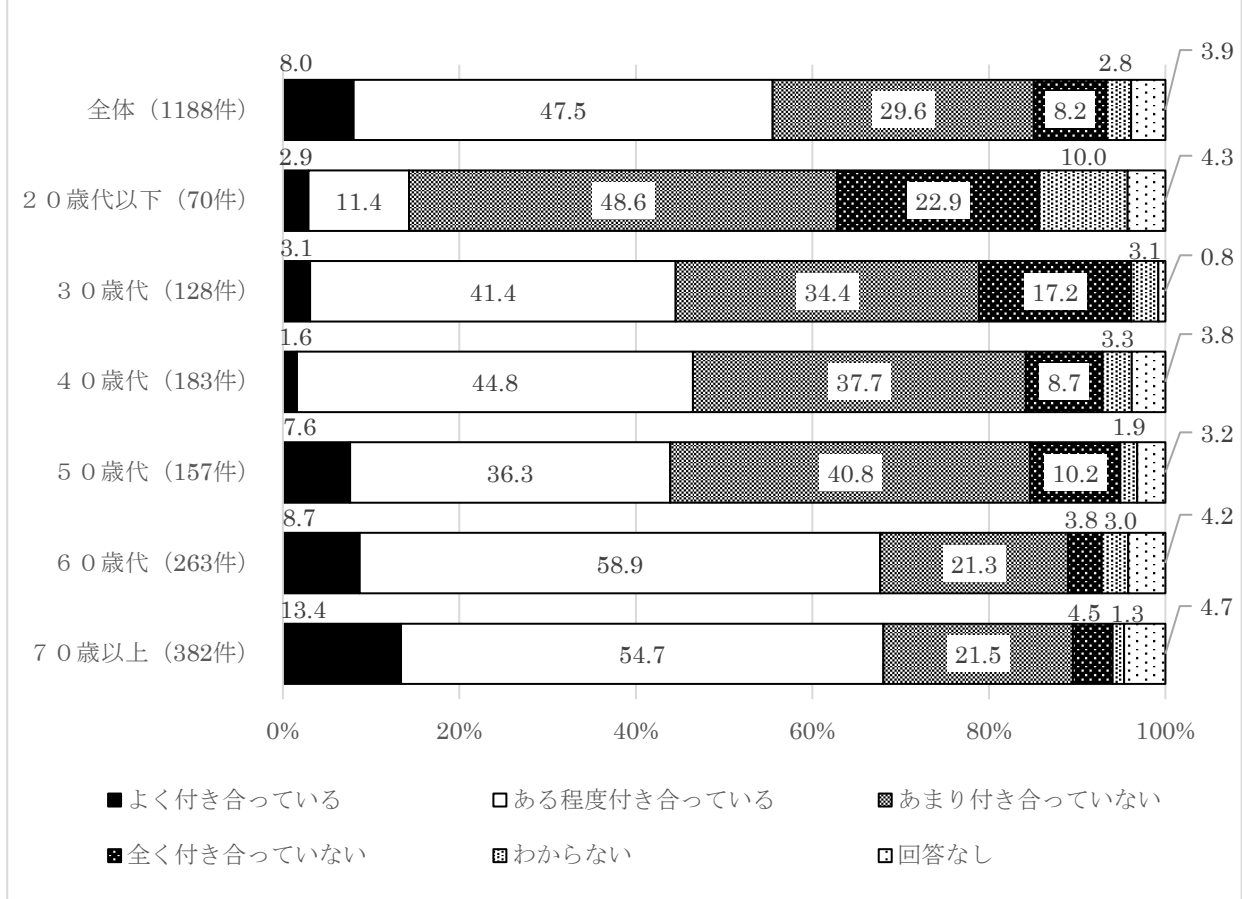
- 「よく付き合っている」と「ある程度付き合っている」を合計した「付き合っている」の割合を見ると、「女性」が60.3%、「男性」が48.8%で、11.5ポイントの差があります (図17-①)。
- 「全く付き合っていない」と回答した「男性」は10.9%となっています (図17-①)。

図17-① 性別「現在の地域での付き合いの程度」



- 「よく付き合っている」と「ある程度付き合っている」を合計した「付き合っている」の割合を見ると、「70歳以上 (68.1%)」がもっとも高く、次いで「60歳代 (67.6%)」となっています。一方、「20歳代以下 (14.3%)」がもっとも低い割合となっています (図17-②)。
- 「全く付き合っていない」の割合については、「20歳代以下 (22.9%)」がもっとも高く、ついで「30歳代 (17.2%)」となっています (図17-②)。

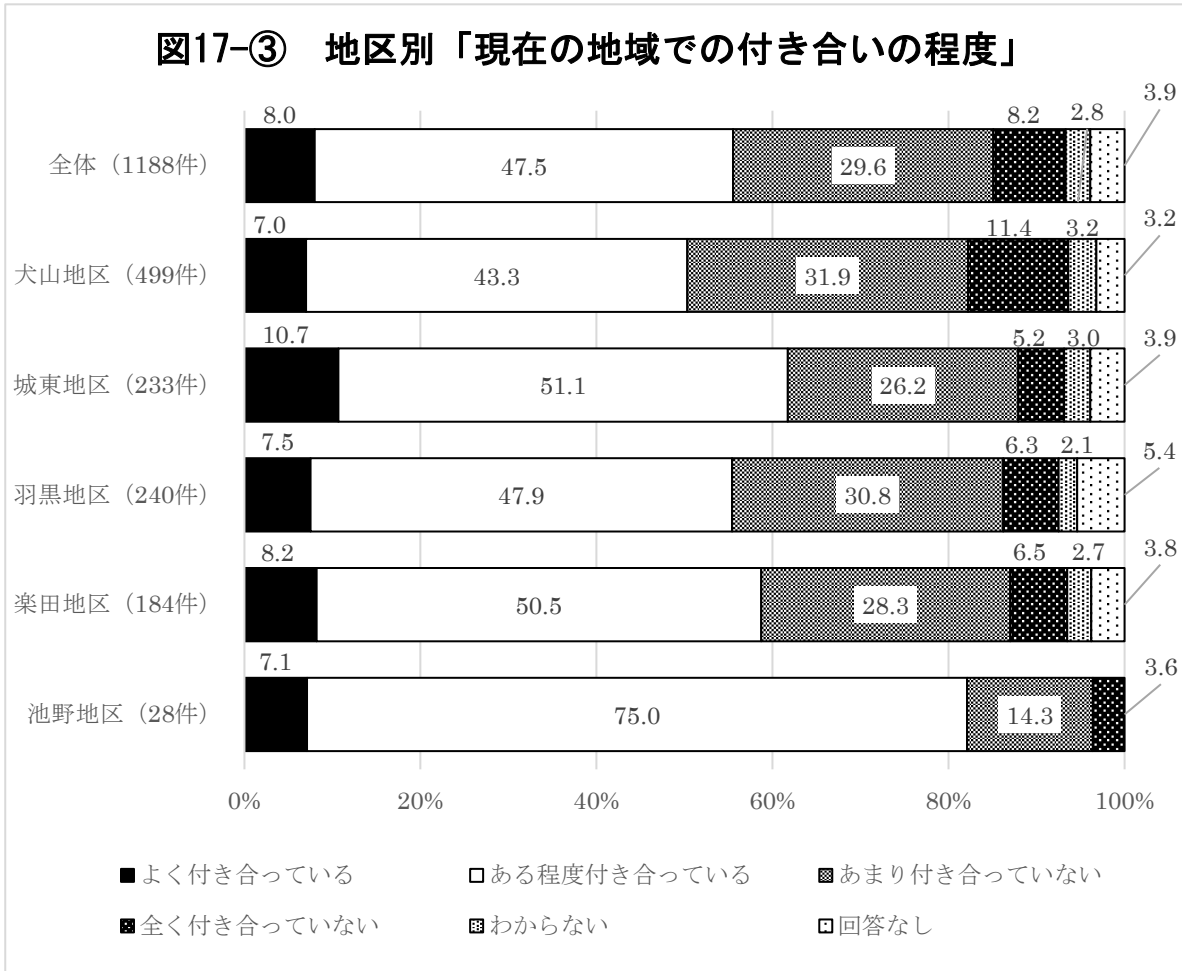
図17-② 年齢別「現在の地域での付き合いの程度」



○「よく付き合っている」と「ある程度付き合っている」を合計した「付き合っている」の割合を見ると、「池野地区（82.1%）」がもっとも高く、次いで「城東地区（61.8%）」となっています（図17-③）。

○「全く付き合っていない」の割合については、「犬山地区（11.4%）」がもっとも高くなっています（図17-③）。

図17-③ 地区別「現在の地域での付き合いの程度」



望ましい地域での付き合いの程度

問18 地域での付き合いは、どの程度が望ましいと思いますか（○は1つまで）

要点

「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う」と「気の合う住民の間で困ったときに助け合う」を合わせると約5割になります。

全体

○「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う（26.6%）」の割合がもっとも高くなっており、次いで「気の合う住民の間で困ったときに助け合う（22.8%）」、「困ったときに助け合うことはしなくても、住民の間であいさつを交わす（19.6%）」となっています。

○内閣府の調査では、「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う（41.4%）」の割合がもっとも高くなっており、次いで「気の合う住民の間で困ったときに助け合う（26.0%）」、「困ったときに助け合うことはしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する（16.6%）」の順となっています。

性別

○男性は「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う（30.1%）」の割合がもっとも高くなっています（図18-①）。

○女性は「気の合う住民の間で困ったときに助け合う（25.1%）」の割合がもっとも高くなっています（図18-①）。

図18-① 性別「望ましい地域の付き合いの程度」

	住民全ての間で困ったときに互いに助け合う	気の合う住民の間で困ったときに助け合う	困ったときに助け合うことはしなくても、住民の間であいさつを交わす	困ったときに助け合うことはしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する	困ったときに助け合うことはしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する	困ったときに助け合うことはしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する	地域での付き合いは必要ない	その他	わからない	回答なし
全体(1188件)	26.6	22.8	19.6	12.8	8.9	0.9	1.4	4.0	2.9	
男性(479件)	30.1	20.3	18.0	15.2	8.6	0.8	1.3	3.5	2.3	
女性(668件)	24.4	25.1	20.8	10.8	9.1	1.0	1.5	4.2	3.0	

- 「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う」は70歳以上(29.8%)、60歳代(28.9%)、40歳代(26.8%)でそれぞれいちばん高い割合を示しています(図18-②)。
- 一方で「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」は20歳代以下(31.4%)、30歳代(30.5%)、50歳代(23.6%)でそれぞれいちばん高い割合を示しています(図18-②)。

図18-② 年齢別「望ましい地域の付き合いの程度」

	住民全ての間で困ったときに互いに助け合う	助け合う住民の間で困ったときに	や催しに参加する機会がみなまで行事は	困ったときに、住民の間で世間話は	立ち話を、住民の間で世間話は	を交わす、住民の間であいさつ	地域での付き合いは必要ない	その他	わからない	回答なし
全体(1188件)	26.6	22.8	12.8	8.9	19.6	0.9	1.4	4.0	2.9	
20歳代以下(70件)	22.9	21.4	10.0	5.7	31.4	2.9	1.4	4.3	0.0	
30歳代(128件)	20.3	26.6	8.6	6.3	30.5	0.8	1.6	3.1	2.3	
40歳代(183件)	26.8	25.1	11.5	9.3	20.8	0.5	1.6	2.7	1.6	
50歳代(157件)	21.7	21.0	14.6	7.6	23.6	0.6	1.3	6.4	3.2	
60歳代(263件)	28.9	23.2	15.6	9.9	14.4	0.0	1.5	4.2	2.3	
70歳以上(382件)	29.8	21.5	12.8	10.2	14.9	1.3	1.3	3.7	4.5	

- 「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う」は犬山地区、羽黒地区、楽田地区、池野地区において、それぞれいちばん高い割合を示しています（図 18-③）。
- 城東地区は、「気の合う住民の間で困ったときに助け合う」がいちばん高い割合を示しています（図 18-③）。

図 18-③ 地区別「望ましい地域での付き合いの程度」

	住民全ての間で困ったときに互いに助け合う	気の合う住民の間で困ったときに助け合う	や催しに参加する住民がみんなまで行事は	困ったときに住民の間で世間話は	立ち話をする住民の間で世間話は	をしなくても、住民の間であいさつを交わす	地域での付き合いは必要ない	その他	わからない	回答なし
全体(1188件)	26.6	22.8	12.8	8.9	19.6	0.9	1.4	4.0	2.9	
犬山地区(499件)	25.9	18.2	13.0	9.6	23.6	1.0	1.6	4.6	2.4	
城東地区(233件)	26.2	28.3	11.6	9.0	17.2	0.9	1.3	3.4	2.1	
羽黒地区(240件)	25.4	25.0	13.8	9.2	18.3	1.3	1.3	2.9	2.9	
楽田地区(184件)	29.9	26.1	12.0	6.5	15.2	0.0	1.1	3.8	5.4	
池野地区(28件)	35.7	17.9	17.9	10.7	3.6	3.6	3.6	7.1	0.0	

E 自治や市民活動に関する条例等の認知度について

犬山市議会基本条例の認知度

問19 あなたは「犬山市議会基本条例」を知っていますか（〇は1つまで）

要点

犬山市議会基本条例の認知度は36.2%となっています。

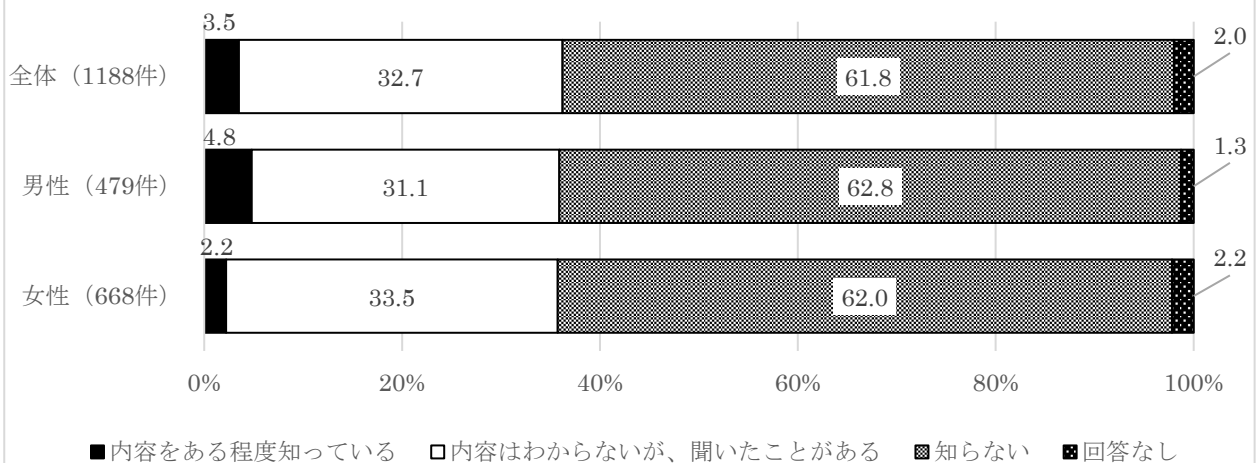
全体

〇「内容をある程度知っている」という市民は3.5%となっており、「内容はわからないが、聞いたことがある（32.7%）」を合わせると、「知っている市民」は36.2%になります（図19-1）。

性別

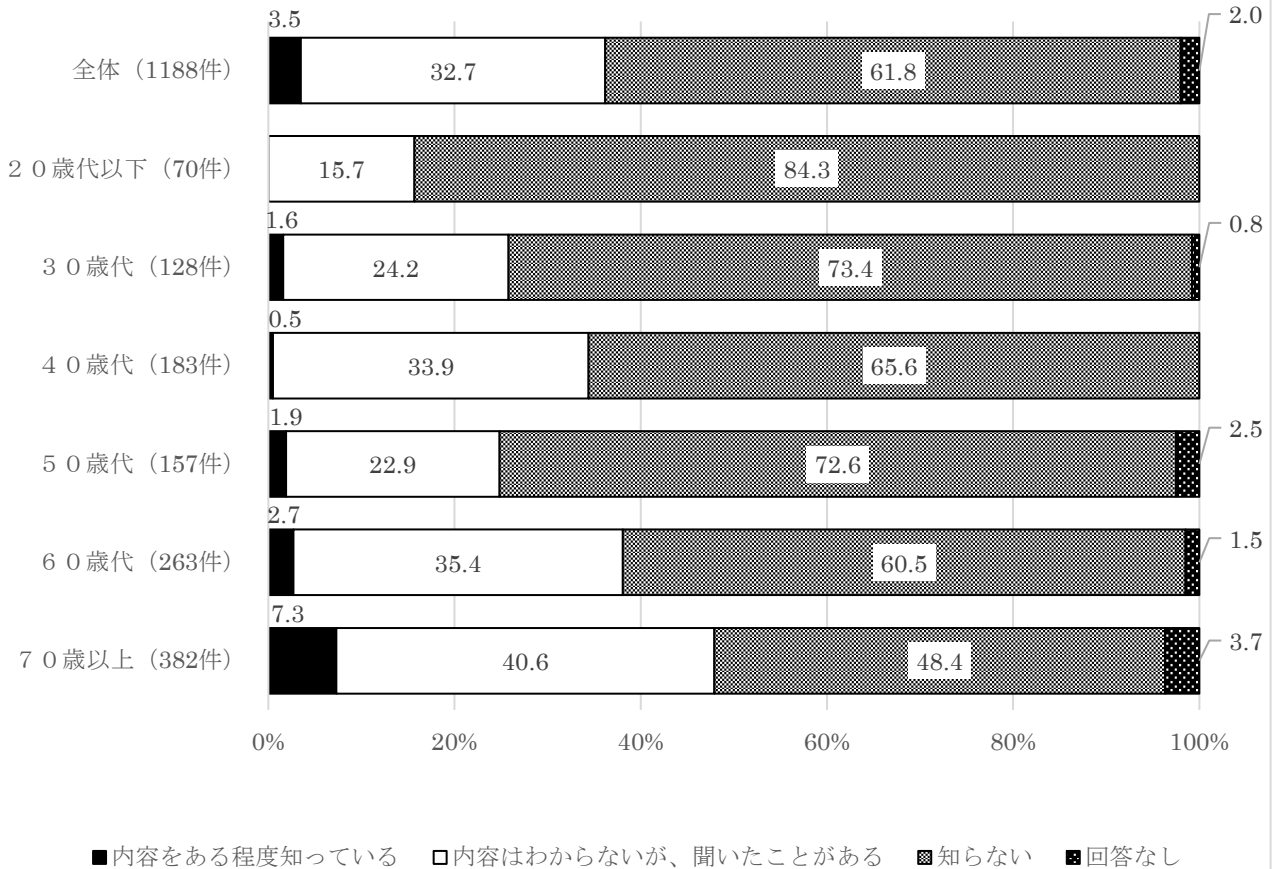
〇性別による有意な差はほとんどみられません（図19-①）。

図19-① 性別「犬山市議会基本条例の認知度」

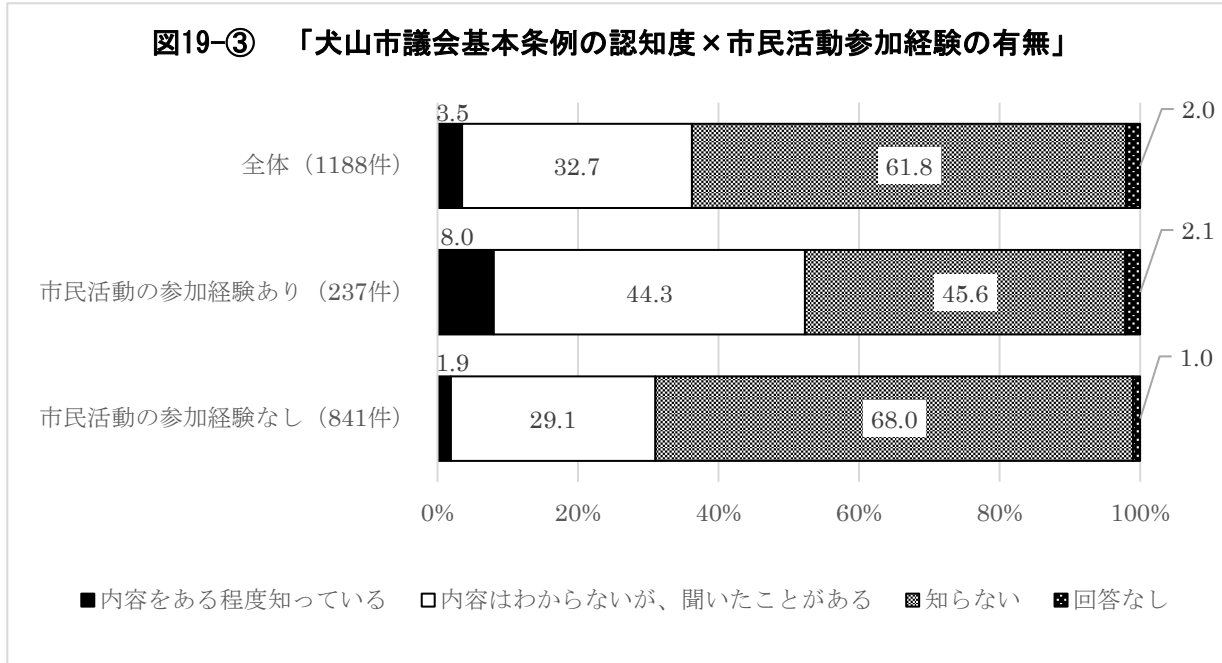


- 「内容をある程度知っている」はもっとも多い70歳以上でも7.3%にとどまっています。「内容はわからないが、聞いたことがある（40.6%）」を加えると、70歳以上では認知度が47.9%になります（図19-②）。
- 一方で、20歳代以下は認知度が15.7%ともっとも低くなっており、「内容をある程度知っている」と回答した人はいませんでした（図19-②）。

図19-② 年齢別「犬山市議会基本条例の認知度」



○犬山市議会基本条例の認知度について、「市民活動の参加経験あり」の市民は認知度が52.3%なのに対して、「市民活動の参加経験なし」の市民は認知度が31.0%となっています（図19-③）。



犬山市市民活動の支援に関する条例の認知度

問20 あなたは「犬山市市民活動の支援に関する条例」を知っていますか（○は1つまで）

要点

犬山市市民活動の支援に関する条例の認知度は28.9%となっています。

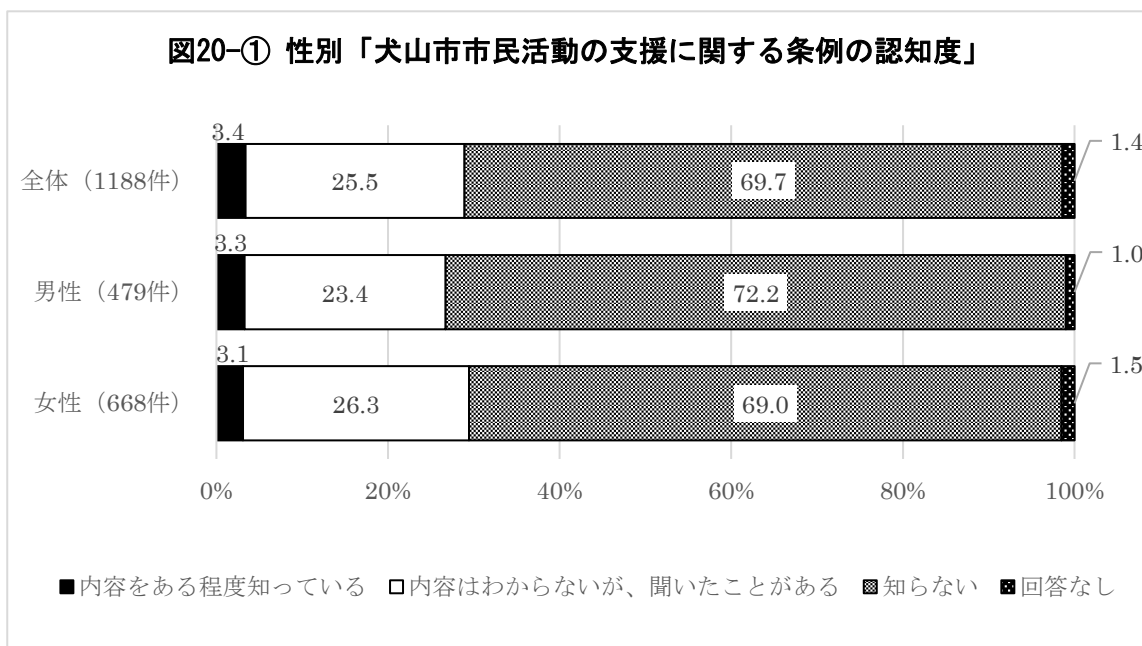
全体

○「内容をある程度知っている」という市民は3.4%となっています。「内容はわからないが、聞いたことがある（25.5%）」とあわせると、「知っている市民」は28.9%になります。犬山市議会基本条例の認知度よりも低い水準となっています（図20-①）。

性別

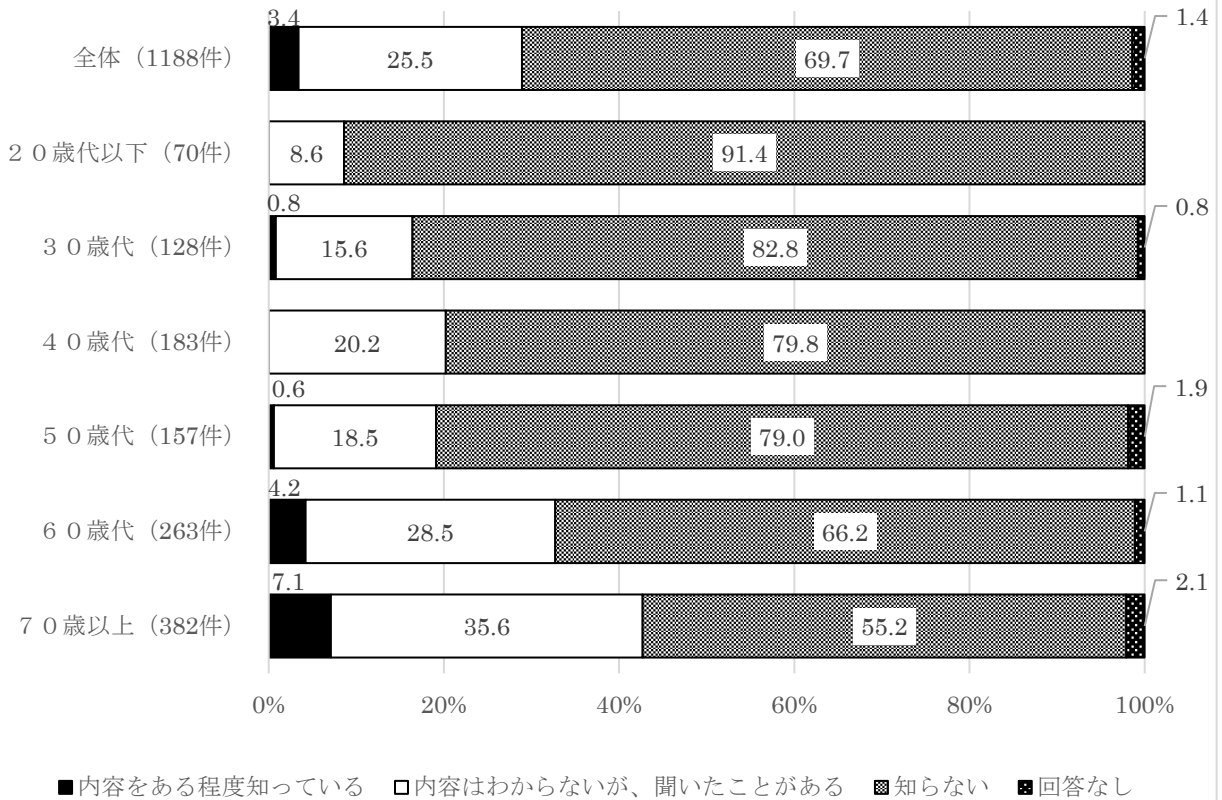
○性別による有意な差はほとんどみられません（図20-①）。

図20-① 性別「犬山市市民活動の支援に関する条例の認知度」

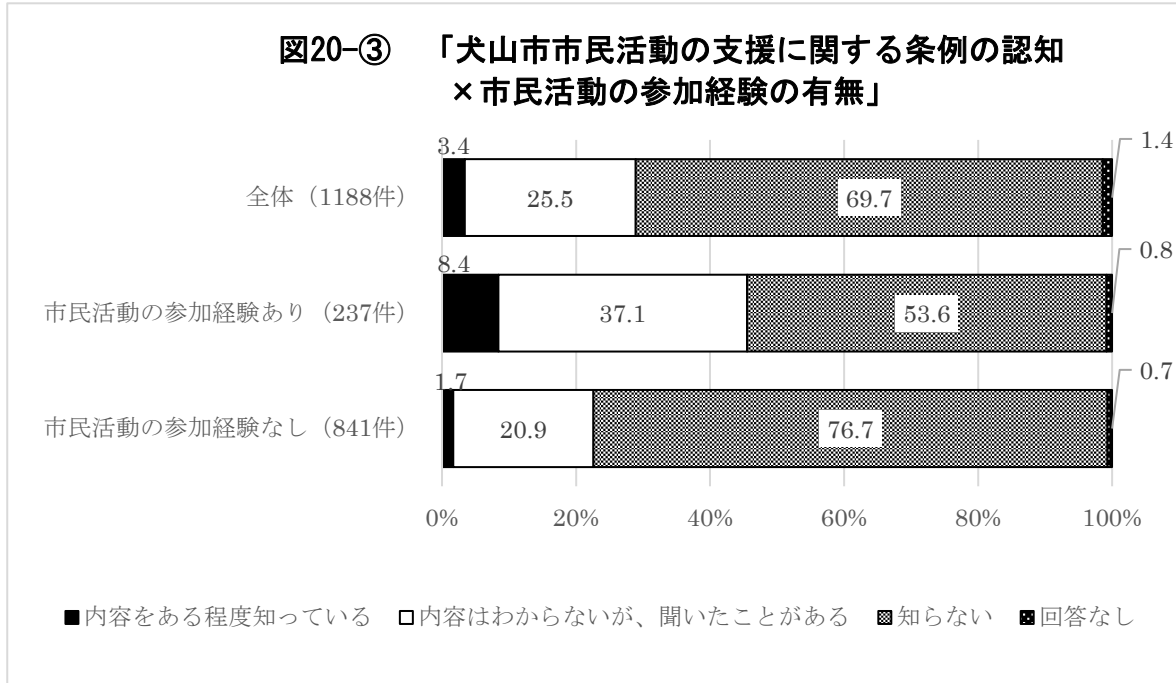


- 「内容をある程度知っている」はもっとも多い70歳以上でも7.1%にとどまっています。「内容はわからないが、聞いたことがある(35.6%)」を加えると、70歳以上では認知度が42.7%になります(図20-②)。
- 一方で、20歳代以下は認知度が8.6%ともっとも低くなっています(図20-②)。

図20-② 年齢別「犬山市市民活動の支援に関する条例の認知度」



○犬山市市民活動の支援に関する条例の認知度について、「市民活動の参加経験あり」の市民は認知度が45.5%なのに対して、「市民活動の参加経験なし」の市民は認知度が22.6%となっており、2倍近い差があります(図20-③)。



「協働」という言葉の認知度

問21 あなたは「協働」という言葉を知っていますか（○は1つまで）

要点

協働という言葉の認知度は43.6%で、犬山市議会基本条例（36.2%）や犬山市市民活動の支援に関する条例（28.9%）の認知度よりも高い水準になっています。

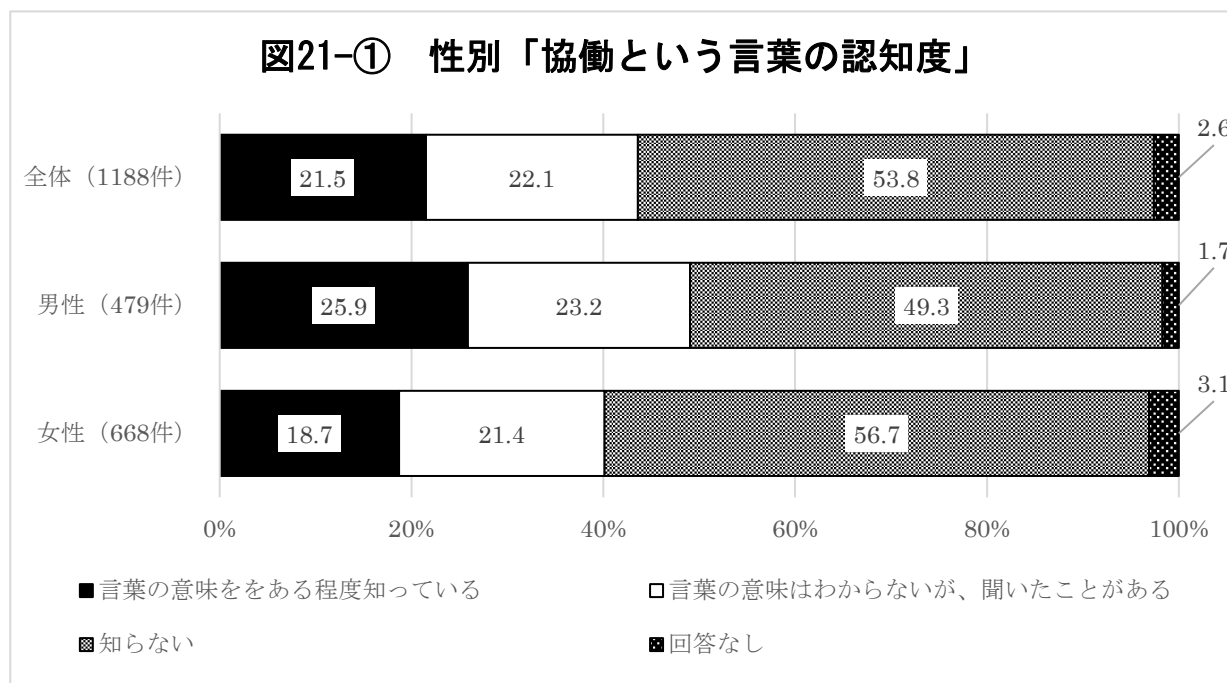
全体

○協働という言葉について「言葉の意味をある程度知っている」という市民は21.5%で、「言葉の意味はわからないが、聞いたことがある（22.1%）」をあわせると、「知っている市民」は43.6%になります。犬山市議会基本条例や犬山市市民活動の支援に関する条例の認知度よりも高い水準になっています（図21-①）。

性別

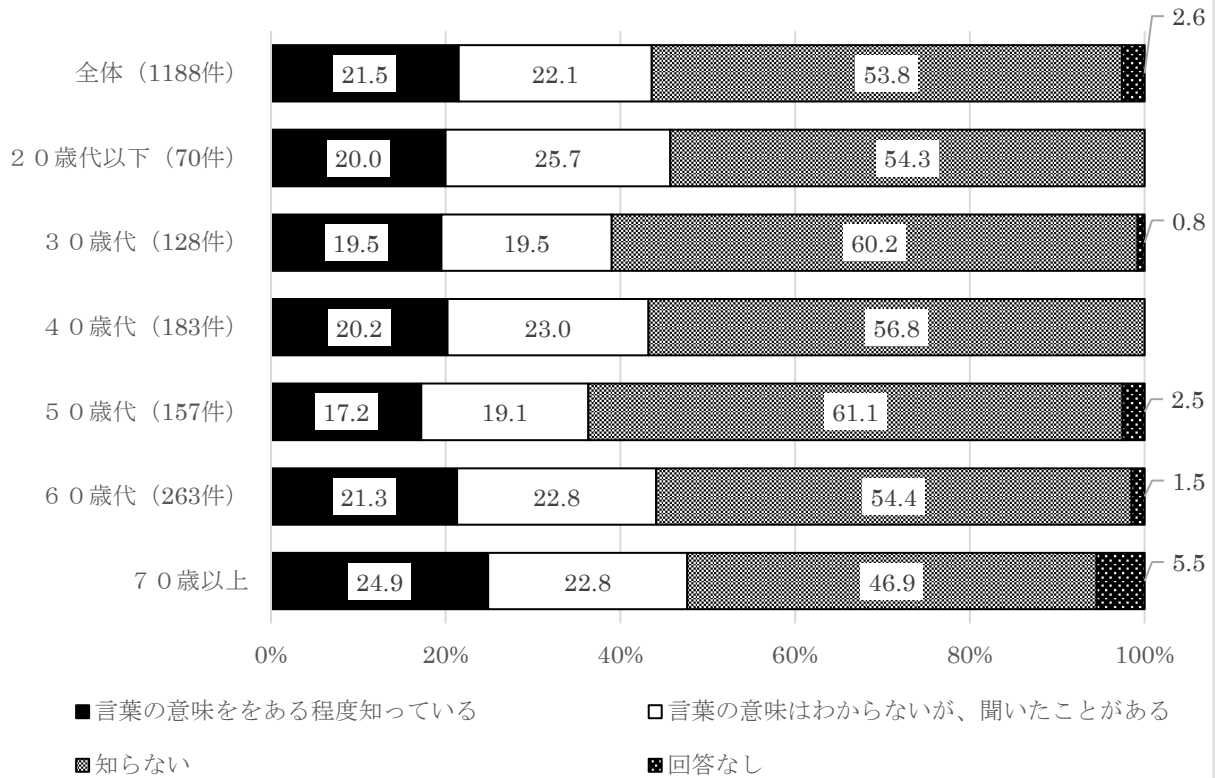
○協働という言葉の認知度は、男性の方が女性よりも若干高くなっています（図21-①）。

図21-① 性別「協働という言葉の認知度」

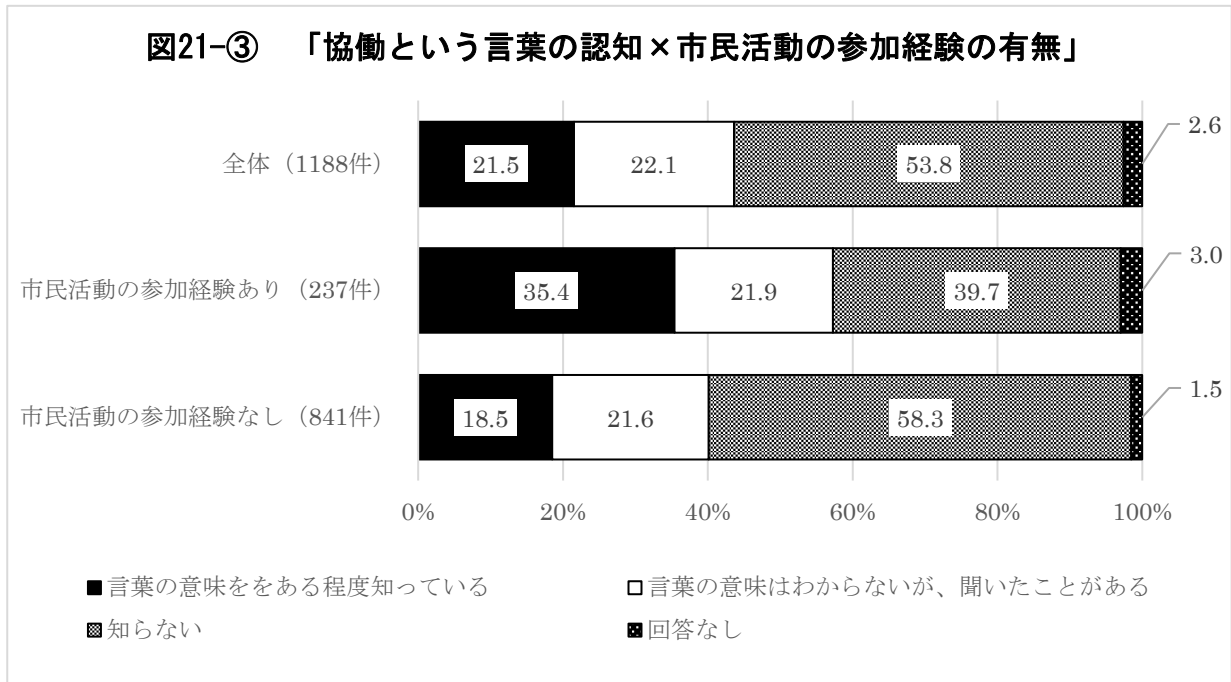


- 全般的に協働という言葉の認知度に年齢による大きな差はみられませんが、「言葉の意味をある程度知っている」という割合は70歳以上で24.9%と若干多くなっています（図21-②）。
- 「知らない」という割合は50歳代（61.1%）がもっとも多くなっています（図21-②）。

図21-② 年齢別「協働という言葉の認知度」



○協働という言葉の認知度について、「市民活動の参加経験あり」の市民は認知度が57.3%なのに対して、「市民活動の参加経験なし」の市民は認知度が40.1%となっています（図21-③）。
○特に、「言葉の意味をある程度知っている」と回答した割合は「経験あり」35.4%に対して「経験なし」は18.5%と2倍近い差がついています（図21-③）。



類似条例の認知度

問22 「協働まちづくり条例」や「まちづくり基本条例」、「自治基本条例」などという名称の条例が全国各地で制定されていますが、あなたは、このような条例を知っていますか。
(〇は1つまで)

要点

「協働まちづくり条例」や「まちづくり基本条例」、「自治基本条例」などという名称の条例の認知度は32.0%となっています。

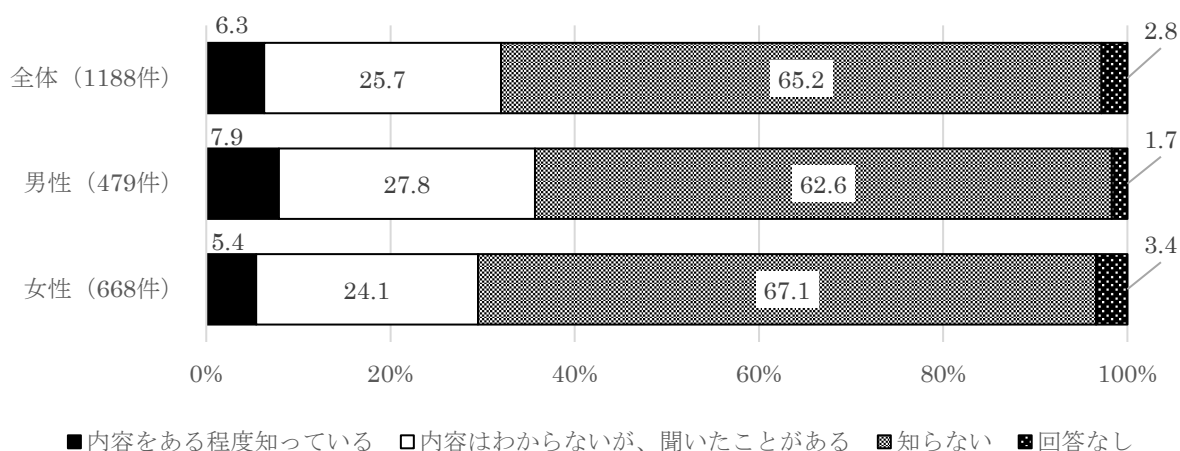
全体

〇「内容をある程度知っている」という市民は6.3%となっています。「内容はわからないが、聞いたことがある(25.7%)」とあわせると、「知っている市民」は32.0%になります(図22-①)。

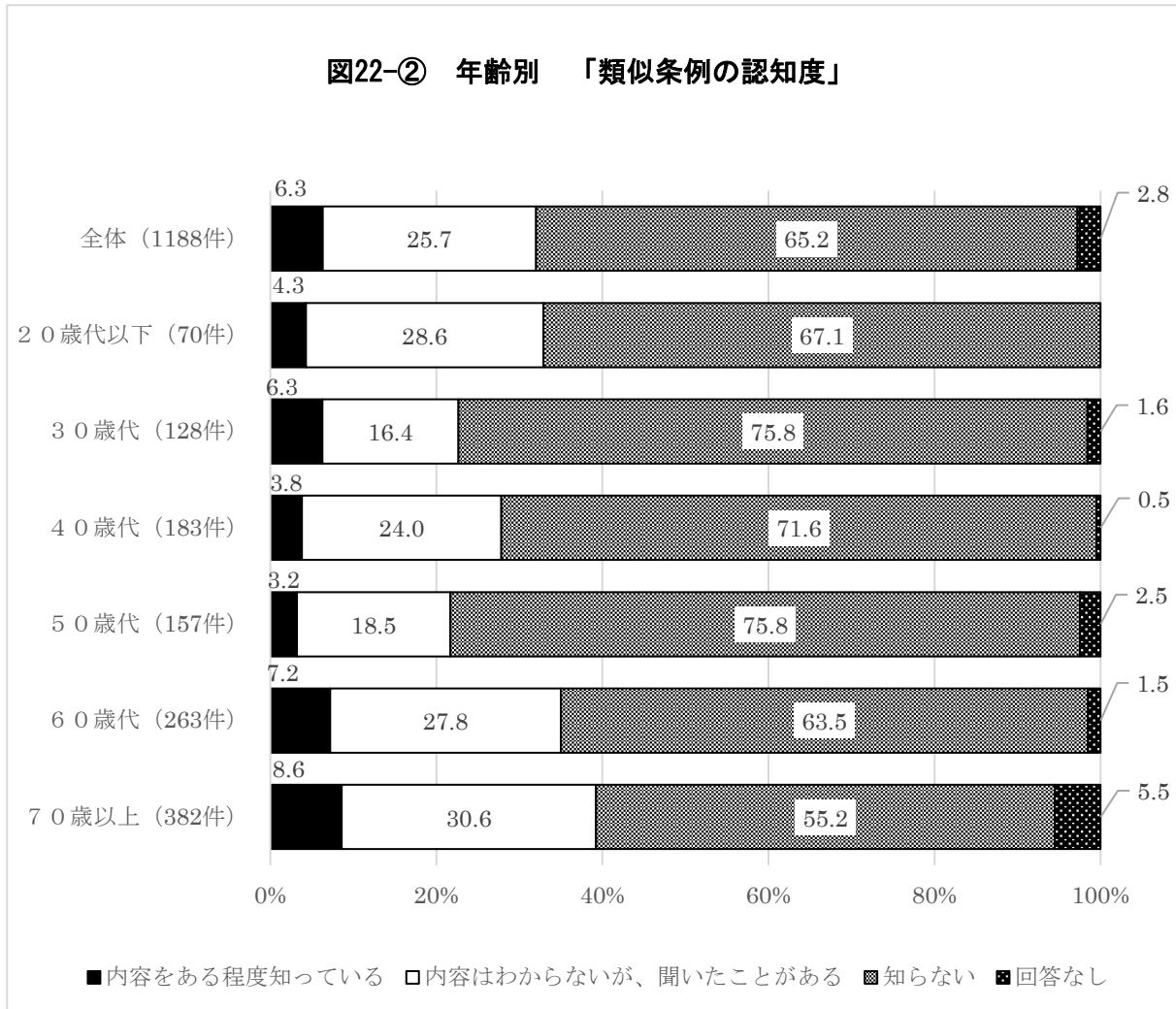
性別

〇認知度は、男性の方が女性よりも若干高くなっています(図22-①)。

図22-① 性別 「類似条例の認知度」

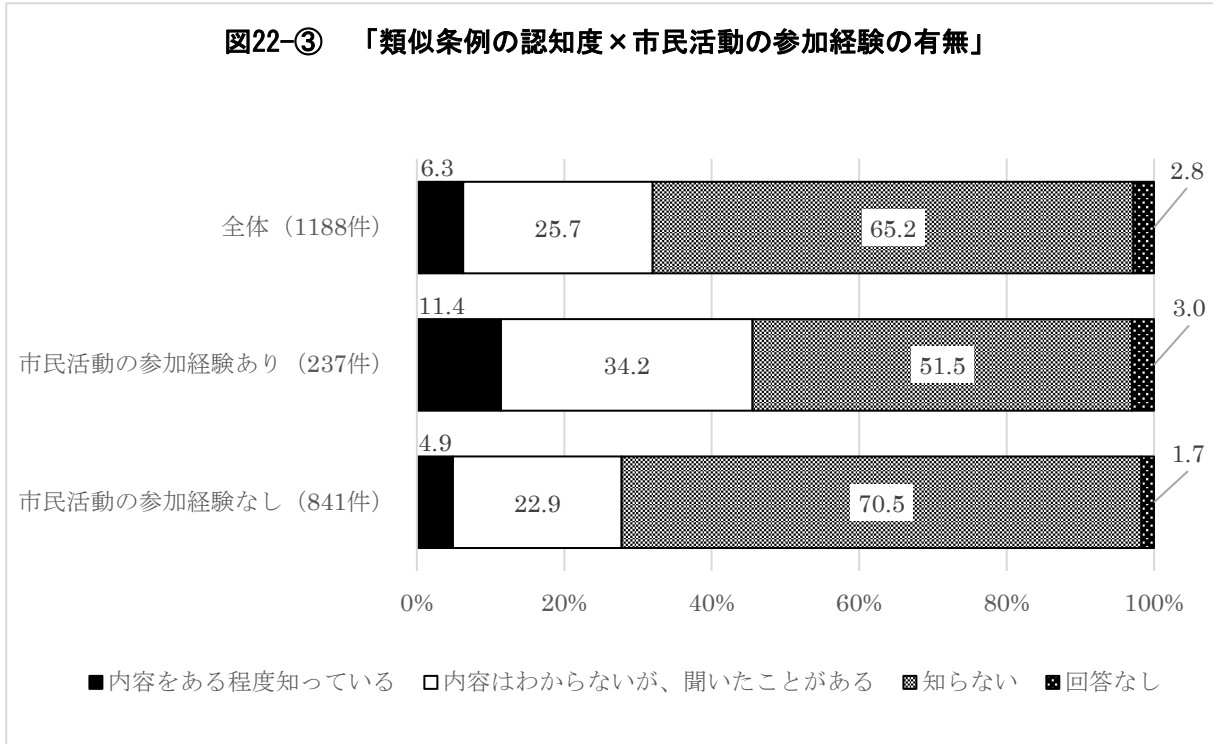


- 「内容をある程度知っている」と「内容はわからないが、聞いたことがある」をあわせると、70歳以上(39.2%)がもっとも多く、次いで60歳代(35.0%)、20歳代以下(32.9%)となっています(図22-②)。
- 「知らない」の割合は30歳代と50歳代がともに75.8%でもっとも多くなっています(図22-②)。



○自治基本条例、まちづくり基本条例、協働まちづくり条例の認知度について、「市民活動の参加経験あり」の市民は認知度が45.6%なのに対して、「市民活動の参加経験なし」の市民は認知度が27.8%となっています（図22-③）。

図22-③ 「類似条例の認知度×市民活動の参加経験の有無」



(仮称) 犬山市協働のまちづくり基本条例の意義

問23 犬山市で「協働まちづくり条例」や「まちづくり基本条例」、「自治基本条例」に類する「(仮称) 犬山市協働のまちづくり基本条例」が検討されていることについてどう思いますか。
(〇は1つまで)

要点

市民の7割以上が条例が検討されていることを「意義がある」と考えています。

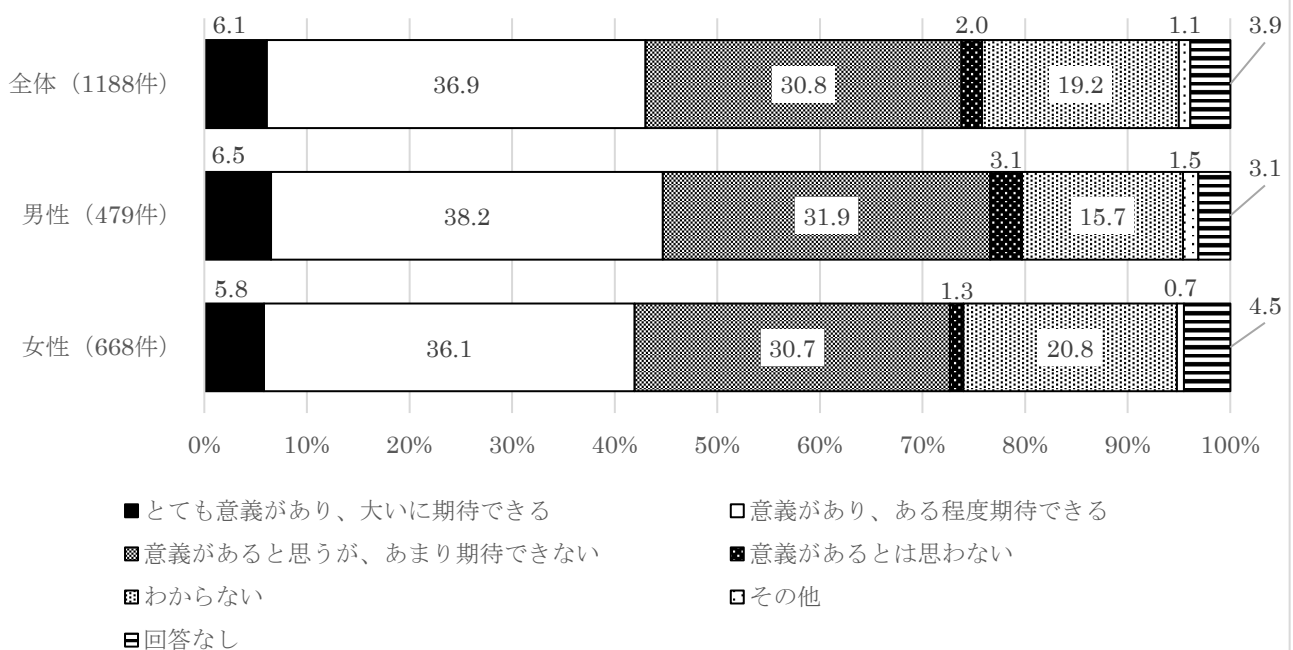
全体

- 「とても意義があり、大いに期待できる」、「意義があり、ある程度期待できる」、「意義があると思うが、あまり期待できない」を合わせると、「意義があると思う市民」は73.8%となっています(図23-①)
- 「意義があるとは思わない」は2.0%と少数にとどまっています(図23-①)。

性別

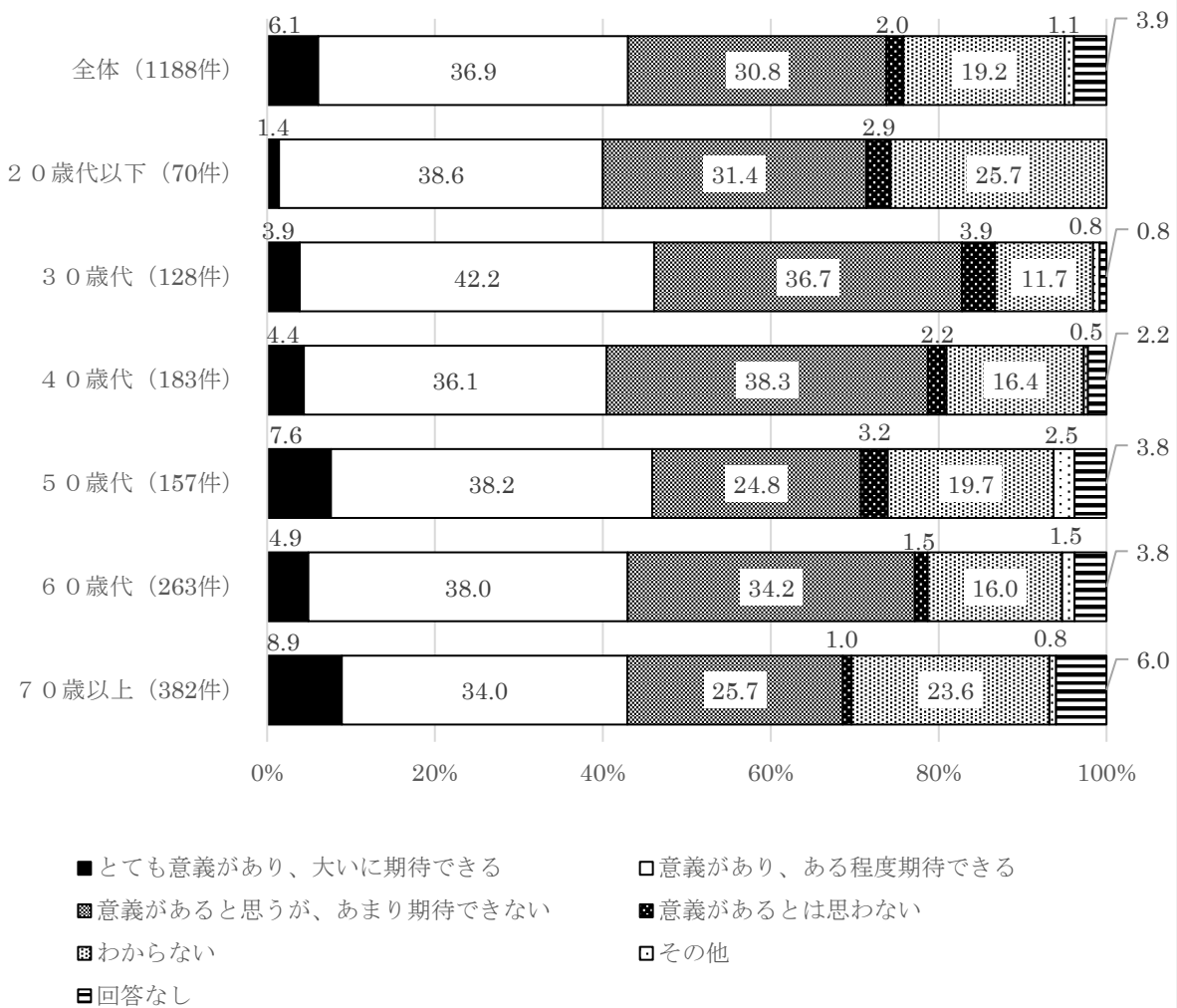
- 性別による有意な差はほとんどみられません(図23-①)。

図23-① 性別
「(仮称) 犬山市協働のまちづくり基本条例の意義」



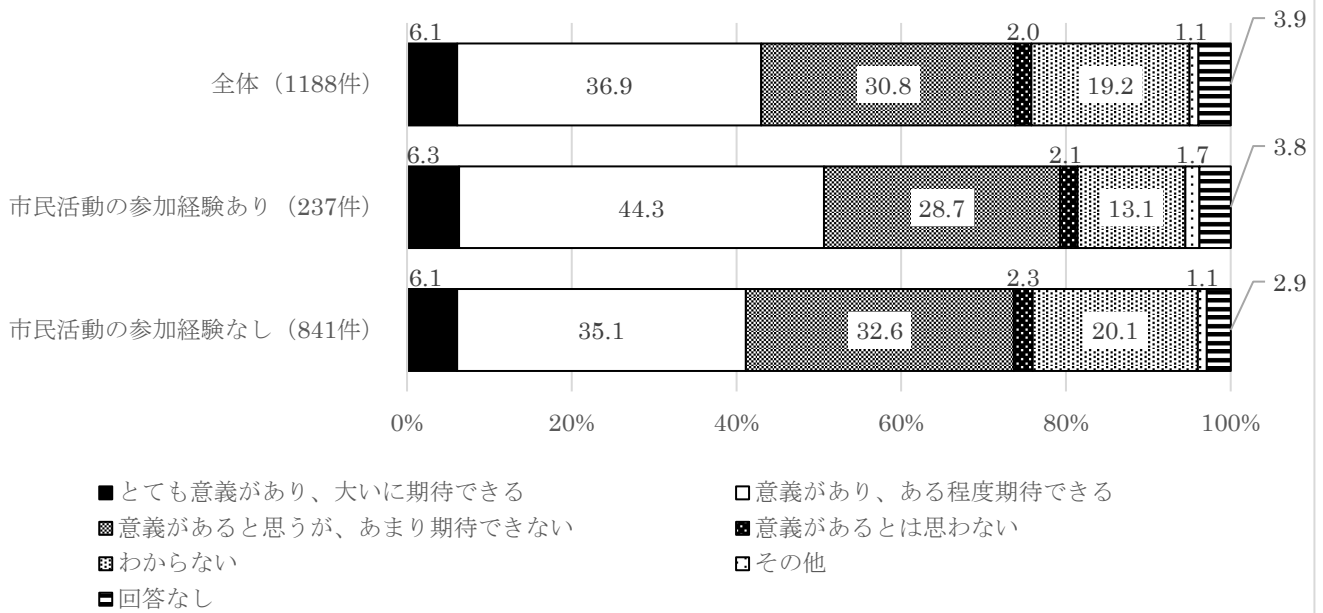
- 「とても意義があり、大いに期待できる」の割合は70歳以上（8.9%）がもっとも多くなっています（図23-②）。
- 「意義があり、ある程度期待できる」や「意義があると思うが、あまり期待できない」は各年齢層であまり大きな差がありません（図23-②）。
- 「わからない」の割合は20歳代以下（25.7%）がもっとも多くなっています（図23-②）。

図23-② 年齢別
「（仮称）犬山市協働のまちづくり基本条例の意義」



○自治基本条例、まちづくり基本条例、協働まちづくり条例の意義について、「市民活動の参加経験あり」の市民の50.6%が意義ありと回答しているのに対して、「市民活動の参加経験なし」の市民は41.2%となっています（図23-③）。

図23-③ 「（仮称）犬山市協働のまちづくり基本条例の意義
×市民活動の参加経験の有無」



条例に定める項目として重要な事項

問24 「協働まちづくり条例」や「まちづくり基本条例」、「自治基本条例」に類する条例に定める項目として、あなたが大切だと思う事項は何ですか（〇は3つまで）

要点

「まちづくりの方向性や将来像」がもっとも多くなっています。

全体

〇「まちづくりの方向性や将来像」が 51.9%でもっとも多く、次いで「町内会やコミュニティなどの地域活動（28.6%）」、「市政情報やまちづくり情報の公開・共有（28.3%）」、「市民の権利と役割と責務（21.8%）」となっています（図24-①）。

性別

〇性別による有意な差はほとんど見られません（図24-①）。

図24-① 性別「条例に定める項目として重要な事項」

	まちづくりの方向性や将来像	協働や自治の原則	市民の権利と役割と責務	市長や市職員の役割と責務	議会の役割と責務	協働のまちづくり	住民参加の手続き・しくみ・制度	町内会やコミュニティなどの地域活動	市政情報やまちづくり情報の公開・共有	計画的な市政運営（総合計画の位置づけなど）	行財政運営や行政評価	その他	回答なし
全体(1188件)	51.9	7.2	21.8	16.1	11.6	11.7	20.5	28.6	28.3	19.2	7.8	2.0	8.8
男性(479件)	59.1	7.5	23.2	17.5	13.2	11.5	21.3	28.6	28.8	19.6	9.8	1.9	6.1
女性(668件)	47.8	6.9	20.7	15.3	11.1	11.8	19.8	28.4	27.5	19.0	6.3	2.2	10.3

○条例に定める項目として重要な事項については、すべての年代において、「まちづくりの方向性や将来像」がもっとも多くなっています（図24-②）。

○その他にも、「町内会やコミュニティなどの地域活動」が60歳代（32.7%）、70歳以上（35.9%）で高い割合を示しています。一方で、「市政情報やまちづくり情報の公開・共有」が20歳代以下（28.6%）、30歳代（31.3%）、40歳代（30.1%）で比較的高い割合を示しています（図24-②）。

図24-② 年齢別「条例に定める項目として重要な事項」

	まちづくりの方向性や将来像	協働や自治の原則	市民の権利と役割と責務	市長や市職員の役割と責務	議会の役割と責務	協働のまちづくり	住民参加の手続き・しくみ・制度	町内会やコミュニティなどの地域活動	市政情報やまちづくり情報の公開・共有	計画的な市政運営（総合計画の位置づけなど	行財政運営や行政評価	その他	回答なし
全体(1188件)	51.9	7.2	21.8	16.1	11.6	11.7	20.5	28.6	28.3	19.2	7.8	2.0	8.8
20歳代以下(70件)	58.6	8.6	28.6	11.4	8.6	17.1	18.6	25.7	28.6	17.1	12.9	0.0	1.4
30歳代(128件)	48.4	2.3	25.0	14.8	9.4	16.4	24.2	27.3	31.3	20.3	13.3	1.6	1.6
40歳代(183件)	56.8	6.6	24.0	17.5	9.8	10.9	20.8	15.3	30.1	26.2	12.0	2.7	2.2
50歳代(157件)	56.7	10.2	19.7	15.9	10.8	12.7	25.5	22.9	22.9	17.8	5.1	2.5	7.6
60歳代(263件)	53.2	9.5	20.5	15.6	15.6	10.6	22.4	32.7	28.9	19.8	7.6	1.5	9.1
70歳以上(382件)	46.9	6.0	19.9	17.0	11.5	9.9	16.2	35.9	28.3	16.0	4.5	2.4	15.7

- 条例に定める項目として重要な事項としては、「まちづくりの方向性や将来像」が「市民活動の参加経験あり（52.7%）」、「市民活動の参加経験なし（54.1%）」の両方でもっとも多くなっています。（図24-③）。
- 「市民活動の参加経験あり」の市民は、次いで「町内会やコミュニティなどの地域活動（37.6%）」となっています（図24-③）。
- 「市民活動参加経験なし」の市民は、次いで「市政情報やまちづくり情報の公開・共有（30.8%）」となっています（図24-③）。

図24-③ 「条例に定める項目として重要な事項×市民活動の参加経験の有無」

	まちづくりの方向性や将来像	協働や自治の原則	市民の権利と役割と責務	市長や市職員の役割と責務	議会の役割と責務	協働のまちづくり	住民参加の手続き・しくみ・制度	町内会やコミュニティなどの地域活動	市政情報やまちづくり情報の公開・共有	計画的な市政運営（総合計画の位置づけなど	行財政運営や行政評価	その他	回答なし
全体(1188件)	51.9	7.2	21.8	16.1	11.6	11.7	20.5	28.6	28.3	19.2	7.8	2.0	8.8
市民活動の参加経験あり(237件)	52.7	11.4	29.5	16.5	13.1	9.3	23.6	37.6	21.9	16.0	8.0	1.7	7.6
市民活動の参加経験なし(841件)	54.1	6.5	20.1	16.6	11.3	12.1	20.1	25.9	30.8	20.1	8.1	2.3	7.1

F 市政への市民の意見の反映状況（市民参加）や市民協働について

市民意見の反映

問25 犬山市では、「市民の意見」が市政に十分に反映されていると思いますか（○は1つまで）

要点

市民意見が反映されていると思う市民は約 3.5 割、反映されていないと思う市民は約 6 割となっています。

全体

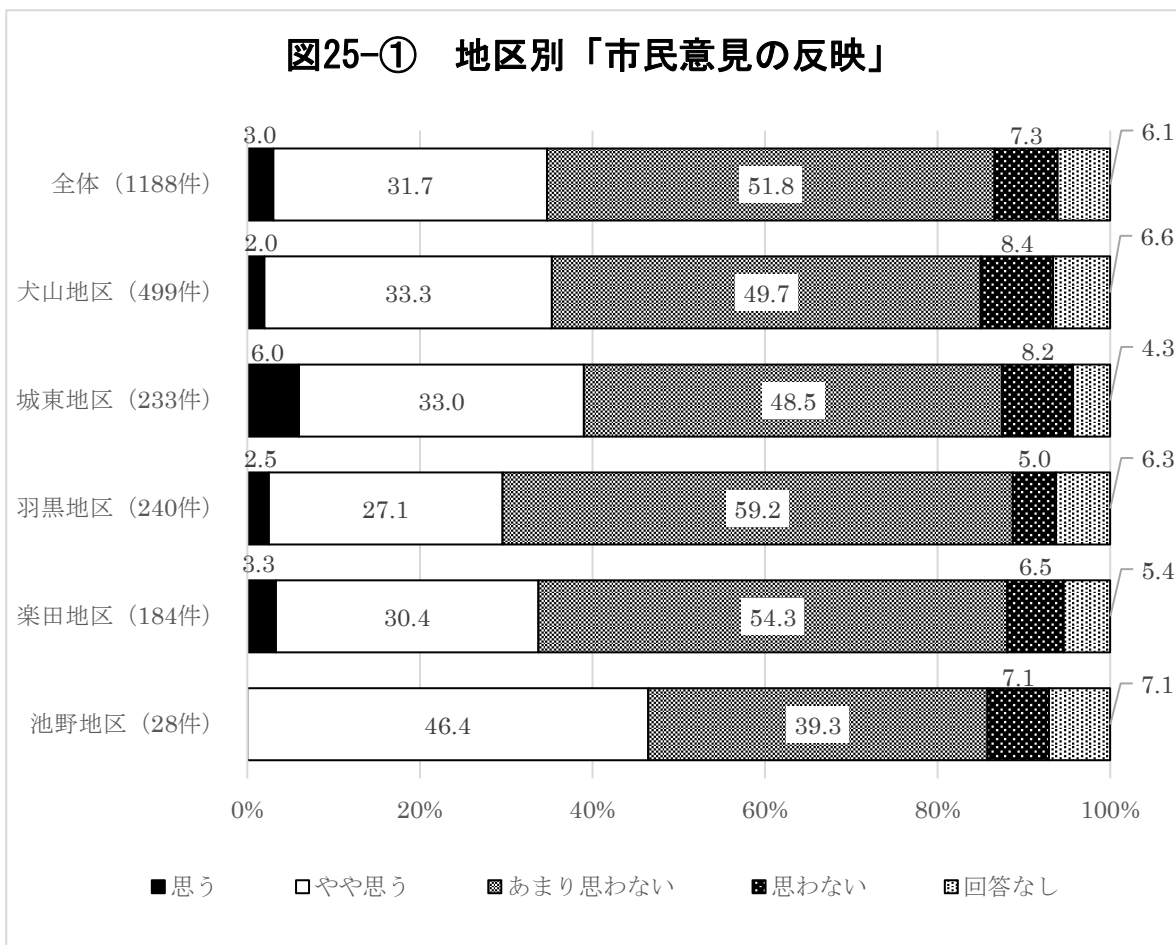
○「思う」と「やや思う」を合わせると 34.7%、「あまり思わない」と「思わない」を合わせると 59.1%となっています（図 25-①）。

地区別

○「思う」と「やや思う」を合わせると、「池野地区（46.4%）」がもっとも多く、ついで「城東地区（39.0%）」となっています（図 25-①）。

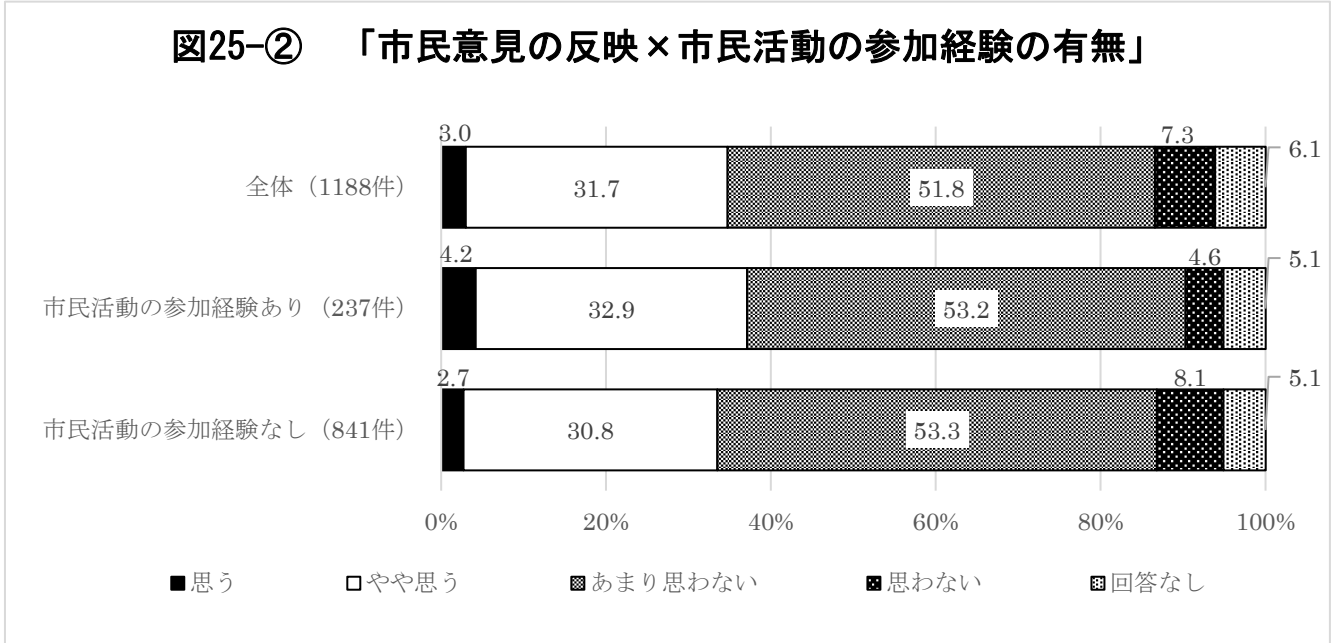
○「あまり思わない」と「思わない」を合わせると、「羽黒地区（64.2%）」がもっとも多くなっています（図 25-①）。

図25-① 地区別「市民意見の反映」



○市民意見の反映について、「思う」と「やや思う」を合わせた結果は、「市民活動参加経験あり (37.1%)」と「市民活動の参加経験なし (33.5%)」で大きな差はありません。(図 25-②)。

図25-② 「市民意見の反映×市民活動の参加経験の有無」



施策に意見を反映させる方法

問26 どのようにしたら、市の施策に「市民の意見」がよりよく反映されると思いますか。
(〇は1つまで)

要点

市民の意見を反映させる方法については、「市政に関する情報をわかりやすく提供する」がもっとも多くなっています。

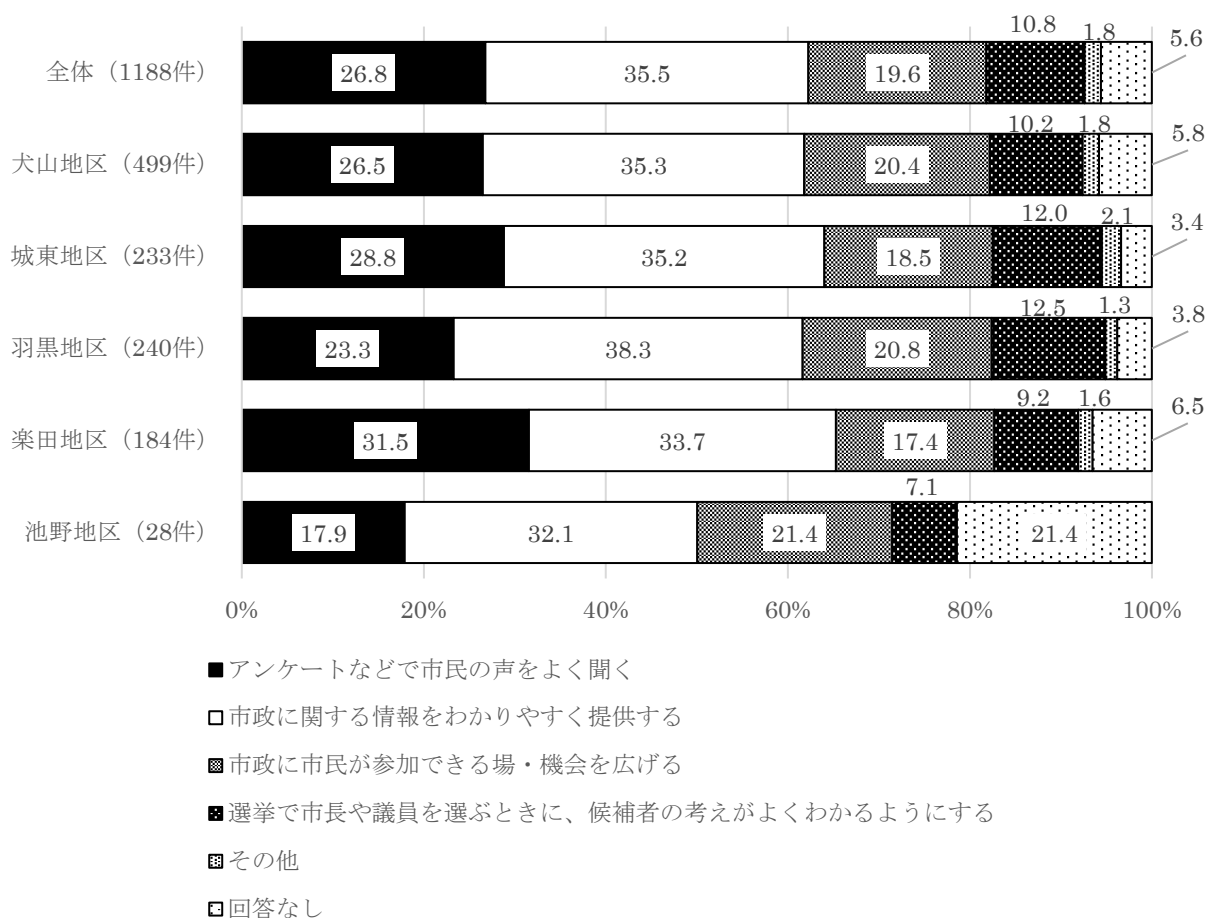
全体

〇市民の意見を反映させる方法については、「市政に関する情報をわかりやすく提供する (35.5%)」がもっとも多く、次いで「アンケートなどで市民の声をよく聞く (26.8%)」となっています (図26-①)。

地区別

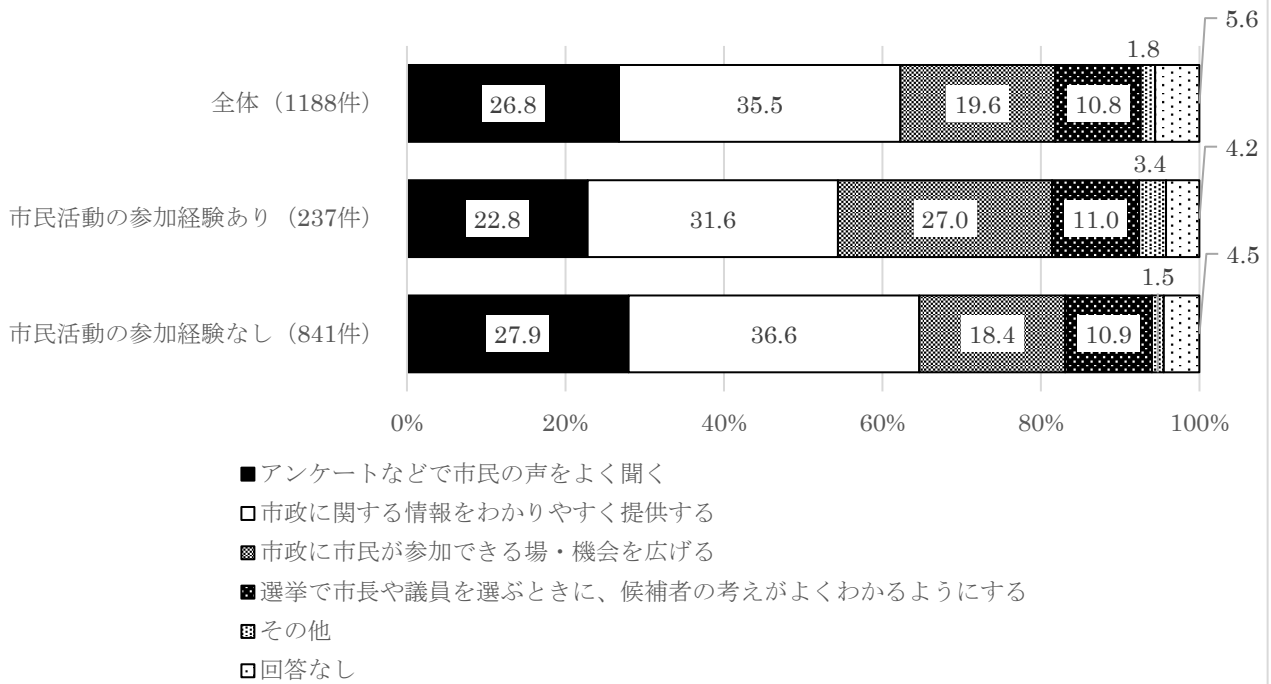
〇すべての地区において「市政に関する情報をわかりやすく提供する」がもっとも多い割合を示しています (図26-①)。
〇楽田地区は「アンケートなどで市民の声をよく聞く」についても 31.5%と比較的高い割合を示しています (図26-①)。

図26-① 地区別「施策に意見を反映させる方法」



- 施策に意見を反映させる方法について、「市民活動の参加経験あり」の市民は、「市政に関する情報をわかりやすく提供する（31.6%）」がもっとも多く、次いで「市政に参加できる場・機会を広げる（27.0%）」となっています（図26-②）。
- 一方、「市民活動の参加経験なし」の市民は、「市政に関する情報をわかりやすく提供する（36.6%）」がもっとも多い点は同じですが、次いで多いのが「アンケートなどで市民の声をよく聞く（27.9%）」となっています（図26-②）。

図26-② 「施策に意見を反映させる方法×市民活動の参加経験の有無」



市民参加の機会

問27 犬山市では、「市民参加の機会」が十分に用意されていると思いますか（○は1つまで）

要点

「あまり思わない」がもっとも多い割合を示しています。

全体

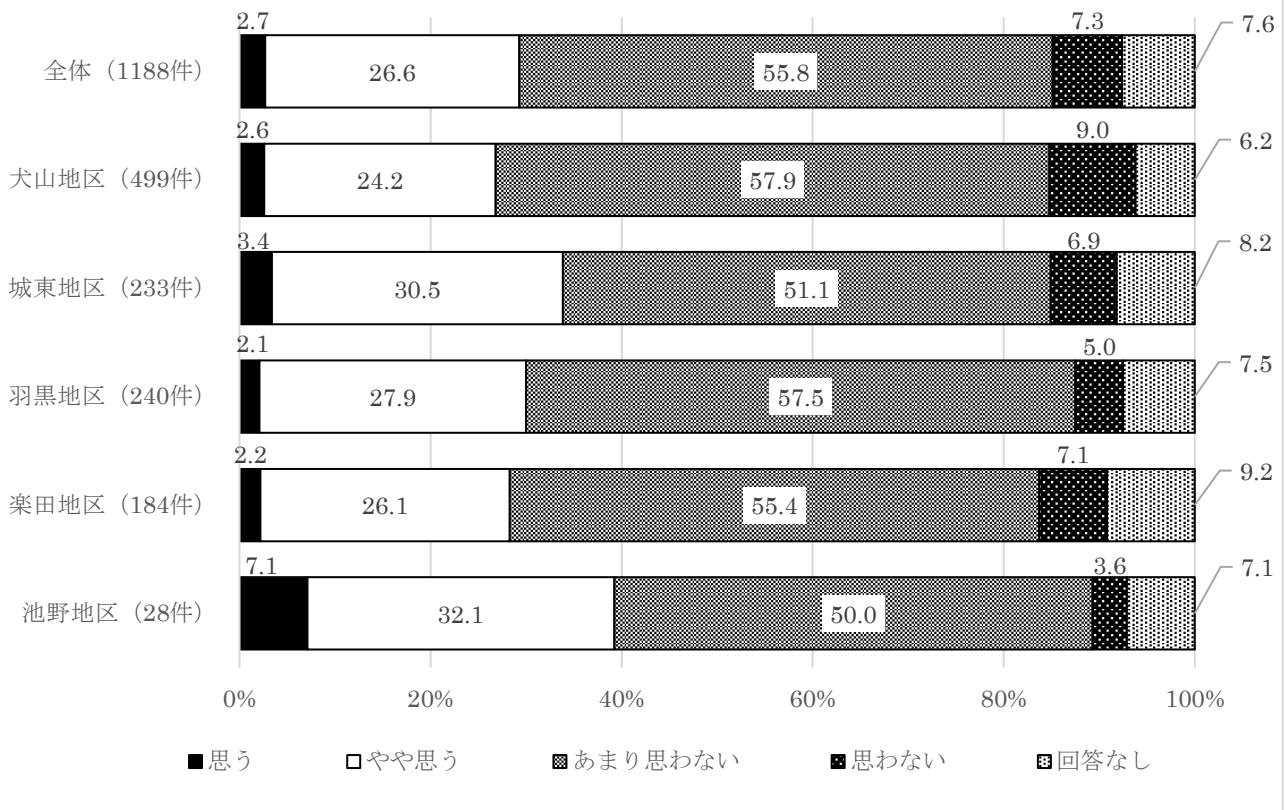
○市民参加の機会が十分用意されているかについて、「あまり思わない（55.8%）」がもっとも多く、次いで「やや思う（26.6%）」となっています（図27-①）。

地区別

○すべての地区において「あまり思わない」がもっとも多くなっています。

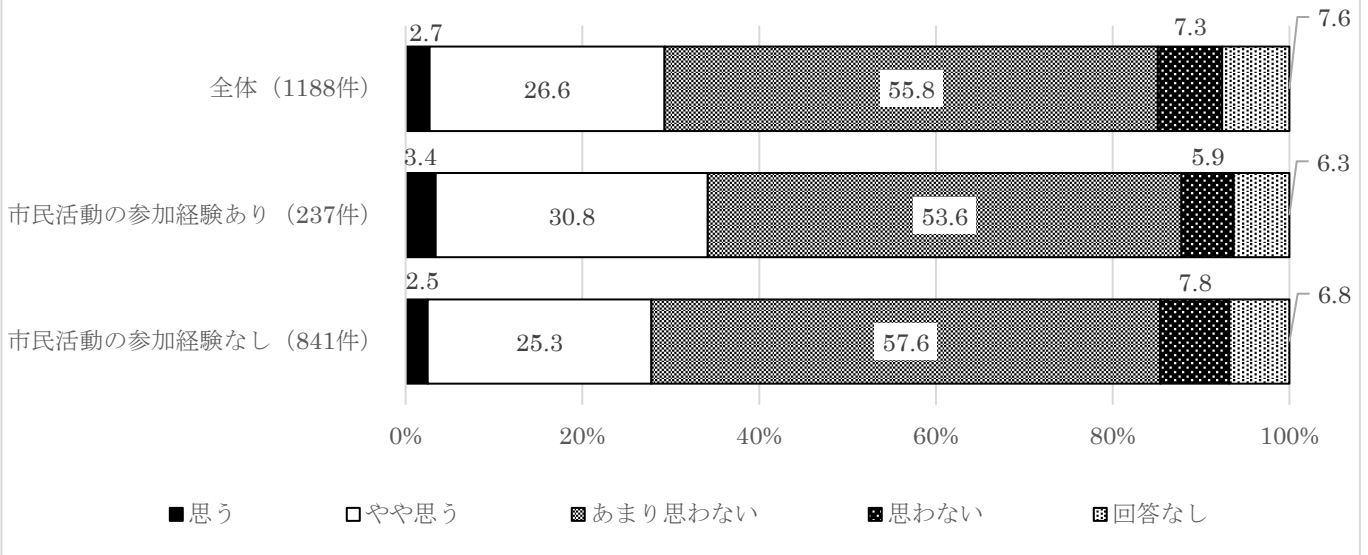
○「思う」と「やや思う」を合わせると、「池野地区（39.2%）」がもっとも多く、次いで「城東地区（33.9%）」となっています（図27-①）。

図27-① 地区別「市民参加の機会」



○市民参加の機会について、「思う」と「やや思う」を合わせた結果はそれぞれ「市民活動の参加経験あり（34.2%）」、「市民活動の参加経験なし（27.8%）」となっています（図27-②）。
○また「あまり思わない」と「思わない」を合わせた結果はそれぞれ「市民活動の参加経験あり（59.5%）」、「市民活動の参加経験なし（65.4%）」となっています（図27-②）。

図27-② 「市民参加の機会×市民活動の参加経験の有無」



市政への参加方法

問28 あなたは、どのような方法で市政に参加したことがありますか（〇はいくつでも）

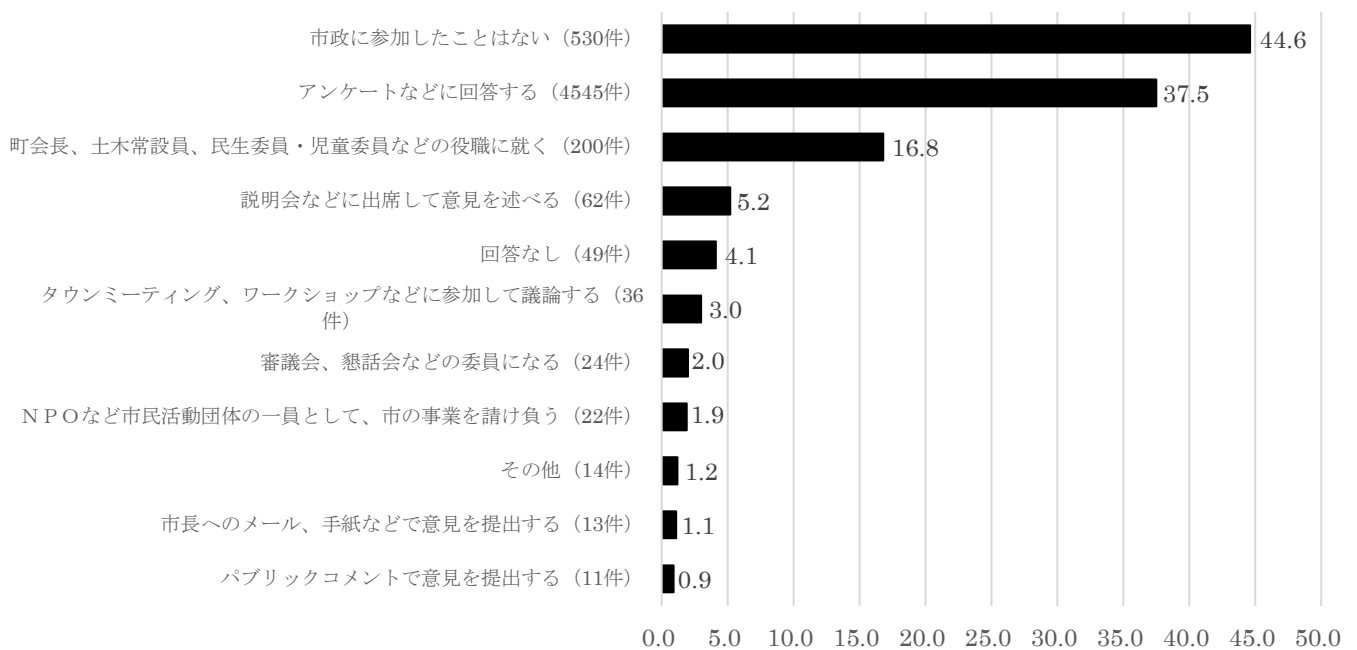
要点

5割近い市民が「市政に参加したことはない」と回答しています。

全体

〇市政への参加方法については、「市政に参加したことはない（44.6%）」がもっとも多く、次いで「アンケートなどに回答する（37.5%）」、「町会長、土木常設員、民生委員・児童委員などの役職に就く（16.8%）」となっています（図28-①）。

図28-① 「市政への参加方法」



○年齢による有意な差はほとんどみられません (図 28-②)。

図 28-② 年齢別「市政への参加方法」

	審議会、懇話会などの委員になる	児童委員などの役職に就く 町会長、土木常設員、民生委員・	説明会などに出席して意見を述べる	ショッピングなどに参加して議論する タウンミーティング、ワーク	アンケートなどに回答する	市長へのメール、手紙などで意見を提出する	パブリックコメントで意見を提出する	NPOなど市民活動を請け負う	その他	市政に参加したことはない	回答なし
全体(1188件)	2.0	16.8	5.2	3.0	37.5	1.1	0.9	1.9	1.2	44.6	4.1
20歳代以下(70件)	1.4	1.4	-	-	20.0	-	-	-	2.9	74.3	1.4
30歳代(128件)	0.8	3.1	0.8	1.6	39.1	-	-	0.8	-	56.3	0.8
40歳代(183件)	1.1	9.3	4.4	3.8	39.9	2.2	1.6	0.5	1.1	48.1	1.6
50歳代(157件)	1.3	11.5	6.4	4.5	40.1	2.5	1.3	3.2	-	47.8	2.5
60歳代(263件)	2.3	25.1	8.0	3.4	39.9	0.4	0.4	3.4	1.9	39.2	4.2
70歳以上(382件)	3.1	24.6	5.8	2.9	36.1	1.0	1.3	1.6	1.3	36.1	7.3

市政への今後の参加方法

問29 あなたはどのような方法で市政に参加したいと思いますか（〇はいくつでも）

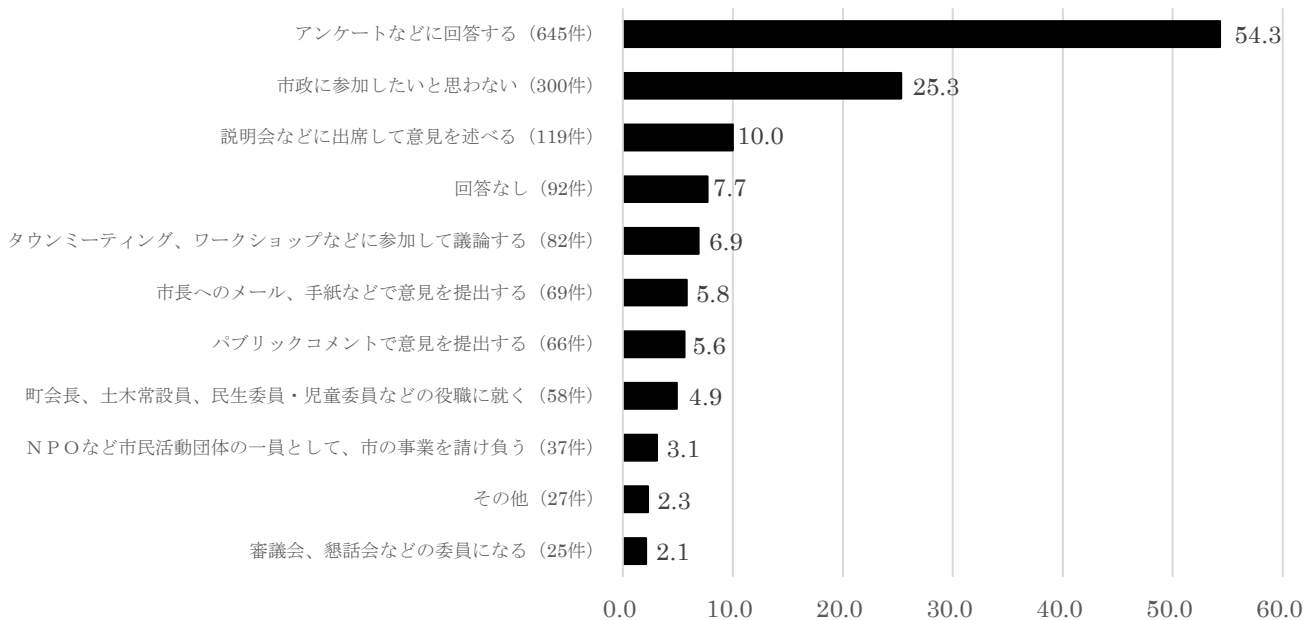
要点

「アンケートなどに回答する」と回答した市民が約5割となっています。

全体

〇どのような方法で市政に参加したいと思うかについて、「アンケートなどに回答する(54.3%)」がもっとも多く、次いで「市政に参加したいと思わない(25.3%)」、「説明会などに出席して意見を述べる(10.0%)」となっています(図29-①)。

図29-① 「市政への今後の参加方法」



○年齢による大きな差はなく、回答の上位2つまでは全ての年代で共通していますが、40歳代で「市長へのメール、手紙などで意見を提出する（13.1%）」の割合が他の年代と比べて高くなっています（図29-②）。

図29-② 年齢別「市政への今後の参加方法」

	審議会、懇話会などの委員になる	児童委員などの役職に就く 町会長、土木常設員、民生委員・	説明会などに出席して意見を述べる	タウンミーティング、ワークショップなどに参加して議論する	アンケートなどに回答する	市長へのメール、手紙などで意見を提出する	パブリックコメントで意見を提出する	NPOなど市民活動を請け負う	その他	市政に参加したいと思わない	回答なし
全体(1188件)	2.1	4.9	10.0	6.9	54.3	5.8	5.6	3.1	2.3	25.3	7.7
20歳代以下(70件)	2.9	1.4	1.4	5.7	55.7	4.3	7.1	2.9	2.9	32.9	1.4
30歳代(128件)	2.3	3.9	7.8	5.5	67.2	5.5	6.3	0.8	0.8	24.2	0.8
40歳代(183件)	1.6	3.3	8.7	8.7	63.9	13.1	8.2	2.7	2.7	20.2	2.7
50歳代(157件)	1.9	3.8	10.8	10.8	54.1	8.9	8.9	7.0	1.3	26.8	3.8
60歳代(263件)	2.7	9.1	11.0	8.0	50.2	5.3	4.6	3.8	1.1	26.2	10.3
70歳以上(382件)	1.8	4.2	11.8	4.5	47.9	1.8	3.1	2.1	3.7	25.4	13.4

協働によるまちづくりのために必要な施策・取組み

問30 「協働によるまちづくり」を推進するために、犬山市は、市民や地域へどのような施策・取組みを行う必要があると思いますか。(〇は3つまで)

要点

「市政に関する情報をわかりやすく提供する」ことが必要だと回答した市民がもっとも多くなっています。

全体

〇協働によるまちづくりのために必要な施策・取組みとして、「市政に関する情報をわかりやすく提供する (55.8%)」がもっとも多く、次いで「町内会などの地域団体と市役所との連携を強化する (26.3%)」、「まちづくりの活動に参加できる機会を提供する (25.8%)」となっています(図30-①)。

年齢別

- 〇すべての年代において「市政に関する情報をわかりやすく提供する」がもっとも多くなっています(図30-①)。
- 〇「まちづくりの活動に参加できる機会を提供する」は「20歳代以下 (28.6%)」と「30歳代 (30.5%)」、「50歳代 (31.8%)」において高い割合を示しています(図30-①)
- 〇「町内会などの地域団体とボランティア・NPO等との交流を推進する」は「40歳代 (27.3%)」、「60歳代 (27.4%)」、「70歳以上 (31.7%)」において高い割合を示しています(図30-①)。

図30-① 年齢別「協働によるまちづくりのために必要な施策・取組み」

	市政に関する情報をわかりやすく提供する	活動の拠点となる場所を提供する	会を提供する活動に参加できる機会	充実する活動団体に対して資金面の支援を	故への対応を確立する活動中の事	活動の評価を高めるなど、社会的	まちづくりや講習会など、人材育成の機会	町内会などの地域団体と市役所との連携を強化する	町内会・NPO等との交流を推進する	市民や地域のまちづくり活動に対する指導・助言を行うコーディネイ	ネットワーを育成・派遣する	協働に関する基本ルールや支援策	協働に対する市職員の意識を向上	その他	回答なし
全体(1188件)	55.8	14.3	25.8	13.6	9.3	7.3	19.9	26.3	6.3	9.5	5.8	14.9	2.3	9.6	
20歳代以下(70件)	50.0	18.6	28.6	24.3	15.7	17.1	12.9	11.4	10.0	7.1	8.6	8.6	0.0	4.3	
30歳代(128件)	56.3	20.3	30.5	14.1	5.5	9.4	20.3	22.7	2.3	10.2	7.8	11.7	3.9	4.7	
40歳代(183件)	57.4	15.3	26.8	16.4	5.5	7.7	16.9	27.3	7.7	12.6	6.6	19.1	2.7	2.7	
50歳代(157件)	58.0	14.0	31.8	12.1	12.1	3.8	23.6	19.7	3.2	10.2	5.7	11.5	5.1	7.6	
60歳代(263件)	55.1	14.4	27.0	12.2	11.4	5.3	23.6	27.4	5.7	9.5	4.9	19.0	0.8	9.9	
70歳以上(382件)	55.2	11.3	20.2	12.0	8.9	7.6	18.6	31.7	8.1	8.1	5.0	13.6	1.8	16.0	

- すべての地区において「市政に関する情報をわかりやすく提供する」がもっとも多くなっています（図 30-②）。
- 「まちづくりの活動に参加できる機会を提供する」は、「犬山地区（28.1%）」と「羽黒地区（27.1%）」において高い割合を示しており、「町内会などの地域団体とボランティア・NPO 等との交流を推進する」は「城東地区（31.8%）」、「楽田地区（27.7%）」、「池野地区（32.1%）」において高い割合を示しています（図 30-②）。

図 30-② 地区別「協働によるまちづくりのために必要な施策・取組み」

	提供に関する情報をわかりやすく	活動の拠点となる場所を提供する	機会を提供する活動に参加できる機会	充実する活動団体に対して資金面の支援を	ボランティアの対応を確立する	活動の評価を高める	まちづくりや講習会など、学習の機会	町内会などの地域団体と市役所との連携を強化する	町内会・NPO 等との交流を推進	市民や地域のまちづくり活動に対する指導・助言を行うコーディネーターを育成・派遣する	協働に関する基本ルールや支援策	協働に対する市職員の意識を向上	その他	回答なし
全体(1188件)	55.8	14.3	25.8	13.6	9.3	7.3	19.9	26.3	6.3	9.5	5.8	14.9	2.3	9.6
犬山地区(499件)	57.7	14.2	28.1	11.8	8.2	7.0	21.0	24.4	6.8	10.0	5.4	15.0	3.6	8.2
城東地区(233件)	59.7	15.5	22.7	14.2	10.7	8.6	19.7	31.8	5.6	9.4	6.4	12.9	1.3	7.7
羽黒地区(240件)	54.2	14.2	27.1	15.0	8.8	6.7	17.9	23.3	7.9	7.9	7.1	18.3	1.7	11.3
楽田地区(184件)	48.9	15.2	24.5	16.3	12.0	7.1	20.1	27.7	4.9	10.3	4.3	13.6	0.5	12.0
池野地区(28件)	57.1	3.6	7.1	14.3	7.1	10.7	14.3	32.1	0.0	10.7	7.1	10.7	0.0	14.3

○協働によるまちづくりのために必要な施策・取組みについては、「市政に関する情報をわかりやすく提供する」が「市民活動の参加経験あり(53.2%)」、「市民活動の参加経験なし(57.3%)」の両者においてもっとも多くなっています(図30-③)。

図30-③ 「協働によるまちづくりのために必要な施策・取組み
×市民活動の参加経験の有無」

	提供に関する情報をわかりやすく	活動の拠点となる場所を提供する	会を提供する活動に参加できる機会	充実する活動団体に対して資金面の支援を	故への対応を確立するボランティア保険など活動中の事	活動の評価を高める活動に対して表彰するなど、社会的	まちづくりや講習会など、学習の機会を充実させる	町内会などの地域団体と市役所との連携を強化する	町内会などの地域団体とボランティア・NPO等との交流を推進する	市民や地域のまちづくり活動に対する指導・助言を行うコーディネート	ネットワークを育成・派遣する	協働に関する基本ルールや支援策	などを定めた条例を制定する	協働に対する市職員の意識を向上させる	その他	回答なし
全体(1188件)	55.8	14.3	25.8	13.6	9.3	7.3	19.9	26.3	6.3	9.5	5.8	14.9	2.3	9.6		
市民活動の参加経験あり(237件)	53.2	15.6	25.3	21.9	8.4	7.2	23.6	31.6	9.7	12.7	5.9	16.9	1.3	7.6		
市民活動の参加経験なし(841件)	57.3	14.7	26.2	12.4	9.8	7.6	19.5	24.4	5.8	9.2	6.3	14.9	2.9	8.0		

G 市政に関する情報発信について

市政情報を得るための手段

問31 あなたは、市政に関する情報を得るために、以下のそれぞれについてどの程度利用したことがありますか（①～⑦それぞれについて○は1つまで）

要点

市政情報を得るための手段としては、「広報犬山」がもっとも利用されていることがわかります。

全体

○市政情報を得るための手段として、「よくある」と「時々ある」を合わせると「広報犬山(84.4%)」がもっとも多く、ついで「市議会だより(52.5%)」、「新聞(44.7%)」となっています(図31-①、図31-④、図31-⑦)。

年齢別

○すべての年代において、市政情報を得るために利用する手段として「よくある」と回答した割合がもっとも多かったのは「広報犬山」となっています(図31-①)。
○一方、すべての年代において「市公式 SNS」については、「ない」と回答した割合が多くなっています(図31-③)。
○市のホームページについては、30歳代、40歳代の利用率が高くなっています。
○市議会だよりについては、年齢が上がるにつれて「よくある」と回答した市民の割合が増えています。

図31-① 年齢別「広報犬山」

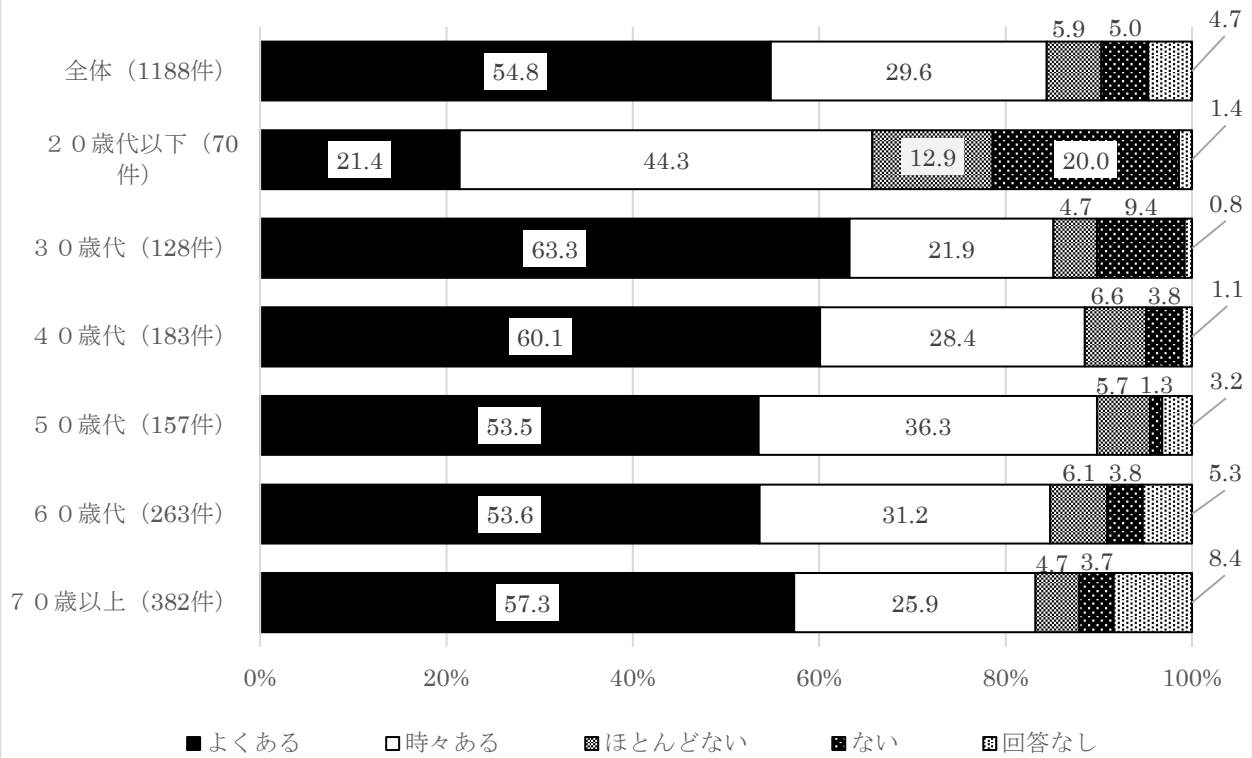


図31-② 年齢別「市のホームページ」

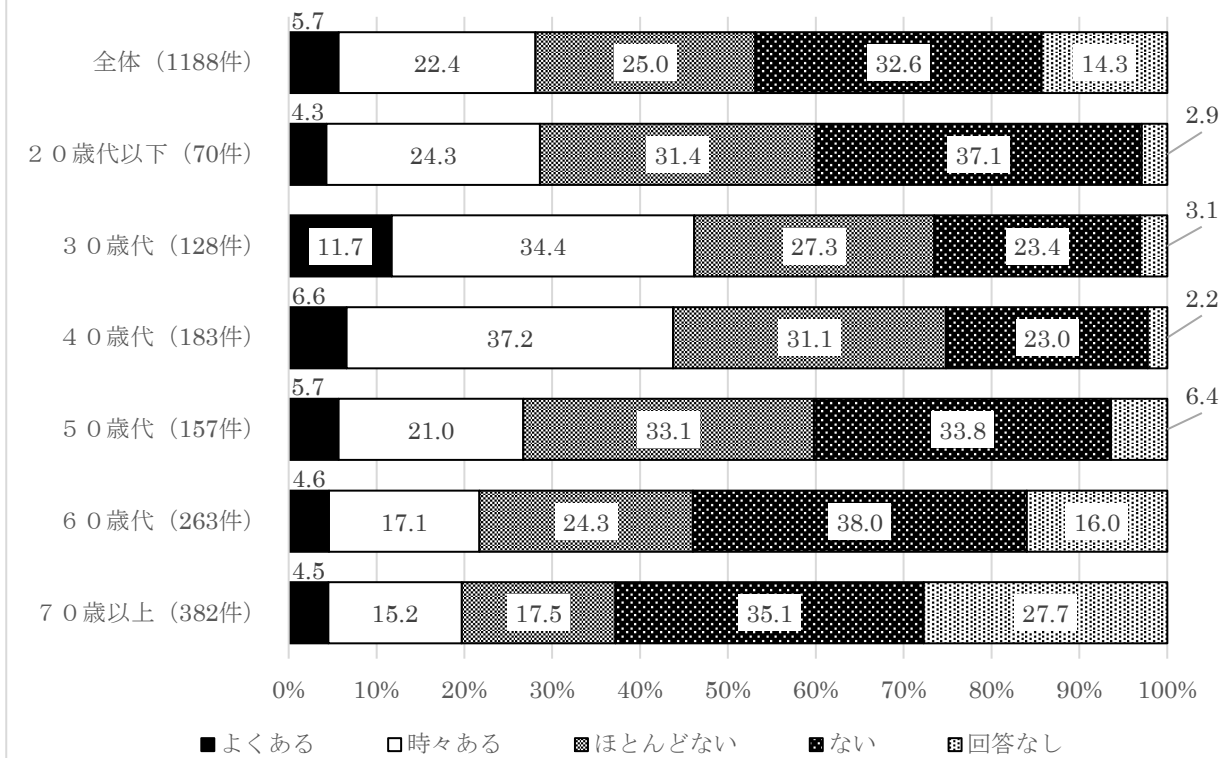


図31-③ 年齢別「SNS(市公式フェイスブック、市公式ツイッター)」

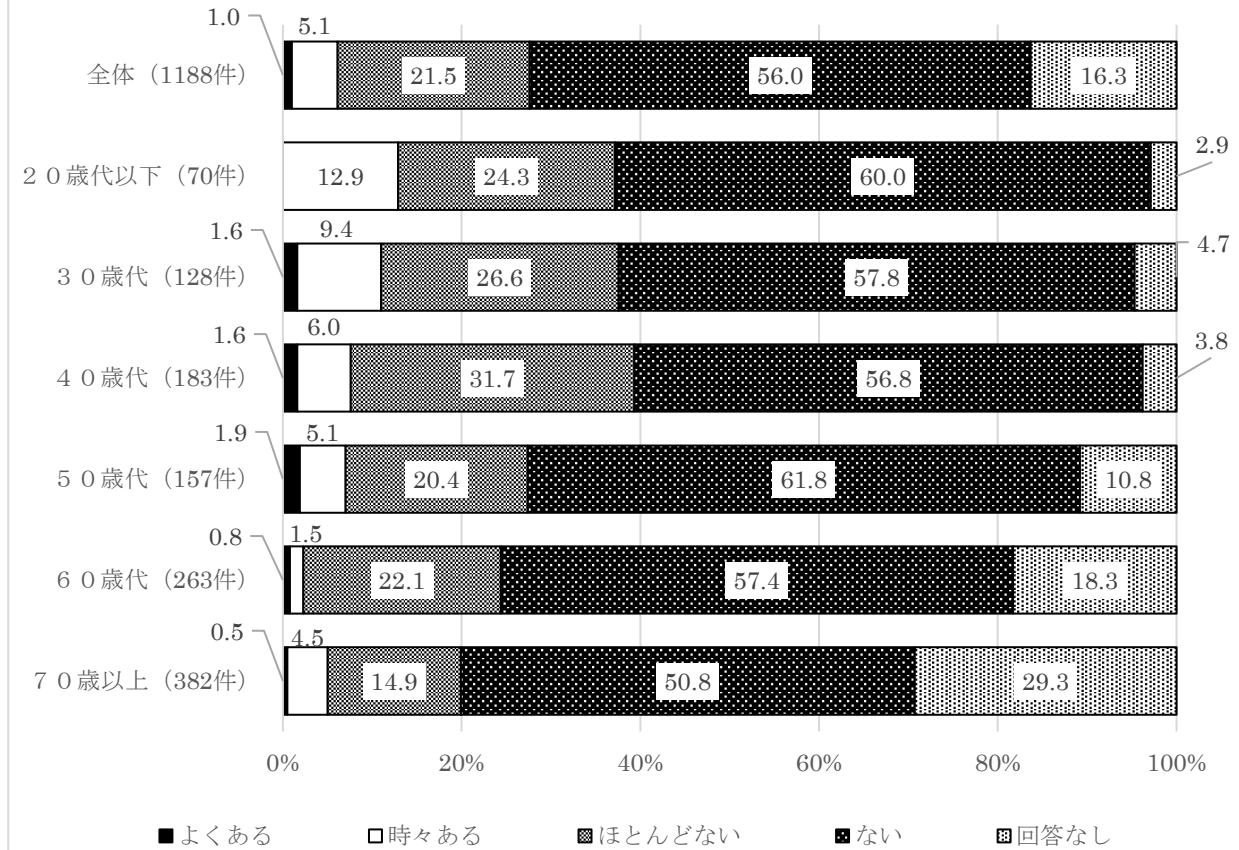


図31-④ 年齢別「市議会だより」

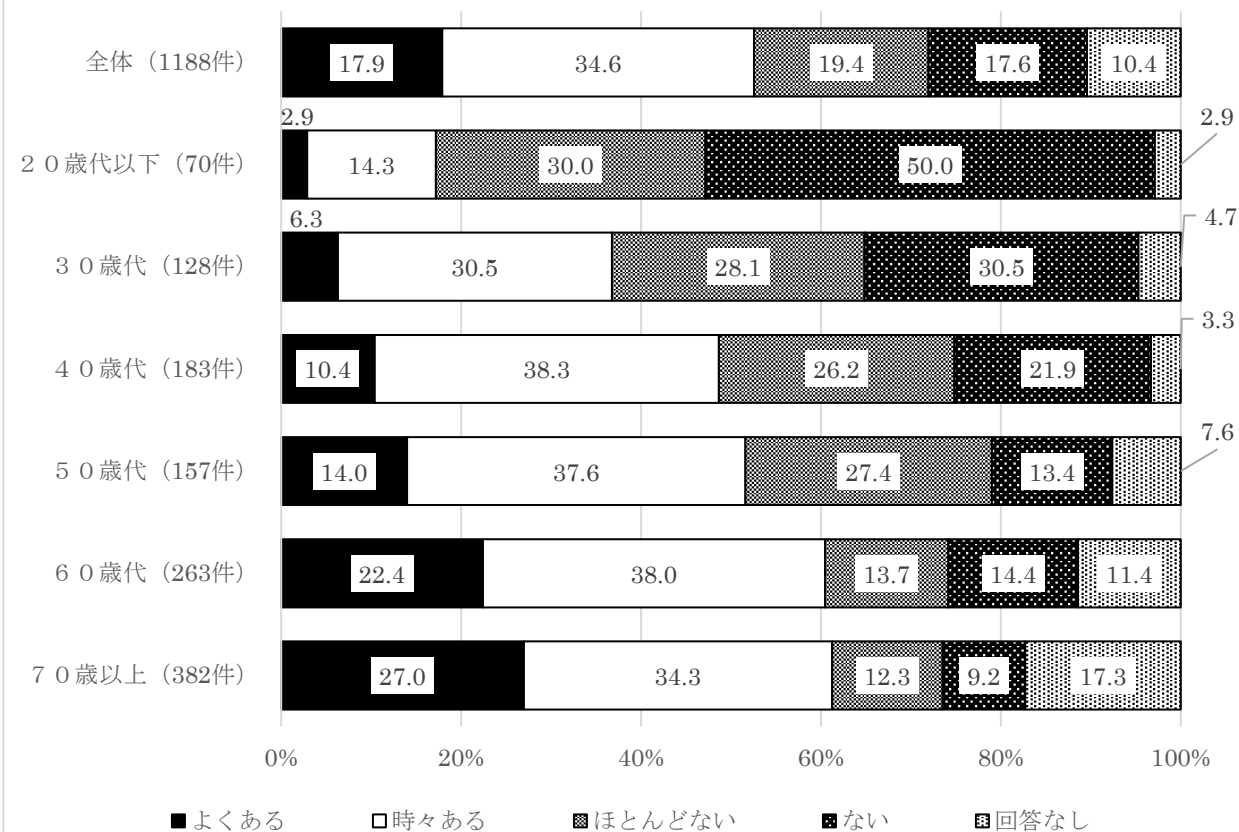


図31-⑤ 年齢別「議会の傍聴（インターネット配信含む）」

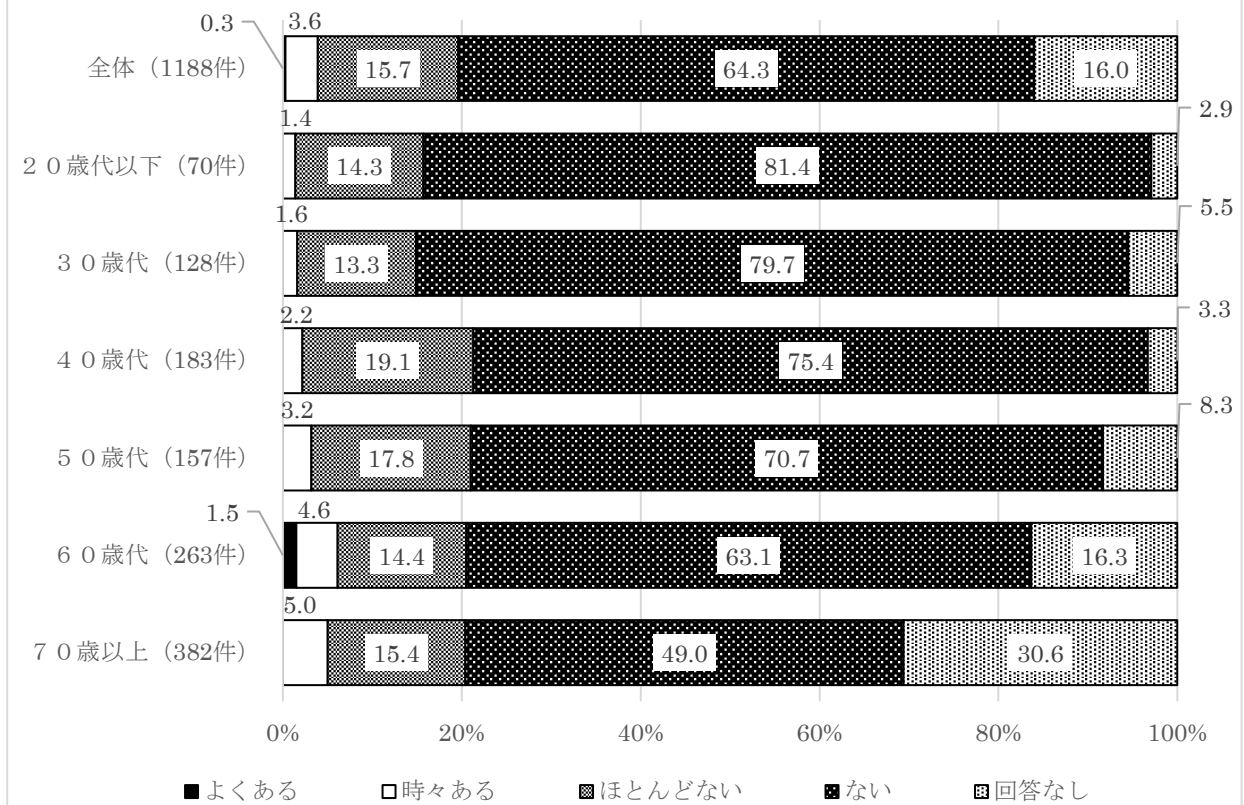


図31-⑥ 年齢別「テレビ」

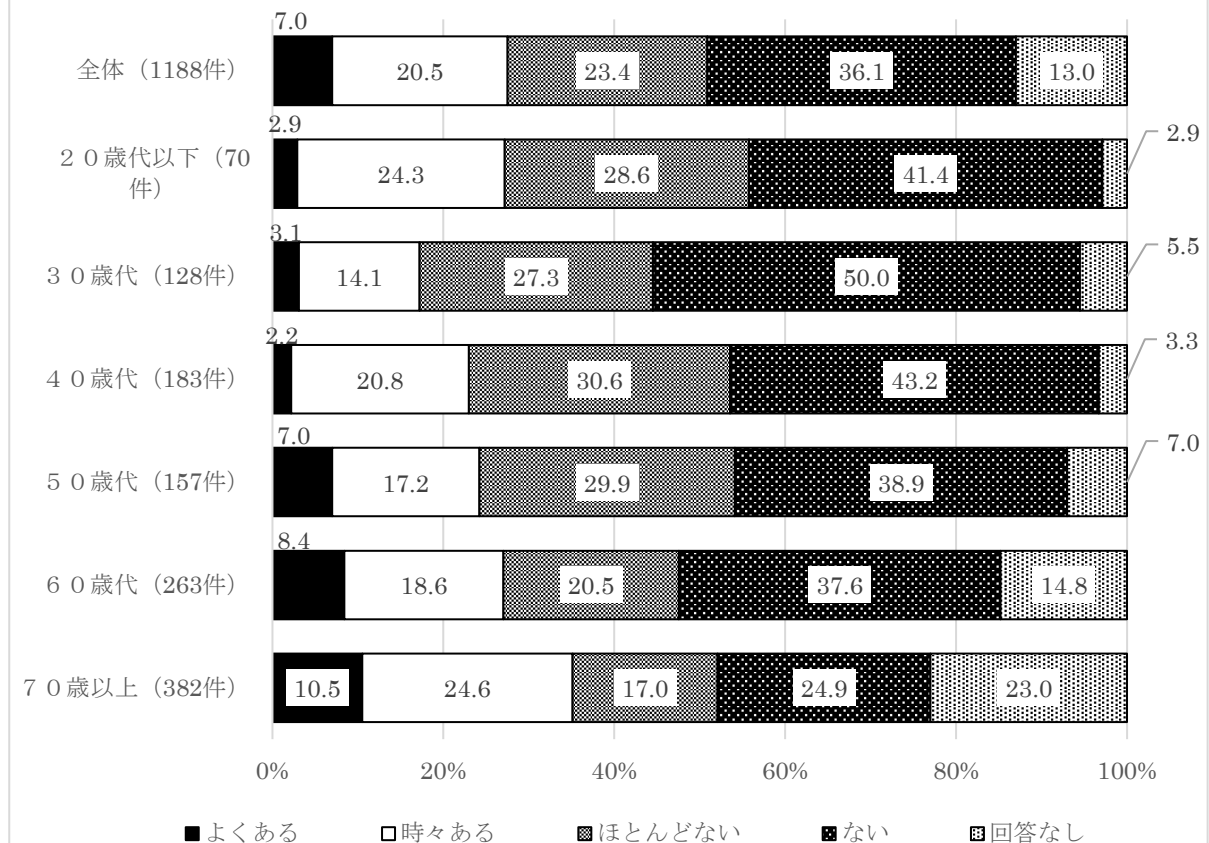
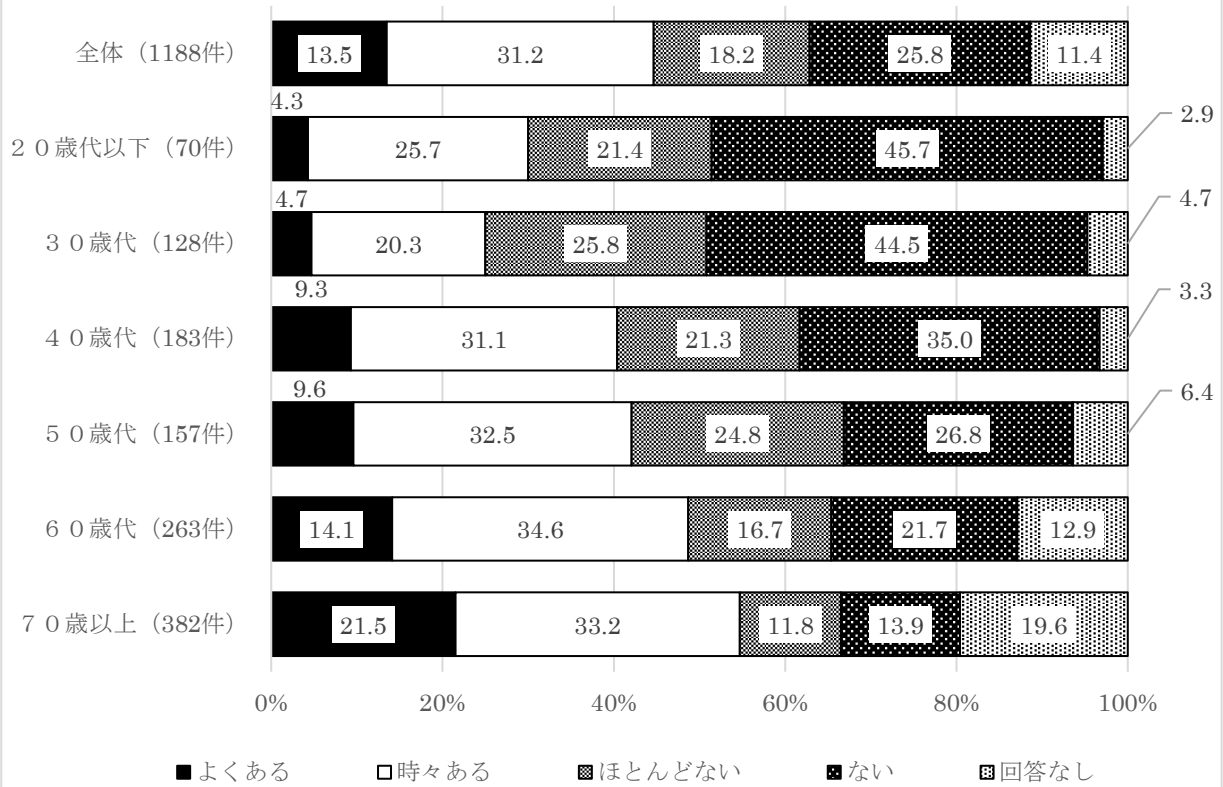


図31-⑦ 年齢別「新聞」



広報犬山の今後のあり方

問32 広報の発行回数と情報量についてあなたの考えに最も近いものを選んでください。

(○は1つまで)

要点

「月2回発行で現状どおりでよい」が5割を超えています。

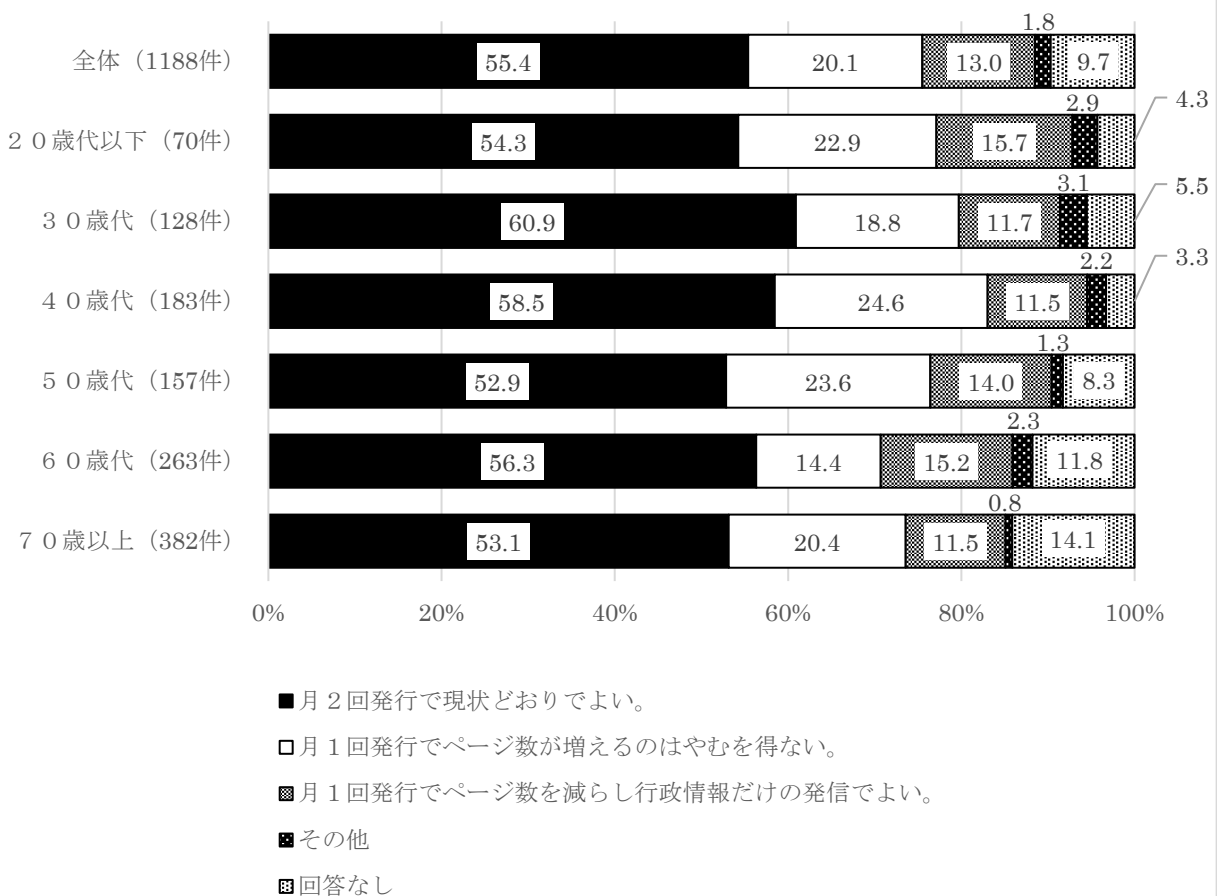
全体

○「月2回発行で現状どおりでよい (55.4%)」がもっとも多く、次いで「月1回発行でページ数が増えるのはやむを得ない (20.1%)」となっています (図32-①)。

年齢別

○広報犬山の今後のあり方については、すべての年代において「月2回発行で現状どおりでよい」がもっとも多い割合を示しています (図32-①)。

図32-① 年齢別「広報犬山の今後のあり方」



情報を受け取るための機器の保有状況

問33 あなたは情報を受け取るために必要な以下の機器をお持ちですか。

(①～④それぞれについて○は1つまで)

要点

情報を受け取るための電子機器として市民がもっとも保有しているのは「パソコン」であり、6割以上の方が持っています。

全体

○情報を受け取るための電子機器として、市民が「持っている」と回答した割合がもっとも高いのは「パソコン (64.5%)」で、次いで「スマートフォン (54.2%)」となっています (図33-①、図33-③)。

○一方、市民が「持っている」と回答した割合がもっとも低いのは「タブレット (24.2%)」となっています。(図33-④)。

年齢別

○スマートフォンについては、「20歳代以下 (97.1%)」、「30歳代 (93.8%)」の9割以上が「持っている」と回答したのに対して、「70歳以上 (19.4%)」は2割以下に留まっています (図33-③)。

図33-① 年齢別「パソコン」

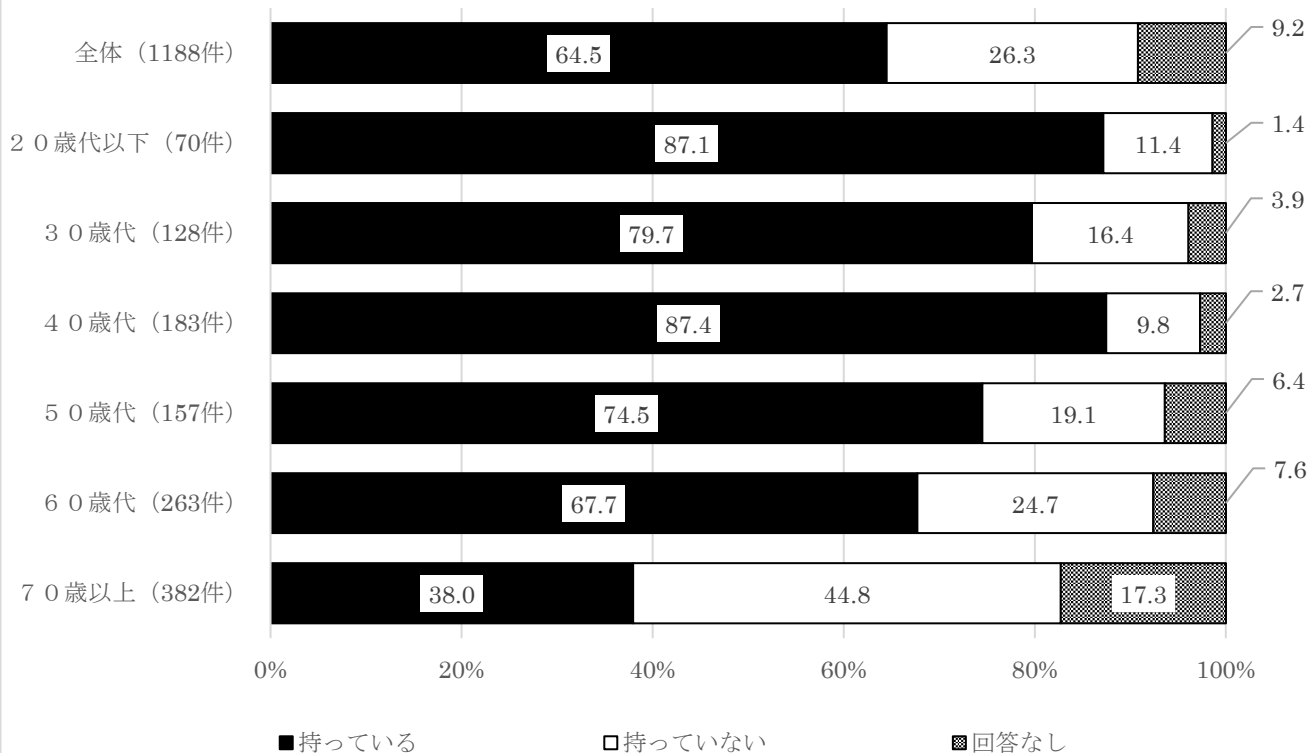


図33-② 年齢別「携帯電話（スマートフォン以外）」

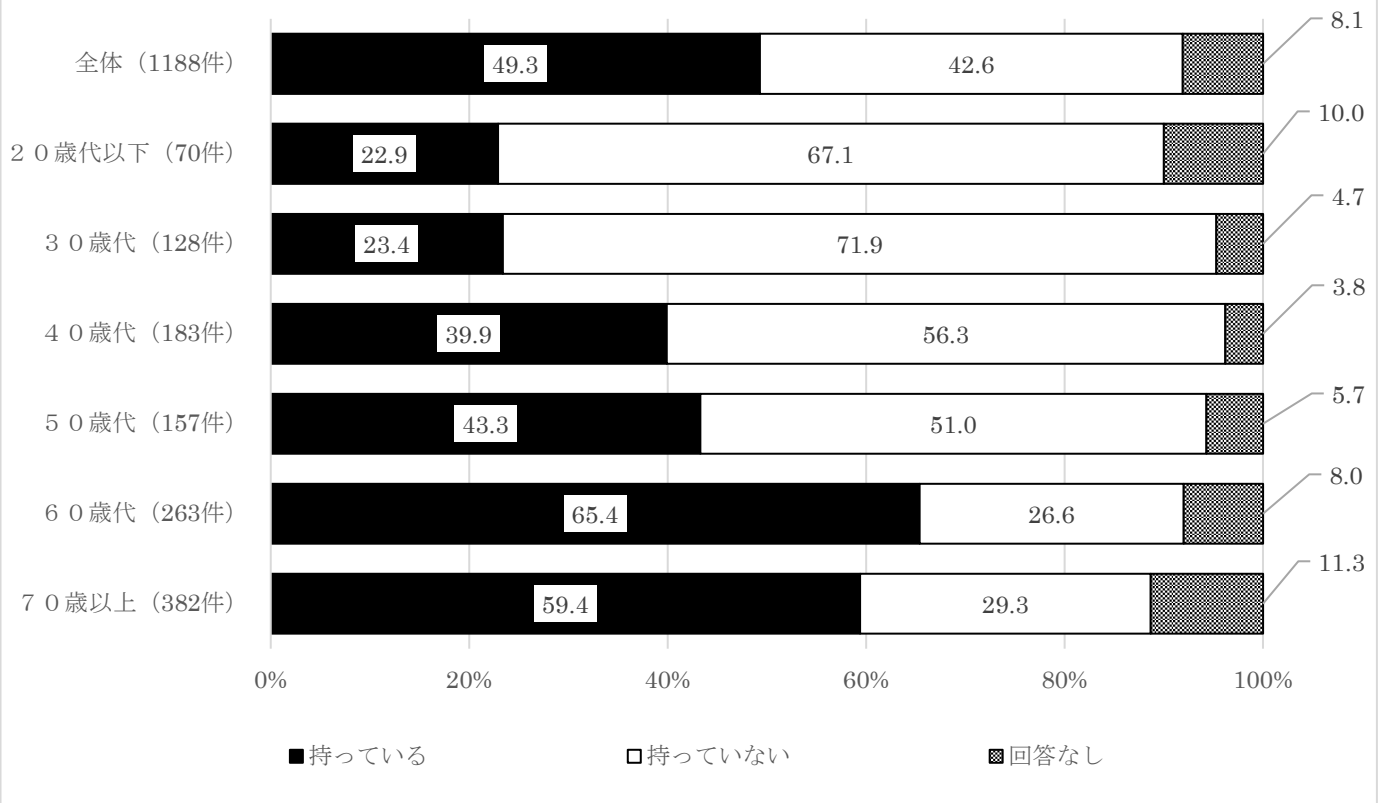


図33-③ 年齢別「スマートフォン」

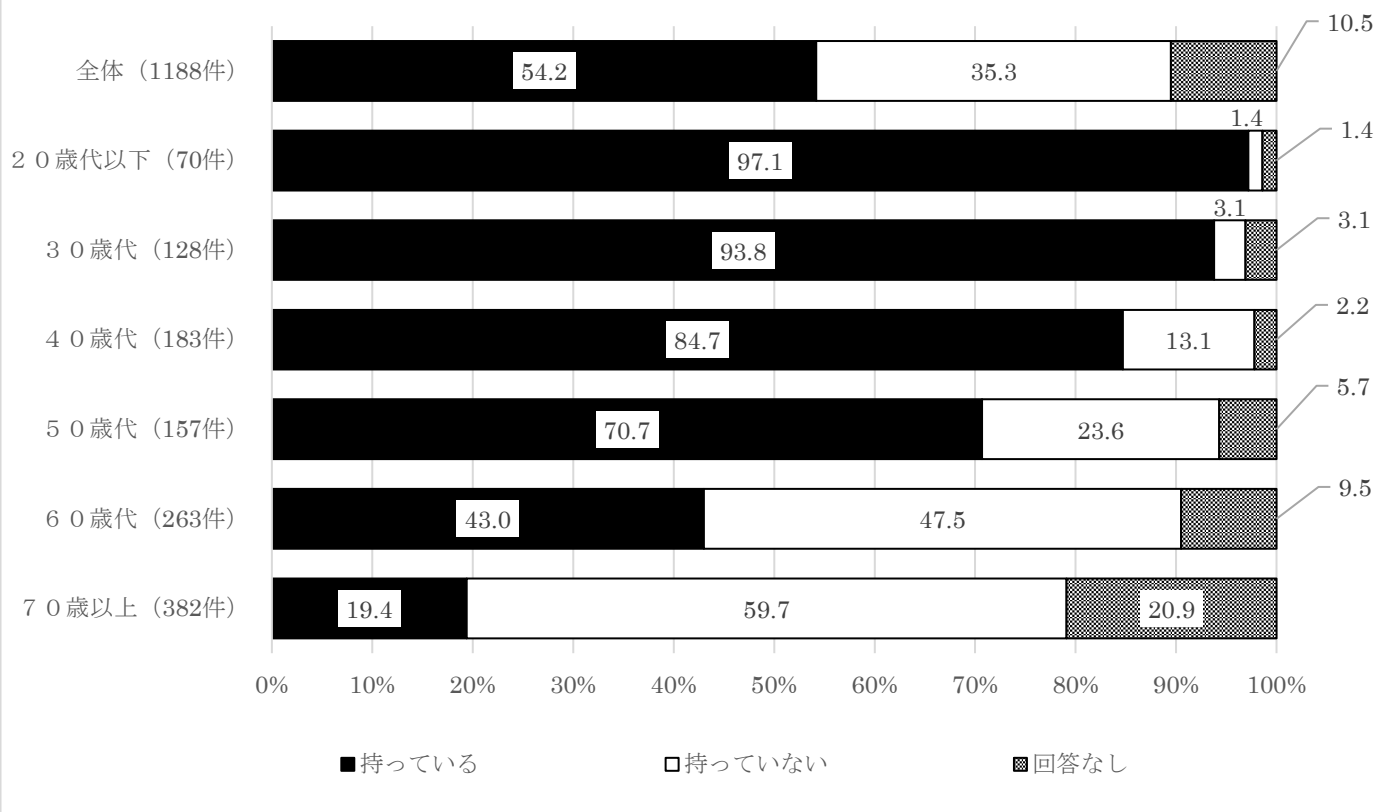


図33-④ 年齢別「タブレット」

